

# 第12回RYLAセミナー報告



ENJOY ROTARY



# もくじ

発刊によせて

ライラセミナー開催にあたって

橋本憲佳……………1

第12回 R Y L A を終って

飯尾精……………3

第12回 R Y L A を終えて

安平和彦……………5

セミナースケジュール

講演

地域社会と青少年

田中國夫……………8

青少年の理解

美崎教正……………13

国際社会と青少年

新野幸次郎……………33

フォーラム(パズセッションより)

参加者感想文

生活の断片

あとがき

古谷武雄……………119

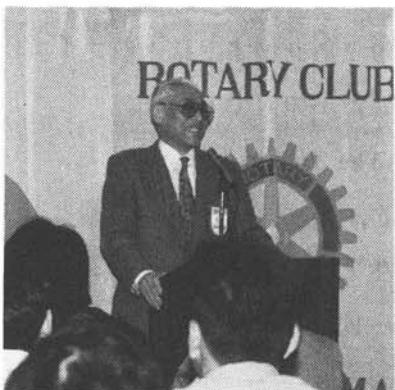


# 発刊によせて





## ライラセミナー開催にあたって



R I 第267地区ガバナー

橋 本 憲 佳

皆さん今日は、ライラへようこそ。この大自然に恵まれた余島で今日から4日間、四国地区から39名、神戸地区から38名、計77名の青年淑女の諸君が相集い、これからライラセミナーが開催されようとしております。

この、ライラとか、ロータリー等については、すでにお手元に配付されている資料をお読み頂ければ、ある程度お分りと思いますので、ここでは割愛させて頂きます。

さて、今ここで、私が申し上げるまでもなく、昨年の秋、東欧諸国に、そののろしが上がった民主化運動は、将に燎原の火の如く、瞬く間に周辺諸国へと燃え広がり、急速な勢いで東ヨーロッパの地図を大きく塗り替えようとしております。嘗て経験する事のなかった、これら東欧諸国での激変、これらの国々で、今現在、どのような大変革が行われているか、恐らく何人にも予測もつかない大変なことが起こっているのだろうと思います。

さあ、皆さん。どうでしょう。21世紀はもう直ぐそこまで来ているのです。1990年の、この激動の真直中にあってこそ、我々はこのような大自然の中にあって、しばし、俗世間を離れ、お互い、目的を同じくして集まって来た仲間同志で、共に語らい、共に遊び、そして、ゆっくりと、この自分というものを見つめ直してみてはどうでしょう。

自分はいま、『何故』ここにいるのか。自分は『何の為に』この世に生を受けてきたのか。そして、自分は、『今後どのように』生きて行くべきなのかをここら辺で一つ、じっくりと考えて見ては如何でしょう。

アメリカ第16代大統領エイブラハム・リンカーンの、あの有名な、ゲディスバーグ・アドレス “Government of the people, by the people, for the people” 申すまでもなく、民主主義の根本を表わす名句であります。我々のライラのために、これをもじって、こんな風にしてみましたか如何でしょう。

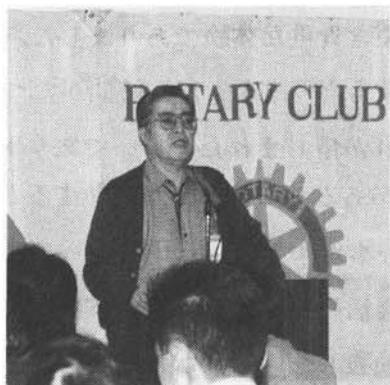
“RYLA of the youths, by the youths, for the youths” と。

今年は、ディーンの安平先生のご指導の下、メインテーマの講師として、神戸の方から、田中先生、美崎先生、新野先生と、お三人の先生方をお迎えできましたことは、このライラセミナー参加者一同にとりまして、この上なく幸いなことであります、有難い事であります。

では諸君。これから約4日間。よく学び、よく遊び、青春の一駒を、稔りのある、そして、生涯忘れ得ない、ライラセミナーとなりますよう願って止まないものであります。

お礼が前後致しましたが、今回のライラ開催に当たりまして大変お世話を頂きました、第268地区並びに第267地区の運営委員の皆様方、そして、小豆島RCの係りの方々に対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。以上、甚だ簡単でありますが、ライラのご成功を祈念致しまして私のご挨拶と致します。

## 第12回 R Y L A を終って



国際ロータリー第268地区

ガバナー 飯 尾 精

1990年3月29日から4月1日まで、神戸Y M C A余島野外活動センターで行われましたR I 第267地区・第268地区合同のロータリー青少年指導者養成プログラムも、今年で第12回を数えますが、今回も格調高い講師先生方の情熱溢れる講義と、四国4県、兵庫県下から選ばれて、将来更によりよき指導者を目指す若い大勢の男女諸君の参加を得て無事に終了をみました。

ロータリーでは、まず知り合いを広め、自分の職業を高め、他人に対する思いやり、他人のために尽くすという奉仕の理想を日常生活の内外で実行し、やがて国際間の理解と親善、世界の平和を推進することを綱領にうたっていろいろの事業を行っておりますが、このR Y L Aセミナーもその一つであります。

本年度アーチャーR I会長も地域社会の青少年が自己の生活を楽しみ、地域社会で行動する人間としての充実感を味わい、住みよい地域社会になるよう努力してほしいと申しております。

今私共は、素晴らしい社会造りと、恒久的な世界平和を目指してロータリー活動を行っていますが、それには長い時間と絶え間のない奉仕活動が必要であります。

そういう意味で私共は今その基礎造りを行って、やがて来るべき21世紀を担う若人にバトンタッチが出来るよう3泊4日のセミナーを催し、皆さんにはロータリーアンと共に共同生活のキャンプを行って、相共に語り、相共に勉強をして頂いた訳であります。

私の所属する赤穂R Cから推薦されて参加した栗井剛君は41歳で、年長者の

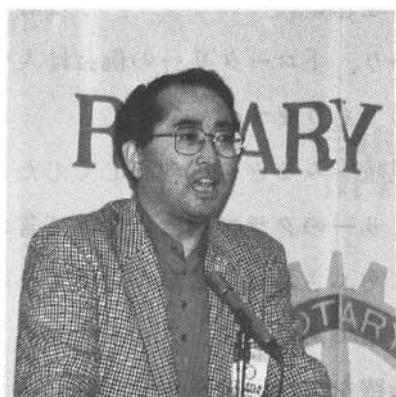
1人でありましたが、終了後の感想では『今までいろいろのセミナーにも参加しましたが、今迄の研修会とは全く違って固定観念からは考えられない楽しい、しかもリーダーとしての勉強も充分にさせて頂き貴重な体験がありました。自分は最年長でありましたから、最初は聊か抵抗もありましたが、時間がたつにつれて若い人の中にとけこんで、最後には別れが惜しまれたくらいであります。自分は子供会活動をしていますが、地域があるから子供会も活動するという観念であったのが、若い人々から何故そんな事をするのだという違った考え方をぶつけられた時、自分のやってきた子供会活動をふり返って、何故地域活動をやっているのだろうかという点を一から勉強しなければならないということの認識をあらたにした。』と語っておりました。

このように、これから日本を担うリーダーの皆さん、このRYLA参加によって、「青少年の理解」「地域社会と青少年」、或いは「国際社会と青少年」という三つのテーマについて、いろいろの知識を得られ、今後の青少年問題を考え、また「一期一会」今迄知らなかった人々が知り合いとなり、心を開いて語り合い、親睦と友情で結ばれ、お互いを理解し合い、学び合うことが出来たということは、本当に素晴らしい事と思います。

どうか皆さんは、このRYLAで得た親睦と友情をいつまでも大切に、時々刻々に移りゆく世界の変革にも対処して、素晴らしい人生を歩むと共に、それぞれの分野に於いて青少年の指導にご活躍下さいますよう期待致す次第であります。

最後にご多忙の中を態々ご来駕を頂きました講師の先生方、セミナーディーンを始めカウンセラーの方々および267・268地区の関係役員の皆さん、またなにかとお世話頂きました地元小豆島RCの皆さん、YMCAYA余島野外センターの方々のご協力に対し深く感謝いたします。

## 第12回 R Y L A セミナーを終えて



ディーン

安 平 和 彦

初めてディーンの大役を仰せつかり、ひたすら冷や汗をかきながら勤めさせていただきました。ディーンとしてのお世話を十分に尽くせなかつたのではないかと内心恐れていますが、何とか無事に終了することができましたのは、第267地区並びに第268地区の先輩ロータリーアンの皆様やカウンセラーの皆様、そして受講生の皆さんのおかげであります。

とくに、今井パストガバナーには、開校式におきまして、この R Y L A の意義を格調高くお話いただきましたし、キャンプファイヤーの場でも、ロータリーと人類理解についての感動深いお話を賜りました。又、深川ガバナーノミニーには、このセミナーの最も大切なプログラムであるフォーラムを非常に要領よくまとめていただくとともに極めて哲学的な御示唆をいただきました。毎回のことながら、このお二人を抜きにしてはこの R Y L A は成り立たないのであります、あらためて厚く感謝申し上げます。

さて、私はこの R Y L A において皆さんにロータリーでは「Enter to learn, Go forth to Serve(入りて学び、出でて奉仕せよ)」ということを言うと申し上げました。ここで、もう少しこのことの説明を申し上げておきたいと思います。

実は、この言葉はロータリーの「例会」に関して言われているものであります、御承知のとおり、ロータリークラブでは毎週1回の例会をもっておりますが、このロータリーにおける例会なるものは、それぞれの地域社会のいろんな職種から指導的人間として選ばれたロータリーアンが、互いを切磋琢磨し、

そのなかからより高い境地を学びとり、この境地をもって自己の職場や地域社会において実践する、そのための場である、と理念されております。すなわち、クラブ例会は、ロータリーアンの修練の場であり、「ロータリーの例会は人生の道場である(米山梅吉)」と唱えられているのであります。

翻って、現今ロータリークラブの例会の現状をみると、内心じくじたる思いを致さざるを得ませんが、もともとロータリーのクラブ例会に関して言われているこの言葉は、むしろこのRYLAにこそふさわしい言葉だと感じる訳であります、そのためにあえて申し上げた次第であります。

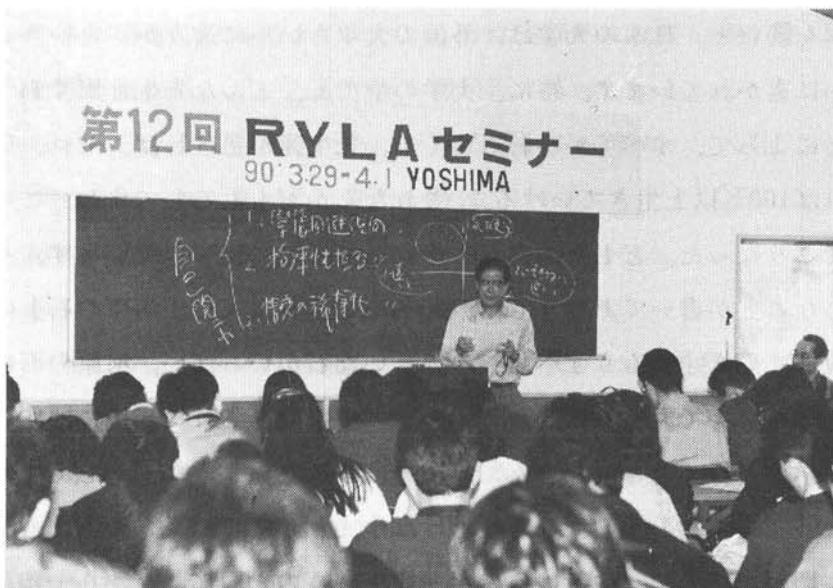
では皆さん、それぞれの職場、地域での御活躍を切にお祈り申し上げ、またの再会を期待申し上げます。

### セミナースケジュール

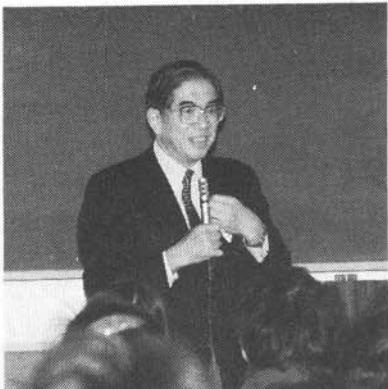
3月 29日		開校式 オリエンテーション			夕食	キャビンタイム
3月 30日	朝食	講演	昼食	レクリエーション (テニス ソフトボール等)		キャンプファイヤー <sup>親睦の夕</sup>
3月 31日	朝食	講演	昼食	バズセッション 思索の時間		フォーラム
4月 1日	朝食	講演	昼食	記念植樹 離島		

8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

# 講演



## 地域社会と青少年



関西学院大学教授

田 中 国 夫 (西宮甲子園RC)

若い人の前で、若い人のことをいうなんて、たとえは悪いですが、泥棒に泥棒の心理をしゃべるようなもので、へんなものであります、こんな青年もいるということでお聞き頂ければ幸いです。関西学院大学社会学部で社会心理学を教えています田中です。今日、来る途中、新しく書き直された本、岡山県にある林原総合研究所次長でパキスタン人、マホメッド・ライース氏がお書きになった「外国人課長がみた日本株式会社」という本を読んで参りました。この人は毎日の生活の中で体験した日本人と日本の組織を実際に面白く書いています。

その本を読むと、日本の大学は、外国の大学といかに違うか、ということがあざやかに書かれています。特に、大学の中でも、どんな先生と出くわすかということによって、すべてがかわってくる。先生運が悪ければ、ゼロ、先生運がよければ100%以上生きていける。これなんかおもしろいですね。この先生のお陰でこうなった、どじをふんだ。それがみごとに出てきています。その中で、こんなことが書いてありました。90ページ、日本人を「河原の石」のようだと表現しています。もうすべすべのきれいな石がいっぱい。河原の石のようにみんなツルツルで丸い。結局、グループの中でならされて規格にはずれないように。学校へ行くとき、ならんで集団にはずれないように、そしてみんな丸い石になっている。しかし、ひと皮むけば生まれたままのものとの姿にもどる。丁度、生卵がてきて、中身はみんな一緒というのと同じ。だから一歩踏み込むと何が出てくるかわからない。もう、それが生まれたままの丸裸のままでその人の個性がまったくない。生卵、ひと皮むけば幼児そのものである。ところ

が、日本人以外の人には、中の生卵がかたゆで卵になり、個性、責任感、社会性がでてきてている。しかし、日本人は生卵のままである。これが外国人に一番こまる。愛想の良い日本人、きれいで善男善女、これはほとんど病気なみに一緒。一皮むけば予想に反して、残酷であったり、どけち、人道的差別主義者であったり…。鬼が出るか、蛇が出るかわからない。全く無茶苦茶である。こういうような表現で書かれていました。しかし、日本にも今井先生のような人がおられます。この先生はライースさんのいう日本人にはあてはまらない人だと思うのです。今井先生のお人柄をあげると、まず、①外国語があやつれる。②その外国のこと精通していらっしゃる。③外国に住んだり、外国人と仲良く交わることができる。④しかも、その人たちとちょうどうはしとやることが出来る。⑤一方、本当に赤ん坊のような天真爛漫さをもっておられる。このような方を、国際人というのではないでしょうか。このようなことができるようになるには、どういうステップを歩まなければならぬか、考えてみようと思います。それなりのトレーニングがなければ生卵のままになってしまふと思ひます。

さて、レジメにもどりまして、現代の若者の特質を申し上げますと、

- (1) 性格が明るくなっている。これは表面的には笑い声が絶えない。

(2) 交際範囲が広い。いろんな友を種類別にもっている。  
ちょっとどこかへ行きたい。ドライブをする時は、 ×君  
チーズケーキを食べに行きたい時は ○君

(3) 趣味が多彩である。多様なスポーツ、レジャー

(4) おもしろいことには積極的に行動する。

おもしろいイベントがある。朝早起きして、わざわざ出かけて行く。

上記4つ、これは表面的な特徴であるが、その裏にあるのは次の通り。

- (1) 仲間の和の外では、大変閉鎖的である。
  - (2) 人間関係は非常に表面的であり、できるだけ葛藤をさけようとする。
  - (3) 非熱中性、非没頭的である。  
熱中できるものがない。すべて広く、浅く、ほどほどに。
  - (4) 浅薄性(浅く、薄い)

積極的に面白いことに行動するが、ガイドブックをなぞる程度の旅。

(5) 何不自由なく生活をエンジョイしているようだが、その時、その時をきまぐれにすごしている。楽しいようだけれどうつろである。

これらを私なりにまとめますと、現在の青少年の意識構造には3つの特徴があるのではないかと考えています。

その一つは緊張を回避する傾向であります。

特に、何か未知のこと、新しいことにチャレンジするのが嫌いである。大阪ガスにエネルギー文化研究所というところがありますが、20～24歳の大学生、専門学校生、フリーアルバイターを選んできてヒヤリングで調査をしておられます。この調査は青年の実際の生活実感、ものの考え方をあきらかにした調査であります。クラブのキャンプ生活が面白いというより、みんなで面白いことをしているのが楽しい。キャリアを積んで頑張っていくような気持ちも気力もないし、能力もない。自分は異質のものや人に接触したい気持ちがないことはないが、行動に移そうという気はさらさらない。なるべく親のいうことに従って無難に生きていきたいと思う。冒険的な生き方はしたくない。そんな気持ちもないことはないが、実際はできないだろうと思ってしまう。一生好きなことがみつからない状態でもかまわない。以上のような考え方が明らかにされております。

2つ目の特徴は拘束性拒否傾向であります。

何か、縛られる感じのすることがいやのようです。ですから、きびしい規則や練習を課すサークル活動は嫌われ、同好会花ざかりということがおこっています。同好会は好きなもの同志が好きな時に好きなようにやれるからです。ですから、この人たちの人間関係はinstantであり、Functionalであります。Instantとは、その場限りであり、Functionalとは機能別であるということです。即ちその場限りの友達ばかりですが、一方テニスの友達、ドライブの友達というように種類別の友達は多くもっているということです。ですから、およそ親友なんて言葉は、今日では死んだ言葉となってしまいました。昔の親友と今日の新人類といわれる人の友達の中身を図で示しますと、下図1のようになります。昔の人たちの友達同志は気持ちがわかり合い、気をつかわぬ関係でしたが、

今日の若者同志は楽しそうにしていますが、お互いのことはよくわからず(お互い話し合いませんから)、非常に気を使いあっているのです。本当の自分のことや心をぶちまけようとはしないで軽いのりで笑いあっている。今の青年は孤独感が強いようです。それは自分のことを打ち明けて示す(英語ではself-disclosure自己関示)ことができないからです。私はあの「いっき飲み」はお互いの人間関係の白々しさをふきとばす儀式だとみています。お互いのこころの接点がないので、あのいっき飲みが生まれてくるとみています。本当の人間関係があればあのいっき飲みはおこらないと思います。

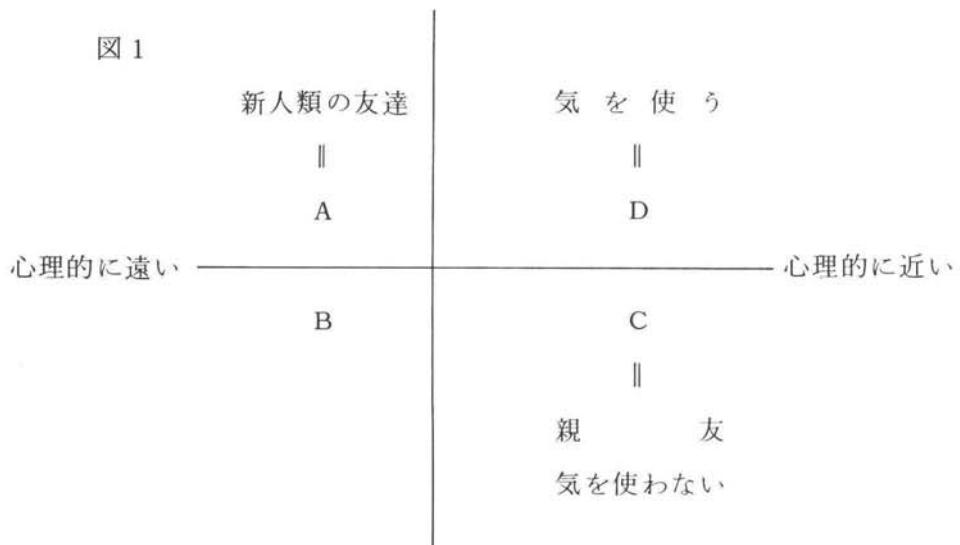
### 第3の特徴は情感の希薄化傾向です。

今の若者の特徴でびっくりするのは、騒がない、喋らない、質問しないということです。勿論、若者同士でお喋りしている時はあります。しかしそくみると、お互いの相互作用なくして喋っているので、集団的ひとりごとみたいなものです。まるで3、4歳の幼児の砂遊びみたいなものだとみています。さらに、喜怒哀楽をワーッと表わそうとはしません。心の底から笑ったり、怒ったりしないのです。人間のもっていなければならない喜び、怒り、哀しみ、楽しみを知らないかのようです。

何故そうなったのでしょうか。私はまず第1に兄弟の数の少ない事をあげます。そして、決定的に大きな理由は地域社会での異年齢の子供たちの中で泣かしたり、泣かされたり、励ましたり、励まされたりした経験がほとんどないことです。今の子供は、同年齢の子の中で育ち、会社へ入って初めて異年齢の人と知り合う。そこで、やっと人間らしくなってくる。異年齢の人たちと一緒に時間と場所を一緒にし、鍛えられることなくして人間になることはできないとすら私は思っています。

最後に、地域社会の中で活動しておられる貴重な人材である、皆さん方にお願いしておきます。人間はお母さんの子宮(これを第1の子宮といいます)の中で人間の原形ができあがります。生まれて出てきた赤ん坊は、その後、家庭と地域社会(これを第2の子宮といいます)で一人前の人間らしきができあがって参ります。第2の子宮の中の重要な領域である地域社会を素晴らしい人間形成のための装置にするのは皆さんのが仕事です。これが今日、殆ど顧みられていない

いのです。人間らしい喜怒哀楽を表わし、自ら燃やす(自燃性)ことができ、かつ他人の幸せのために励ますことのできる(他励性)をもった若者をつくりあげるために頑張ってください。



# 青 少 年 の 理 解



神戸大学教授

美 崎 教 正 (神戸北R C)

## 1. はじめに 一青少年の理解とは一

みなさん、おはようございます。私は、さきほど、ご紹介にあずかりました美崎でございます。今日は時間を充分いただいているので、皆さんとともに「青少年の理解」について話し合ってみたいと思います。

今日、最初に「おはようございます」と挨拶をいたしましたね。その時の皆さんのお返事の仕方で、皆様方はこのテーマに深い関心をもってくださっており、今日の話を聞こうとしておられることがよくわかります。ありがとうございます。

さて、このたび、「青少年の理解」というテーマをいただきましたが、一昨年、第10回ライラ・セミナーの時には「個人の理解」というテーマでお話させていただきました。

前回のテーマは、全ての年齢層に通じるものでありましたが、時節柄、老人を取り上げてみました。老人を正しく理解した上での若人の対応が本当の老人福祉に繋がってくるのだということでした。今年のテーマは、標記の通り「青少年の理解」ですから、青少年とは何か。どのような人間的特徴を持っているのか、どのような行動上の特徴が見られるのか、更にそれを踏まえて、将来に向けてどのような青少年像が期待されるのかを、お互いに考えようというのが目的であります。したがって、今日は、私の乏しい経験に基づいて、青少年問題について、日頃感じていることからを、皆さんにお伝えするという形のボールをなげますので、皆さんの方からも、そのボールを投げ返していただきたい

と思います。

すなわち、57歳の私が、今の若者をどう見ているかという話をいたしますので、それをお聞きになって、どしどし反発していただきたいのです。本来、教育は相手の意見に耳を貸しながら、自分の頭で考えることだと思いますから。ただ、今の若者は議論はお好きではないようですが、お互の意見を交し合うことがライラ(R Y L A)の大きな目的だと思いますので、ご協力の程、よろしくお願い申しあげます。

さて、今の青少年の行動特徴について述べます時、彼等がどうゆう環境のもとで生まれ、育ってきたか振り返ってみるとことによって、私自身も反省の材料にしたいと思います。

表1. 現代っ子しあわせ病

1. いつも満腹やる気がない。	14. 温室育ちで忍耐力がない。
2. 手をかけすぎて自立がない。	15. 子供部屋作って書斎がない。
3. すぐさま飽きて続かない。	16. 腹ペコ経験したことがない。
4. 物に毒され心育たない。	17. 可愛い子供だもの旅させない。
5. エンジンあってブレーキない。	18. いつも夜更かし朝起きない。
6. ハンドルあって目標ない。	19. 玩具多くて作らない。
7. マンガ育ちで考えない。	20. まともな本買ったことない。
8. 責任もつことしたがらない。	————*————
9. 親孝行なんて考えない。	21. 親父の勉強見たことない。
10. 注意されても聞く耳ない。	22. 母は外、父の子育て乳でない。
11. 教えてもらう謙虚さない。	23. 母のでしゃばり、子はしまらない
12. 点にならねば関心ない。	24. 母の裁縫見たことない。
13. テレビと塾で遊べない。	25. うちの子だけは悪くない。

すなわち、自分の行動を基準に今の青少年を見ていきますので、この話の最後まで通して言えることは、話しているのは57歳の美崎で、聞いておられるのは20歳すぎの若い皆様方であるということになります。そこで、もし、今の青

少年の行動に問題があるとすれば、そのような人間を育て、又、そのように育つ環境をつくったのは、今の中高年の大人たちであります。大人たちが若者のために、よかれと思ってやってきた筈なのですが、時として、目を背けたくなるような行動を示す若者が増えてまいりました。このことは、われわれ大人の生き方が問われていると考え、反省しなければならないことで、その現象を直視しなければならないと思います。このことは、皆さん方にも通用することで、皆さん方の子孫が人間として望ましい生き方が出来るような社会の構築に向けて、皆さんは行動していただきたいと思います。すなわち、子供の将来を見通した、大人の生き方が必要ではないかということです。

今、私たち大人は「持てあますように育てて、持てあまし」という川柳の反省の上に立って、青少年の健全育成に向けて努力をしなければならないと考えます。このように考えてまいりますと、今回のテーマ「青少年の理解をすること」は、私たち大人が「自らの、人間としての生き方をよく理解すること」だということになります。こどもの生きる姿をカガミ(鏡)に、子供にとってカガミ(鑑)となるような大人の生き方が問われているのだと思います。

## 2. 現代の青年像は

現代の青少年はどんな生活・行動様式を持っているのかを理解するために、「現代っ子しあわせ病」(表1)をご紹介いたします。そして、このことが、子どもにとって本当にしあわせなのかどうかを考える資料にしたいと思います。

この資料を眺めてみると、点数とか数で評価出来ないものに対して、評価が低いと思われ、お金で買えないものに価値をみつけていく努力をしなくてはならないのではないでどうか。それに程遠いのが現代っ子だと思います。

さて、現代の青少年を理解するために、先日、姫路で行われました国際ロータリー第268地区大会での講演の内容の一部をご紹介してみましょう。

今、日本の青少年は何を目的に生きているのかというアンケート結果によりますと、①自分の好きなように生きるために、というのが65%で一番多く、ついで、②経済的に豊かになるためにというのが20%、③お国のために

にというのがわずか2%であったということです。のことから、日本の若者達は、世のため、人のために生きるのではなく、自分に忠実に、自分らしく生きており、これが日本の若者の価値観なのではないかとも考えられます。

ここでいう、自分らしく、自分に忠実に生きるとは、よく言えば、個人主義のようにも見えますが、しかし、日本の個人主義はまだ充分には育っていません。その実は利己主義であることが多いといえます。そして、これを自由だと思い込んでいることが多いようです。しかし、自由は戦後45年にして、はき違えられていることがわかつてまいりました。自分がいいと思ってすることが必ずしも自由ではないのです。自由の基盤は、人に迷惑をかけないことであるということです。自由を考えるとき、まず相手の自由を尊重し、保証しなければなりません。タバコを例にとってみると、スマーカーがタバコを吸うのは自由である。そこでは、周囲の人に迷惑にならないように、思いやりの心をもって自分の喫煙行動を見直していくことが大切ではないでしょうか。

また、学ぶこと、働くことは、豊かな社会を実現するための共通の価値であったはずです。今の中高年者はそういう価値観をもってやってきました。子供たち、孫たちのために生きてきた筈です。しかし、今の若者たちにとっては、この豊かな社会は人によって与えられたものである。しかも、人からの統制、管理、耐性を無価値とし、手段の一つ一つに楽しさを求める。したがって、議論も葛藤も対立も不要になる。こういうのが現代の若者の価値観であるといえます。

ここで、年寄りは言います。それでは目標がなく、進歩もないから先行き心配だと。しかし、そういう社会を作ったのは大人なのです。若者否定ではなく生まれませんから、新しい枠組みをつくる若者に期待することにしましょう。

もう一つ、地区大会における関西大学非常勤講師の西田勤先生のお話を紹介したいと思います。皆さん、西田勤先生をご存知ですか？ そう、落語の桂文珍師匠のことです。先生が言われる若者像(最近の学生は)にこんな話があ

りました。

学生が就職するときに、選ぶ会社の条件は「カチョウフウゲツ」だというのです。この言葉の本来の意味は「花鳥風月」なのですが、今の学生にとっては、「華長風月」と書くのだそうです。そして、この中の「華」の意味は、華やかな職場で、「長」は長期休暇を沢山とらせてくれる。「風」は風のように爽やかでカッコよく、「月」は月給が高い。そんな会社に就職したいと。

他方、若者が嫌がる職場に「5K」があると言われているのも、ご存知だと思います。すなわち、①きつい、②汚ない、③危険、④暗い、⑤カッコ悪いの5つです。この「5K」の考え方と文珍師匠の申される「華長風月」の考え方は共通いたします。これが、最近の若者の価値観、生活観であり、行動の基盤をなすと言えるかも知れません。

さて、そこで皆さん、あなた方が就職される時に、どんな条件を設定されるか、今から考えておいてください。「華長風月」・「5K」がいいか悪いかは、それをお考えいただくことです。ただ、この最近の求職傾向に求人側は嘆いているようです。すでに就職されている方は、それぞれ選ばれた職場が、自分にとって望ましいものであったのでしょうか。元来、仕事は一生涯続けて行かなくてはならないものです。最近、会社人間が減って、マイホーム的人間が増えてきたといわれていますが、その評価についても、各人でなさって下さい。ここでは、問題提起だけさせていただきます。以上、最近の青少年の特徴の一例として申し上げてみました。

ところで、話はかわりまして、一般に医師は、患者のいろんな痛みを取ってあげることを生業とすると思っている方が多いですね。99%までがそうです。私は、医大を卒業し、医師免許取得後臨床医学の世界から離れ、医学を通じて、あらゆる人々の健康・幸せづくりに貢献できればと考え、この仕事を32年間続けてまいりました。しかし今、私がこのような職を選び、歩んでまいりましたのも、運命だと思っています。皆さん、私の名前を見てください。父親が私にこんな名前(教正)をつけてくれまして、何時の間にか、その名前に忠実に生きつづけてまいりました。「正しいことを教えよ」と。

ただ、私が行っている教育が本当に正しいかどうかの判断はさておき、せめて「人間として正しく生きることを教えるように」と、親が望んでいたのではないかと考える今日このごろです。

教育と申しましても、いろんな方法があります。人に教えることが私の仕事だと思って、親はこの名前を付けたかも知れませんが、逆に、私が学生から、正しいこととは何なのかということを教えてもらう役割をも担っていると考えています。いろんな学生から得られる情報(若い人のものの見方、考え方)に触れることにより、私も徐々に変わってまいりました。

十数年前、私は学生から女性差別教授として糾弾されたことがございました。お前(当学生は教官をこのように呼ぶ)の話は男性エゴだ、健常者エゴだ、医者エゴだと。そういう糾弾が半年間続き、最終的には、私が自己批判書を書くことで決着がつきました。それ以来、授業内容を全面的に変えましたところ、それから学生は誰一人として質問いたしません。反論さえも。このようなことは、教師として非常に残念なことで、私の言っていることが相手に伝わっていないのではないかという気がするのです。これほど仕事のしがいのないことはございません。

現代の学生は、何を話せば反応があり、何を話せば反応がなくなってきたかということです。これをお話することで、今日の青少年を理解する一助になると思いますので、ご紹介いたします。

当時、私は、担当する保健概論の議論で「男と女」というテーマで、男女の人間関係はどうあるべきかということを、主として医学的側面から話していました。そこでは、男性と女性は、どんな場においても、それぞれ人間として対等でなければならないという話をしてまいりました。ところが、ある女子学生から、お前の話は男性エゴ、医者エゴ、健常者エゴだ。性の場において、女性と男性は本当に対等か？ 対等でない！ 女性が虐げられているのではないか！ この現実を直視せずに何が対等だ！ そういうことをよくも平気で教壇から言えるな！ この差別教育は絶対に許せない！ という糾弾を受けたのです。

人口妊娠中絶を話題にとりあげた教授で、現在の日本の社会において、安

易な中絶が行われているという総理府統計とそのコメントを紹介したところ、「安易」なとは何事だ！ 人工妊娠中絶に際しての、女性の身体的、精神的、社会的な本当の痛みもわからず、男が何をいうか、それも大学という公の、神聖な教育の場でしゃべるとは何事だ！ ということで、半年間の、時には徹夜に及ぶ糾弾が続いたのです。

このように、若い男性と女性に関心の高い、今直ぐ役立つ、分かりやすい話題を取り上げると、どんどん反応があるわけです。しかし、お前の話は女性差別だと指摘されましたので、私もそれを自己批判し、それ以来、話題を180度転換(意図する教育のねらいは変りませんが)いたしました。すなわち、話題を思春期の問題から老人問題へと変更したのです。そして今、高齢者問題をどう捉えていくべきかを、又、高齢者問題を学生自らの問題として考えてもらうべく話を展開しています。ところが、このような問題を話題にいたしますと、誰一人として質問しないのです。反応がないというのが現状です。

このようなことで、教育というのが如何に大切であるか、また、それが如何に難しいことであるかを痛切に感じとっている昨今の私です。教官が学生に何をどのように考えてほしいか、あの手この手で伝達しようとするのですが、なかなか乗ってきません。——それは君の教え方、捉え方が悪いのだといわれればそれまでですが——。勿論、私はたえずその反省のもとにやってきていますが、なかなか難しいものです。この辺に現代の青少年の一つの特徴があるのでないかと思っています。

学生に聞いてもらえる話をしようと思えば、面白い話をすればよいというのが一般的な通念です。しかし、そうすると残念ながら授業中の私語が増えます。学生の関心をひこうと意識的に本論に関わる余談から入ると、学生も余談(私語)がはげしくなり、目的が達成出来なくなります。

今、大学において授業中の私語が目立ち、社会病だともいわれます。何故私語が多いのでしょうか。ある大学では、前に座る人——話を聞く人。真ん中に座る人——眠る人。後ろに座る人——しゃべる人。というように相場が決まっており、最近は、後ろの人の勢力が強くなり、眠る人を起こし、前の人まで後ろ向いて話させるような状態になっています。

そんな時、授業の中で、講師による講義の意義と授業中の私語のもつ意

味について、説論的に話し、私語を自発的に止めてもらうよう働きかけるのですが、そんなもの全く聞こうとしません。特に、おしゃべりする人には、全然耳にはいらないのです。お説教を聞いてほしい人は耳をかしてくれません。お説教のいる人がそれを聞いています。したがって、話を聞いている人は、どんどん人間的成長をしていきます。反対に、聞こうとしない人はどんどん聞いている人から遠ざかっていき、ますます自己中心的な人間へと偏って行きます。

現代の若者は、自分に忠実に生きていると最初に申しましたが、その姿は、あのウォークマンの流行に如実に現われています。自分の好きな音楽だけを、何時でも、どこでも聞きつづけたい。両耳にはイヤホーンを差し込み、耳に栓をして、人の話はきこうとせず、自分の好きな音楽だけを聞いて楽しんでいます。これは、前述の自分に忠実に、自分らしく生きている姿で、自己中心的価値観からくるものであると申せましょう。

このことを学生に言ったのです。すると学生は、先生は知らんのや。好きな音楽を聞きながら何かをすると、落ち着いて能率があがるんだ。人の声もちゃんと聞こえるし、一石二鳥や。「先生も一度聞いて見」と屁理屈をいいます。

ところが、学生の言うように、耳にイヤホーンをいれていても、先生の話している「音・声」は聞こえますが、「話」は聞こえないはずです。すなわち、相手が何を自分に伝えようとしているかという意図が伝わってこないのです。

「話」が聞こえないという話をもう一つ付け加えてみます。私たちの大学には、毎年、耳の不自由な学生が入学してまいります。彼等は、私たちにむかって「自分たちは、何が聞こえないかご存知ですか？　何が不自由なのかお分かりですか？」と聞きます。そして実は、先生の話が聞きたいのだと言います。みんな(クラスメイト)が先生の話を聞いて笑う時に、同時に自分も笑いたいのです、と。

そこで、教師は全ての学生に、耳の不自由さの真意を伝え、学生に理解を深めさせようと努めます。本人は、不自由なわれわれの存在を、みんなに知

らせてくれるのはありがたいが、固有名詞だけは知らさないでほしいと申します。このことは肝に命じておかねばならないことです。私は、その学生にも同様に情報が伝わり易いようと、積極的にOHPを使い、マイクも出来るだけ口から離し、私の唇の動きがよく見えるように(読唇を助けるために)、その学生の方を向いて講義をするように心掛けています。ところが、実際そう言った本人はといいますと、私の方とは違った方向を向いているのです。よく見ると、隣の席に座っているクラスメイトの書くメモ用紙に目をやっていました。

その時、私は一瞬こう思いました。「耳の不自由な学生に対し講義するときは、出来るだけ黒板を使い、視覚による情報を多く提供してほしい。可能なれば話の内容を全部板書してくれるよう。さらに読唇が可能なよう配慮願いたいと強く要望しておきながら、何故、脇見をしているんだ」と。実は、その時彼は、友人の好意によって、筆談による通訳をしてもらっていたのです。勿論その学生も最小修業年限でもって卒業していました。

ところで、話を元にもどしまして、今、何故、大学で授業中の私語が多くなったのでしょうか。これは、人に対する迷惑に気付かないからだと正論者はいいます。すなわち、他に対する思いやりの心の欠如が、私語を増大させているのだと考えます。ここでいう思いやりは、すべての人に平等に与えられねばならないのです。横に座っているクラスメイトと同様に、汗をかきながらしゃべっている先生に対しても思いやりがほしいのです。ここにも、自分に忠実に生きる学生の姿が見られます。

以上、授業中、私語に耽り、講義を聞こうとしない現代学生の姿と、耳が不自由でも一生懸命、友人の暖かい友情に支えられながら、「話」を聞こうと努力している、もう一つの学生の姿を紹介してみました。

### 3. 童話「ウサギとカメ」余話 —— NORMALIZATIONの推進にむけて ——

先般、学生にむけて、ノーマライゼーションの考え方を理解させるため、授業のなかで、「ウサギとカメ」の話をいたしました。ご存知の通り、一般に、この童話は、いくら能力があっても怠けてはいけない、油断してはいけ

ない。そして、努力すれば目的を達成できるんだと。努力の価値を教えたものだと思われています。しかし、この話は、世の中にはのろまな人もいれば、すばしっこい人間もいます。それが人間社会なのです。いろんな人間がいて、それぞれが共に生きていくことが自然で、かつ正常な社会なのです。それを認め、社会の中で共生を妨げているものが何かを教え、考えさせてくれるのではないかと思います。

皆さん、この話に第2話があるのをご存知でしょうか？ 実は、ウサギには恋人がいたのです。カメに負けたウサギが村に帰り、恋人に言いました。恋人は「恥ずかしい、カメに負けるなんて。もう、あなたと付き合わないわ」「そんなこと言わないで」、「それでは、もう一度カメと競争して勝ってらっしゃい。今度負けたら絶交よ」と言されました。しぶしぶ、そのウサギはカメの村に行きました、「申し訳ない。もう一度競争させてくれないか」と頼みました。カメは快く承諾し、後日、同じところで競争いたしました。

皆さん、今度はどちらが勝ったと思われますか？ 勿論、ウサギが勝ちました。以後、何回競っても、必ずウサギが勝つのです。

さて、ここで考えていただきたいことは、何故、ウサギが勝って、カメが負けるのかということです。それとノーマライゼーションを関連づけて考えてほしいと思います。一般にウサギは走るのが早い動物で、カメは歩くのが遅い動物なのだと決めつけています。しかし、それがウサギであり、カメなのです。従ってウサギとカメが競争してカメが勝てる筈がないのです。

さて、ここで、皆さんにお聞きいたします。「カメを勝たせるにはどうしたらいいでしょうか」と。

これを考えるには、どこでウサギとカメが競争したかを思い返してみることが大切なのです。すなわち、競争した環境が問題なのです。この童話では、丘の上で、向こうのお山の麓までと設定しています。丘の上ではウサギに有利で、カメには不利な環境だったと申せましょう。このことは、場の設定がはじめから、不平等だったのに、そこで対等に競争させ、速さを競わせようと思ったことが間違いだったのです。

そこで、カメに勝たせるためには、カメに有利な場所を設定すれば…。例

えば、競争コースの一部に水溜り(ウォーター・ハザード)を作ります。すると確実にカメが勝てます。

けれども、皆さんお気付きの通り、この考え方間違いますね。と申しますと、ウォーター・ハザードを設けることは、こんどはウサギにとって不利な環境となるからです。そもそも、ウサギとカメを走る速さで競争させようという発想が間違ったわけで、この発想はノーマライゼーションではありません。

ある学校でこの話をいたしましたところ、ある女子学生の口から「カメに勝たせるには、ウサギの足をへし折ったらしい」という答えが返ってまいりました。人を蹴落としてもよいから自分が一番になればよい、競争に勝つためには、手段を選ばない。勝負に勝つことに価値があるのだと思っていることに、私は大きなショックを受けました。

又、こんな答えもありました。恋人のウサギが彼氏に「カメに負けてやるよう」頼めばよいのではと。ここにも現代っ子的な発想が伺え、感覚の違いに驚いたものでした。

ついでに、第3話があるのと学生が教えてくれましたので、ご紹介しておきます。童話「ウサギとカメ」では、ウサギとカメが長距離走をして、カメが勝ったという話である。しかし、カメはスプリントは遅くとも、持久力があり、ウサギは持久力がないため、少し走ったら休まなくてはならないので、カメが最後に勝つという話ではない。能力が劣っていても、努力すれば、奢るものに勝つという話だと思っている人が多いと前置きした上で、動物村で一番早いウサギに勝ったということで、カメは村の山の見張り番に任命されました。ある日、山火事が起きたため、カメは麓の村に伝えようと山をおりたが、足が遅かったため、村にまで火が回って全滅したという後日談があります。1回ぐらい勝っても能力のあるものには叶わないということであると。

また更に、別の医学部の学生は、次のように述べてくれました。

この話を人間社会にあてはめると、自分だけよければよいという考えに帰着しないかというのです。「この時、カメは寝ているウサギを横目に見て、そーっと通り過ぎるのではなくて、油断しているウサギにやさしく声をかけ

て、ウサギを起こしてやり、仲良く手をつないで一緒にゴールするという話があってもいいのではないか」と。「共生」をウサギとカメの話から生み出してもいいのではないかというのです。相手の油断をいいことに、自分だけ通りすぎて行くというカメの心に批判の目を向けたのです。

似たような話に、定期試験が近づくと、ライバルの教科書を隠したり、相手の勉強の邪魔になるようなことをする子が増えてきたという話を、小学生の先生からお聞きしたことがあります。このウサギとカメの話は、このような自己中心的・利己的な考え方方が人の道を外れていることを教えてくれているのだと思います。

また、この話に関連して、ある学生は、「人間の社会には、競争は必要なんだ。けれどもその競争は相手を蹴落とす競争ではなく、お互いの長所を引き出す競争が必要なのではないか」というのです。努力せず、自惚れていって、つい慢心したから、ウサギは負けたのだ。全能力を出しきって一生懸命努力した結果がカメを勝利に導いたのだ。すなわち、人間の能力のあるなしではなく、「努力」の教訓を教えてくれたのではないかと。この見方は、昔からいわれている正論です。これを、今の日本の社会に置き換えてみると、日本は経済大国として自惚れており、この話のウサギではないか。ここで油断すれば経済競争に負ける可能性は充分にあるのですよ。このままでは、日本もやがて沈没していくのだ。ということを警告してくれているのだと思ったい。

そこで更に、今、日本の社会は高齢化社会をむかえ、障害者福祉や高齢者福祉が叫ばれていますが、どんなに町の中を改造しても、施設や建物をいくら作っても、そこにだれか困っている人、戸惑っている人がいたときに、ひとこえ声をかけてあげる。そして、必要ならば、すぐ手をさしのべてあげる。その連帯の心がないかぎり、どんなに形だけ作っても、福祉の町にならないだろうと思います。ハードの面はあくまでも充実すべきですが、それをほんとうに生かすのは、私たち自身の心以外にないということを、ついでに申し上げておきます。

#### 4. アンケートによる現代の小学生、そして大学生の願い

このたび、現代学生の大学生活に関する意識を調べるため、国立大学、私立女子大学、私立専門学校の学生を対象に「あなたの今の願いは」ということで、アンケートをとったところ、回答に非常に大きな違いが見られました。内容についての評価はさし控えさせていただきますが、現代の青少年の理解の参考にしていただければと考え、その結果だけお知らせしておきます。

国立大学医学部の学生の願いの主なるものを1、2例示すれば、

- ・ 身近なところにある幸福に気付かずに理想を求めるのを止め、その幸福について充分認識した上で、理想を求めていきたい。
- ・ 名誉よりも、多くの患者に感謝される人間になりたい。
- ・ 誇りはもつが、奢りは持たない人間になりたい。
- ・ 患者に活気と幸福を与えられる医者になりたい。
- ・ アジアの医者たちとネットワークをつくり、アジア全体の医療の向上に努めたい。
- ・ 名医よりも、多くの患者に喜ばれる医者に。
- ・ 病んでいる人間の気持ちのわかる医者に。
- ・ 社会的、経済的に平等で、誰ひとりとして奢り高ぶったりいじけたりしていない社会をつくりたい。
- ・ 患者さんが心和む医者に。
- ・ 医学を通じ世界の人々と触れ合い、人から信頼される人物に。
- ・ キュアよりケアをモットーにする医者になり、患者に生きる喜びや希望を与え続けていきたい。
- ・ 医術でのみで感謝に接するのではなく、人間性をもって患者に接するとのできる医師をめざす。
- ・ 国際的にグローバルな視野にたって医療活動・研究を。
- ・ 患者を一つの疾病を持った対象ではなく、人間自体を広い視野で見て、全体的に治療出来る医師に。

そして、農学部の学生は、

- ・ 地球環境破壊防止に役立ちたい。
- ・ 他人の辛さがわかる人間を目指して。

- ・地球環境の向上を。
- ・地球全体のことを考えて生きる人間に。
- ・自然を重視した環境づくり。
- ・人間と自然が共存できる世界を。
- ・平和で安心して暮らせる世界に。
- ・自分の健康そして他人の健康を考えられる社会を。
- ・何等かの形で人々の生活に大きく貢献できる職業をめざす。
- ・人のためになることを。

さらに、工学部学生は、

- ・生活環境を物理的、精神的に好ましい空間にする。
- ・環境汚染をくいとめるための努力をしたい。
- ・いろんなことに感動し、悩み、生きてゆきたい。
- ・人に施しをして喜びを得られるような社会人になりたい。
- ・社会に貢献するような事をしたい。
- ・人の為に何かしたい。
- ・都市開発が人間のための開発であること。
- ・死ぬときに、この世に生まれてよかったですと思える人生を。
- ・世界から病人や飢餓を追放すること。
- ・人類がみな平等な生活ができるように、努力しあって生きてゆく。
- ・人の役に立てる人間になりたい。
- ・義務教育期間の教育方針の根本的改善を。人間形成の場であって、機械的頭脳の形成でないのだから。
- ・金さえあれば幸せになれるという風潮がなくなればよい。
- ・すばらしい建築家になり、アメリカで生活したい。
- ・死ぬときに、楽しい人生だったと思えるように生きたい。
- ・チャレンジ精神を絶やさず、諦めない生活を。
- ・平和な社会を。
- ・全世界の人々が健康で長生きできる世の中に。
- ・世界の平和を。

ここで強調したいのは、自分が受けている授業が、単に単位をもらうためでなく、医学生の多くが、同じ医者でも病気を治す医者ではなく、病人を治す医者、病人の心を癒す医者を目指し、しかも多くの他学部の学生も、世界的(地球的)視野で、自分の得た技術・才能を生かせるような仕事をやり、そこに自分の喜びを感じたいということを書いてくれたことに、私は感激いたしました。

他方、女子大と専門学校の学生にも同じ時期に同じ質問をしましたところ、一番多かった回答は、お金がほしい。次いで単位がほしい。きれいな服がほしい。車がほしい。遊びに行きたい。旅行に行きたい。やせたい。自由がほしい。ボーイフレンド(ガールフレンド)がほしい。等となっています。

次は小学生のアンケートの話です。第40回全国連合小学校長会研究会議で出た話を新聞でみましたので、ご紹介いたします。

今的小学校4年生に、「願いごと・将来への希望」を書かすと、日本的小学生の回答の中で一番多かったものは、算数が上手になりたい。お金持ちになりたい。次いで、お金持ちになって、名犬を散歩させたい。映画俳優になって、サインをしたい。有名人になりますようにとなっています。同じ小学校4年生で、オーストラリアの子供たちは、世界が平和になりますようにと、平和の願望が多かったという。この日本とオーストラリアの違いに先生は大きなショックを受けたと書かれています。

この金満主義、金余りニッポンの価値観を子供の心に植えつけたのは誰か。そして、その反省の上に立って、今まで毎日どんな教育をしてきたかと、教師達は苦悩を告白したという。そういう金のみに価値を与えていく世の中を大いに反省しなければなりません。しかも、小学生がすでに、お金に換算できるものにしか価値を与えないというような価値観を持ってしまったことを、強く反省しなければならないと考えます。この子供たちが大人になった時、どんな世の中が生まれてくるのか。戦後の急激な経済成長がもたらした大きな弊害として、人間の心までさまざまになってしまったのではないかでしょうか。これはまさに教育者、そして文明の大きな罪つくりであったと反省しなければなりません。

ただ、ここでいう教育者とは、学校の先生だけではございません。実は、そういう価値観を与えてしまった教育者は、日本の社会全体であります。マスコミを通じて流される情報の多くが金、金、金なのです。それを見て、聞いて育ったのが今の若い親達なのです。また、その親達によって育てられたのが、今の子供たちなのです。まさに、社会が大きな元凶であったと思うのです。それを早い時期に改めていかないかぎり、日本はやがて沈没するのではないかでしょうか。

## 5. 学生の老人観の変容に見る教育の重要性

授業で老人問題を取り上げるに際し、今の学生の老人観を知る必要から、「あなたにとって老人とは」という問題でテストをいたしました。さらに、講義を聞く前と後では学生の意識がどう変わるかを調べるために、あるクラスでは、老人問題を話題にする前に、また別のクラスでは、老人問題についての講義の後で同一問題で書いてもらいました。

普段、学生は、高齢者問題は自分の問題ではないと思っており、通学途上等でお見受けする老人の姿をイメージしているのです。のろまだとか、汚ないとか、もの忘れをする、もの覚えが悪い、過去のことを熱心にしゃべる、頑固だ、自己中心的だ、等々。

学生に、このように老人の特徴として思わせてしまったのは誰でしょうか？ 実は、他でもない学者たちなのです。いわば、老人について調査研究している専門の医者や学者で、これらの老人の心理は、自らの心理を標準として、老人がそこからどのくらい偏っているかを語っているように思えます。したがって、このことは、老人の心理ではなく、老人についての中高学歴者の心理であるといつてもよいのです。ただ一般に、そのような考え方が通用しております、これが若い人にもみられ、若者の老人観となっているのです。この見方は、はたして正しいのでしょうか。

前述の通り、授業を受ける前には、学生は老人を、のろまだとか、汚ないだとか、頑固だとイメージしていましたが、授業を受けた後では少し考え方があながつてきて、老人とは、自分の行き先であるとか、やがて行き着か

ねばならない存在であり、自分の大先輩なのだ。非常に多くの人生経験を持った才能豊かな存在なのだ。自分たちの生き方を教えてくれる手本なのだ。等々と考え出したようです。最初は、周りにいる老人を、表面的に見て、老人観を述べていたが、やがて、自分の将来の姿をイメージして、将来自分が辿り着くであろう高齢化社会の中で生きる自分の望ましい老人像は何なのかを考え出したと言えます。このように、授業の中で、老人問題を話題として取り上げることにより、若干の意識の変容が得られたと思っております。ここにも、教育をする必要性があるのだ実感いたしました。

教師は教える者、知識を与えて行くものと考えている先生がいますが、それは大きな間違いではないでしょうか。教育は、それを受けた学生に、その気にさせないといけないと思います。その気にさせ、やる気を起こさせる。単に知識を与えるのではなくて、その与えるプロセスで学生に考えさせる。学生の頭で考える習慣をつけさせることが、私たち教官に与えられた役割だと考えるようになってまいりました。33年間もやってきて気付くのが遅いではないかといわれそうですが、若いときには、自らの経験が乏しいこともあって、どうしても知識の切り売り的なことをしがちでした。しかし、それは教育の手段であり、考えさせる資料を提供するだけであって、教育とは、授業の中で学生と共に考え、お互いに意識を変容し、絶対的価値観を確立していくことであると思います。このようなプロセスを経て教育された人たちによってつくられた社会は、自ら変わってくるでしょう。社会が変わればやがて生まれてくる子どもの生き方も変わってまいります。

あらゆる教育の場において、教師も学生と共に学ぶという姿勢で教育を担当すれば、若い人達は、人生の先輩達から何かを学びとることができ、人生の先輩たちも、若い者から学ぶことができるのです。これが本当の教育ではないかと考えます。このような観点からすれば、今、教育の場において、教育の本質を問い合わせていかねばならない時にきていると思います。

## 6. 来るべき21世紀に望まれる人間像を求めて

「21世紀に望まれる人間像」、これが今日の結論になります。そこで最後に、21世紀に向けて、どういう人間像が望まれているかを考えて見たいと思います。

望まれる人間像とは、人間らしく生きられる人間、一人ひとりがより人間らしく生きていこうと努力している人間と考えられ、そういう人間づくりをしていかねばならないと考えます。そして「もっと人間らしく生きようよ」とすべての人々にかたりかけていきたいと思います。

では、ここでいう「人間らしく生きる」とはどういうことなのでしょうか？

人間のもっとも人間らしいものは何か。それは人間しか持っていない精神機能で、それをもっとも端的にいい表わしているのは、「喜怒哀楽」ではないでしょうか。より人間的に喜怒哀楽を發揮する生き方、それが人間らしく生きることだと申せましょう。

さて、「人間らしく喜ぶ」とはどういうことでしょうか。私はRYLAこそ、そのものだと思います。人と人との胸を開いて交わる。皆さん、昨晩は遅くまで、フランクに話し合われたことでしょう。そして、この出会いを喜ぶ。さらにそこで、自分にできることは何か。他のために何ができるかを考え実行する(奉仕)。そして、その奉仕を決して恩にさせない。相手の幸せ感を自分の喜びに置き換えていく。そのような姿が「人間らしく喜ぶ」ことではないでしょうか。

次に一つとばして、「人間らしく哀しむ」とは。人間のはかなさをお互いに理解し合い、哀しみ合うことあります。交わりははかない。会うは別れのはじまり。生あるものは必ず死す(生者必滅)。死をお互いに見つめ合おう。また、人間にとってもっとも悲しいことは、他との別れであり、別れの究極が死である。それを悲しむ心を持つことが、「人間らしく哀しむ」ことがあります。

第三に、「人間らしく楽しむ」とは。朝起きて今朝もまた、命ありけりと思うこと。なお、生かされてあること、自然と人を見つめること、自然の中の人を見ることです。生きもの同志が、それぞれ存在価値を認め合うことです。今朝もこの余島では、大自然の中で「うぐいす」の鳴き声により目覚め、

自在する可憐な「はまえんどう」「すみれ」の花に迎えられ、そして、心を一つにする大勢のみなさんと、ここで顔を合わすことができました。これほど楽しいことはございません。これが「人間らしく楽しむ」ことなのです。

最後に「人間らしく怒る」とは、人間的な「喜」「哀」「樂」を踏みにじるものに対して、本心から怒ることです。人と人との交わりを引き裂くもの、人に死を強要するもの、人の楽しみをぶち壊すもの、たとえば、戦争、貧困、飢餓、社会的差別。それらに対して本心から怒ることが「人間らしく怒る」ことだと思います。

そこで、実際、青少年に人間らしく生きることを自覚させるため、青少年に語りかけ、青少年に本当にその気にさせ、動かすためにはどうすればいいのか。それは、大人達が自信をもって人間らしく生きることを実行することあります。すなわち、人と人との交わりの喜びが、人間にとて最高の喜びなのだと、自信をもって言える大人になること。人間らしい生き方を踏みにじるようなものに対して、心から怒ることのできる大人になることだと考えます。

大人達が「人間らしく生きる」ことを実践することから始めるならば、それを見て育つ若い人も、より人間らしく生きることができるものと考えます。青少年にこのことを気づかせるためには、大人たちが、彼等に語りかける必要性があるのです。

若いさんは、自分のためにのみいきるのではなく、他のために奉仕すること。そして、より美しい生き方をしていただきたい。美しく生きるとは、すべてのものに対して、愛をもつことであり、それは又、相手を正しく理解することなのです。そして、一生涯その愛を貫ける仕事をもち、その仕事に生き甲斐を感じていただきたいと思います。そういう生き方をすることが、又「人間らしく生きる」ことではないでしょうか。

## 7. まとめに代えて　一大人の役割一

私は、教育の方法は「カガミ」であると申し上げます。大人は子供の鑑(MODEL)であります。大人の生きざまが、子供を育てて行く教材であり、ま

た、子供の生き方を示すモデルなのです。そして、子供は大人の生きざまを写す鏡(MIRROR)であります。子供を見れば、その子供を育てた大人の生きざまがわかるといえます。このように、お互にカガミになりあって、よりよい人間形成に向けて、努力を続けていっていただきたいと思います。

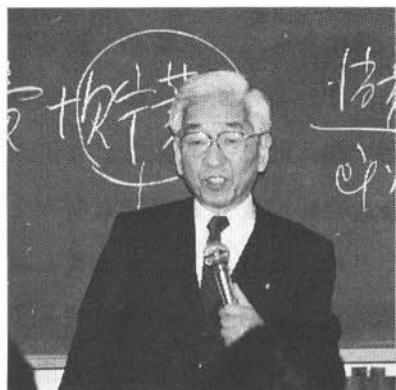
大人達は、自らの長い人生体験から学んだ理想的人間像を、自信と勇気をもって、自らの態度と言葉で子孫に伝承していっていただきたい。決して、世代が違うから話があわぬ、言っても仕方がない、しらけているので…などと言わずに。他方、若者達は、大人たちと一緒に人生を体験することを拒否したり、躊躇してはならないのです。世代間交流は、唯一の文化伝承の場であるのですから…。

このたび、ここにロータリアンと共に、3泊4日にわたり、世代の違う人間達が、同じ環境の中で、寝食を共にし、語り合い、生活したこと。これほどいい教育手段はないと申せましょう。世代間交流がなされたわけですから。実はRYLAの目的もここにあるのではないでしょうか。

最後にみなさん、RYLAは、なぜ毎年小豆島の余島で行われるのでしょうか？

ご存知、ここ小豆島のキャッチ・フレーズは「でかい、ふれあい、つくしあいの島」であります。そして、ここ余島の礎(1976)書かれている今井鎮雄先生の言葉「人と出会い、神と交わり、愛の火の燃えるところ」。この言葉は、RYLAがなぜ、ここ余島で12回も続いて来たかを教えてくれているものだと思います。どうか皆さん、この体験を今後の生活の中で生かし、「よりよい生き方」を求めて、たゆまざる努力と研鑽を積まれますよう念願いたしまして、今日のお話を終わらせていただきます。長時間にわたりご清聴いただき、誠にありがとうございました。

## 国際社会と青少年



神戸大学学長

新野 幸次郎

我々が生きております国際社会が大変な激動をしている事は皆さんも新聞やテレビ等でごらんになっている通りです。その状態をどの様に理解したらよいのかと云う事を最初にお話をし、その中で日本の役割とはなんだろうかと云う事をお話ししてみたいと思います。

我が国が国際社会の中で生きていかなくてはならないと云う事はよく言われておりますが、どの位のウェートを持っているのか、最初に数字の確認をいたします。我が国のG N P (国民総生産)の中で輸出、輸入の比率を見てみると、1988年輸出9.3%、輸入6.6%であり、G N P の中の割合は、さわがれている程大きくなない事が分かります。例えば、世界で最も大きな国、スイスではG N P の48%を輸出。オランダでは46%を輸入しており、言いかえればスイスやオランダでは生きていこうとすると、外国の物を半分は買って、或いは半分は外国のサービスの影響を受け、一方では自分たちの作った品物、自分たちのサービスの2分の1は外国を持っていく、こうなると国際的にならざるを得ないわけです。

アメリカを見ますと、G N P の6.6%輸出、9.4%輸入と輸出・輸入の割合が日本と逆になっていますが、あまり差がない事が分かります。しかし輸入の内容を見ますと、日本では食料や原材料、石炭、工業生産に必要な原材料等は圧倒的に外国から輸入している事が分かります。もしそれらが無くなれば生活の基礎的なものに大変な困窮が始まり日本人の生活が成り立たなくなる、そのような意味で輸入に依存度があるといえます。

では何故今迄G N P の中の輸入・輸出が比較的小さいのかと言いますと製品

自身の輸入が少ない為と言えましょう。製品の輸入で申しますと、1980年で22%と云う数字であり、諸外国から原材料ばかりではなくもっと製品も買ってくれないかと云う色々な圧力がかかって来るわけです。日本もこれについて努力をし、1988年には外国から輸入額中49%を製品で輸入するようになりました。ところがカナダやアメリカでは輸入品のうち製造物が87%、82%で大半をしめており、日本の輸入は原材料ばかりで輸出ばかりに力を入れていると言われていたわけです。輸出の中身を見ると、世界の35mmのカメラの86.8%は日本であり、時計87.2%、レジスター81.8%、コピー機80%等と人間の頭脳と労働を使って工業生産物にしたものはほとんど世界のシェアをしめている事になり、外国から見れば付加価値の高い物は外国に売り込み、低いものだけ買って輸入商品を作っているという不満が出て来るわけです。

一方、世界全体のG N P の中の比率をみると、我が国は1960年にはただの3%(その時のアメリカのそれは33%)でしかなかったのに、1970年には6%にふえ、1980年には10%、1989年には13%位になりました。アメリカのそれは同じ年で23%位といわれていますから、1人当たりの所得は日本の方が高いと云う事になります。そうなると今迄は貧乏な国だからと猶予してもらう事が出来ても、今迄は逆に世界で第2のG N P を計算上で作る国となると、世界の国々から日本にいろいろな事をしてもらいたいと云う要求が出てきます。その上、日本の貿易収支が900億ドルを超える黒字を持つようになり、逆にアメリカは1980年代の後半から1,000億ドルを超える赤字を持つようになると、日本に対する要求が大きくなつて来て当然と云うわけです。しかもアメリカは日本にとってどう云う意味を持っているのかを見ると1988年に日本が外国に売っている輸出の総計が2,313億ドル位であり、そのうち850億、約3分の1はアメリカ向けであり、イギリスはその10分の1の84億にすぎず、アメリカが買わないと言い出したら日本の輸出は大幅に落ちるわけです。したがつて日本国内の経済の運営は困難に落ち入るという事が明白であります。世界の中で生きていく以上は日本は自分の国の経済の繁栄のみを考えているわけにいかない、国際社会の中で生きると云う事を本気で考えなくてはならないのです。その国際社会が第2次世界大戦が終つた時の大混乱に匹敵するような、或いは東欧諸国では

もっと厳しいと言える混乱が起こっております。東欧諸国では今迄の超越的な権力や今迄支配していた人たちの権力をはずす事、否定する事から再建の道を考えなければならないようになってきました。ボールディングと云うアメリカの経済学者は経済の仕組みについて次のような話をしております。

一つの会社が成立し発展をする為に三つのものが必要と述べています。すなわち、

- ① 交換体系——経済の領域を意味する。
- ② 統合体系——社会の構成員がお互いの役割を認め合う。
- ③ 強迫体系——これこれをしない罰を与えると云う仕組みで、政治の世界、上からの命令

我が国は1945年以後60年代までは買おうと思っても物がない、又あっても質が悪い等大変な混乱でしたが、幸いにして60年代以後急速に所得が増大してきました。1970年代の第2次石油ショックの時にニーズウィークは“*How Japan does it*”と云う特集を組みました。その内容は第1次石油ショックの時は日本も同じように物価が上昇し、失業者が出て混乱が起きました。第2次石油ショックの時には他の国は同じようであったのに、日本だけは物価の上昇率はきわめて低く、経済が成長し、完全雇用の状態に近づき非常にうまくいっている、それは何故かと云うと、日本の社会は統合と云う人ととの関係が非常にうまくいっている事をあげております。ヨーロッパの国はMe(自分)の事しか考えない事が多いが、日本の社会では合意、妥協の成立、我慢する事により統合が成立する。社会にどんなに強い嵐がふきつけても、その国の人たちが我慢する気があるなら、その国は立ち直る事が出来ると云う事を日本は示してくれていると述べております。と云う事は交換体系、経済がある程度発展している事は大事ではありますが、社会が存在する上で統合という事が、非常に大事だと云う事に着目していることになります。しかし残念な事に、社会にとっても、個人にとっても交換体系が発達していくと統合がゆるんで来る。例えばアメリカで統合がうまくゆかなくなったのは一家に自動車が2台以上持てるようになったからだと言われています。何故なら広いアメリカでは車なしに生活は考えられず、一家に1台の車であればそれを利用する事について必然的に家族で

話し合いがされなければなりません。同じ事がテレビについても言えましょうし、ビデオゲーム等では完全にばらばらとなりどうにもならなくなつた。その時にレーガン氏が登場し、レーガニズム、政府の規制を出来るだけはぶいてアメリカ国民が貯蓄をし、経済の発展に役立つような仕組みを作ろうではないかと云う呼びかけを致しました。その為にと税金も減らしたもの、アメリカ国民はその分を消費にまわし貯蓄率は増えなかつた。一方、日本は黒字がたまっていますから、アメリカ国債や債権を買い、資金を供給していく仕組みが作り上げられていました。アメリカはこれに対し、日本の製品輸出によって、アメリカ国産のものが売れなくなつたと抗議しました。

同じ事がイギリスにも言われ、サッチャーさんが出る前まではイギリス病と云うような状態が続いておりました。生産は伸びず、失業者が出て、物価は上がる。そこでサッチャーさんは政府の規制をはずし、国有化していた色々な産業を民有化していきました。そして競争を激化させて、活性化を計ると云う事です。しかし一時はよくなっていたものの簡単に日本ほどにはよくならない、そう云う意味ではアメリカもイギリスも非常な困難に直面している状態におちこんでおり、両国とも大変苦労しながら経済再建の道をすすめようとしているのが実情です。

1936年にケインズと云う経済学者が、資本主義経済について一般理論と云う有名な本を書いております。ケインズは、所得が増えれば増えるほど、所得の中での消費の比率は下がってゆき、その分だけ貯蓄が増えてゆく。そうなると生産性が上がり、物が出来ても消費がそれに及ばないと云うようになり、貯蓄を買い物の方に使える仕組みを考えないと品物を作っても、売れ残りが起こるようになる。言いかえれば過剰の生産が起こる可能性があると云う事です。そうなると資本主義経済では失業者が出来る、これが最も困る事であるとケインズは云い、この対策として貯蓄の分を何とか投資にまわすようにと考えを述べております。一方、社会主義経済では、生産については全部中央政府が決めそれによって原材料を購入し、目標額を達成したら保証金がもらえるような仕組みにすると、政府が命令しなかつたものはなにも作らない、質の事もあまり考えないと云う事になり、物によっては大変不足するものも出てまいります。

コルナイというハンガリーの有名な経済学者が社会主義は不足の経済であり、資本主義は過剰の経済であると言っております。交換、統合、強迫の体系を考えると、例えば中国では作った物のうち、政府が命令した者以外は不足し、人々の好みにあわない物が残り、外国の良いものが欲しいと云う欲望がみんなにあり、いわゆるドルショップがつくられています。ソ連でもドルを持っている人たちは外国の物が買えるけれども、全体には不足しているのが現状で、本来ならば不足しているドルを、上に立つ人がみんなに行きわたるように我慢していく事が本当の意味では望ましい事ですが、現実には逆の傾向があり、いろいろの問題が起こってきます。ソ連ではゴルバチョフがペレストロイカ（経済社会の再建設）を呼びかけましたがなかなか進みません。そのうちにこの波が東欧諸国にも高まり、東ドイツさえ大きな変革をやらざるを得ませんでした。東ドイツ、西ドイツ間の旅行もすすめられるようになり、1987年のみで270万人の東ドイツの国民が西ドイツを訪れました。それまで東ドイツは社会主義国として最高の経済発展をしていた国で、ソ連にくらべるとはるかに高い生活水準がありました。ところが、西ドイツとの交流が行われるようになると、西ドイツとは全く違う事に気づき、不満が起りはじめました。この様な事が世界全体にも言えます。自分の目で確かめる事の出来る旅行、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等が自由に入手されるようになると外国の事情がよく分かり、かっては考える事の出来なかった大変な変化であります。これに火のついたのがルーマニアの事件です。この様に統合体系が乱れはじめるとよほど経済のしくみがうまく働いているか、又よほど強い強迫体系でないと納まる事が出来なくなります。

これを調整する事は大変むづかしく、ソ連自身もそういった問題を含んで経済再建を計らねばならないと考えているのが実態であります。そこに又1992年ＥＣが欧州共同市場の国境をなくし、通貨を統一し、共同貨幣にしょう。又関税をなくし、本当に一つの国のようにお互いに働きかけられるようにしましょうと言っておりますが、ＥＣの中で唯一の反対はサッチャーさんだけで、他の全ての国々はそれでやろうと云っております。

日本は小さい島国ですが、人口は1億2,000万であり、ＥＣの国々は1,500万

とか、せいぜい5,000万足らずであり、合計にも3億少々にしかなりません。それがお互いに国境を作り、夫々違うやり方をしていたのでは日本やアメリカに追い詰められてしまうというものです。その期待は例えば3億を対象として自動車を作るのであれば大量生産が出来る。いわゆる規模の経済性、大規模生産の利益が夫々の国に得られ、日本からの大量の輸入を防ぐ事が出来、貿易関係の改善が出来るというものです。もし東独が西独と一緒にすると人口8,000万になり、ヨーロッパの中で最も大きな国となります。ドイツ民族は優秀でスポーツ、化学、いろいろな面で大きなウエイトをしめるようになります。フィナンシャタイムと云うイギリスの新聞が2月23日号で特集をやりました。それによると、1939年のヨーロッパの国境と現在の国境、1992年にE Cが出来たときの国境、今いろいろ問題のセントラル・ヨーロピアン・ユニオンにトルコも加え、E Cになつたら人口8億位になるだろうと言っております。今8億の人口を一つの経済圏として持っているのは、中国12億の他には匹敵する所はなくなるわけです。そういう大きな変化が私共の目の前に来ようとしております。最初に申し上げましたように日米経済摩擦が起こって、いろいろ話題となっている事は、御承知の通りです。日本が世界経済に非常に深く律している。ことにアメリカにはそうであると言わざるを得ません。

お互いの経済を守るために戦後貿易国双方の間のガット、一般間税協定為替レートの取り決めが行われていたのをアメリカは沖縄返還と引きかえに行われた日米繊維交渉のように2国間で業種別に余った輸出や輸入超過で困った時に交渉する2国間交渉の仕組みがずっと残っております。こう云う調停では本当は貿易はうまくいかない事は確かです。現在日本では理論上では、2.26事件の頃と似た状態があり、世界経済の中での危機(岐路)に立っていると考えてよいのではないかと思います。もしそうだとすれば我々は単純な考え方で、世の中の意見にすぐ答えを出すようなやり方を変えなくてはならないと思います。しかし東欧諸国、中国、E Cと言われる国々も又岐路に立って道をさがしかねております。岐路に立っている時というのは、冷静に考えて対応し、又人類の長い歴史から生きて行く道をさがしていかなくてはなりません。幸いにして人類の長い歴史はどんな困難があっても結局は希望が持てる方向に解決していっ

ております。非常に大事なことは今迄国際社会への協力は人間が働いて作る物、金、知識、情報を遅れている国にさしあげれば国際的義務がはたされるような感じがしておりました。O D A (Official Development Association)政府の開発途上国への開発援助と云うのは正にこれです。

中国にしても、ソ連にても日本の経済発展の仕組みを習得し、社会主義国ではあっても、財産の私有制度を作るよう個人が自分の意欲で働いて活動するような仕組みを作ろうとしております。しかし現在、国際経済の変遷の中で日米構造協定を作り出す組織、制度を大変規制の大きい日本にアメリカ又は他の国と似たようにしてもらえないかと云う要求を出しております。しかし考えてみれば一つの国の制度はその長い歴史を経て来ており、簡単に変えられるものではありません。しかし世界の中で生きていく現在の状況を考えると、それは出来ないと開き直っている事は出来ない状態であります。もしそれが日本の国民の為に全体としてプラスになり、世界の人々にとってもプラスになるようなら多少の血を流しても我慢をしてゆくより仕様がないのではないかと考えねばならない状況におかれています。かって公害や環境汚染に私的費用、社会的費用の両方を考慮して対処されなければならないと言われ、日本は狭い土地、人口の多い中で工業生産が伸びるにともなって爆発的に公害問題が多くなり公害防禦の為に色々な努力をしました。そこで今や公害防禦と云う事に関して、世界の中で最高の水準に達したノウハウを持っております。本来、社会主義国は工場の利益の為に生産をする国ではないはずなのに、出来るだけ安く目標より多く作るので公害はばらまかれ、今や日本の公害防禦器機を買っておられます。

ＧＮＰ 3%しか持たなかった日本が15%を持つようになり、その日本が世界の中で生きて行こうとすると、貧困な国々への配慮を世界の国々の中で生きる一つの社会的費用として自覚をしなければ世界の中で生きる国民とは言えなくなります。

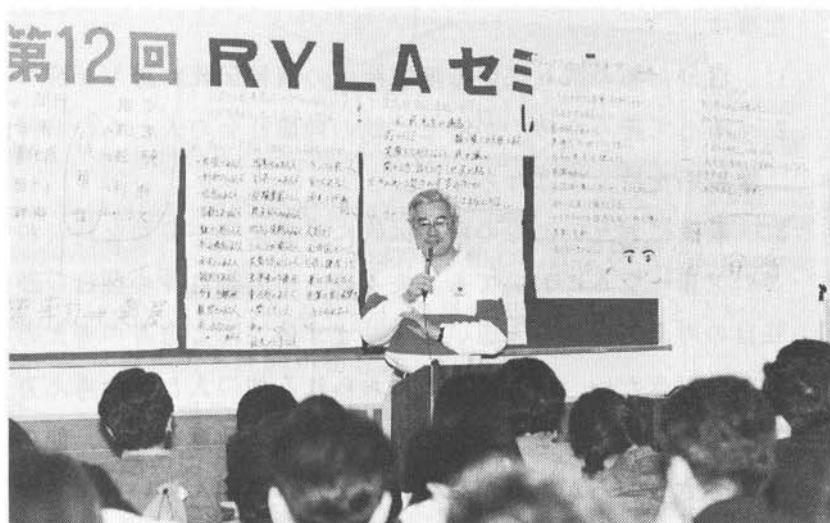
1870年までのイギリスは世界の工業生産物の6割位をしめ、世界の工場であるとさえ言わっていました。その時、世界経済の色々な負担を引き受け、ユニオンジャックが世界中の国々で見えない所はないと言われるほどがありました。

第2次世界大戦後はアメリカがイギリスに代わって色々な問題に対応してきました。アメリカは戦争直後の5割位をしめており、戦争で破壊の多かったヨーロッパの国々には経済再建のお金と物質を、又日本にもガリオアエロア、援助資金を出し、食料をはじめいろいろな物を供給してまいりました。この様にイギリスやアメリカは自分の国が指導者としての世界全体での自分が持つべき費用として自覚しておりました。日本は振興国家であり、かってのイギリスやアメリカのように5割、6割のG N P や工業生産をしめるのにはほど遠く、やっとG N P の18%を持ち、貿易収支に世界の中で最高の黒字をしめるようになったに過ぎず、要求はどんどん来ているものの、本当はそれだけの余裕が充分にはありません。しかしこれは日本が世界の中に生きていく為の社会的な費用であり、それを我慢していかないと世界の中で生きていけないと覺悟しなければなりません。相手の立場を考えて、少々の犠牲を払っても、思いやりの上に値する気持ちを持つ事を考えねばならないと申し上げる方がよいと思います。

徒然草の中で兼好法師は友達として避けたほうがよい人として、やんごとき人、嘘をいう人、物欲の強い人等とともに病なき、体強き人と言っております。これをよく考えてみると、自分が健康で病気をしたことがない人は悩みを持っている人に対する思いやりの気持ちに欠けるという事です。逆に病気をしたり、自分で色々な困難に直面した人、又その中で生きている人は身にしみて人を思いやる事が出来る立場にあると思います。今日日本に必要なのは世界の人に対する思いやりのある国民、そして国家にならなくてはならないと思います。世界の人々に分かち与えられるようなお金、物質、知識をふやすと同時に、世界の人々が気楽に入って来られる社会的、政治的、経済的諸条件を日本で確立し、日本で活動出来るような可能性を開いてあげなくてはなりません。これは云うは易く実際は大変な事だと思います。皆さんの年代の方々が国際的な広い視野をもって先程の三つの条件、お金、物、知識を備えて努力して頂かないとなりません。世界は今、大変な変動期に入っていますが、日本も同様に非常に重大な転換期をむかえていると思います。このR Y L A を機会に皆さん方一人一人が世界の中で日本があつてよかったと思われるような国に育て上げて頂きたいものと思います。

# フォーラム

## —バズセッションより—



# リーダーの条件

## ロータリーとのかかわり方

司会 副ディーン 深川純一(伊丹)

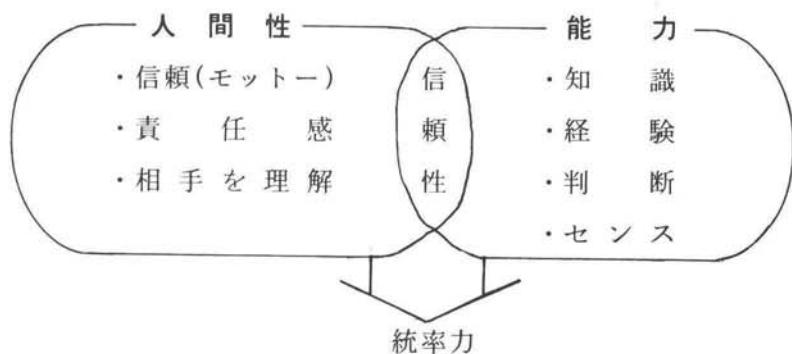
司会者 最初にフォーラムの意義を申し上げておきます。フォーラムは結論を出す必要はございません。この世の中には色々な価値感を持った人がおられますし、又どんなグループもいろんな考え方があります。夫々一番大事な事は、

1. 自分たちの属している地域社会の精神伝統に誇りを持つべきこと。
  2. そして誇りを持つがゆえに他の地域社会の人たちの精神伝統に対して優越感を持ってはならない。
  3. 最後にお互いに他の精神伝統に謙虚に学ぶ姿勢を持たねばならない。
- このフォーラムにおいても、夫々皆さん方御自身の独自の価値感に基づく独自の考え方があると思います。まず皆さんご自身の考え方に対する誇りを持っていただきたい。同時にここにおられる他の人たちの考え方もそれぞれ誇るべきものでありますから、それに対して敬意を払い、他の人の考え方に対する学ぶべきところがあれば謙虚に頭をたれて学んでいただきたい。これが人間が成長していくための一番大事な要素であろうかと思います。

皆さんがいろんな意見を発表していただいて勉強になるなと思ったら地域にお持ち帰りいただいて実践していただきたい。このフォーラム全体としての結論は出しません。自分の足らざるところを他人の考え方学びあって、結論は皆さん夫々ご自身で出して下さい。まずA班から順に発表していただきたい、その中の共通事項を取りだし議論を進めていきたいと思います。ロータリアンの方々もご意見があつたらどんどんおっしゃっていただきたいと思います。このRYLAはみんな平等対等の立場で意見をたたかわす所であります。なんの遠慮もなく自由に思っている事をどんどん発表してください。

## A 班

### 1. リーダーの条件



- 相手を理解
  - ・子供の目の高さに下りられるかどうか
  - ・自分一人で暴走しない
  - ・弱者へのいたわりの心、奉仕の心が大切
- 知 識
  - ・多くの人とのふれあいで得た知識を生かすとよい
- 経 験
  - ・統率力も経験が物を云う事が多い
- 判 断
  - ・その場の状況判断
    - ・話の切りかえ、考え方の切りかえがすぐに出来るかどうか、機転がきくかどうか
    - ・リーダーの立場で他の人を見た場合、適材適所の配置が出来るかどうか。
- センス
  - ・先天的、後天的なものがあるが、自分の努力で訓練していく事が出来る。
  - ・人間性に基づく信頼性
  - ・自由な思考で人とコミュニケーションがはかれるかどうか。

### 2. リーダーとは

- ① 代表者ではない。人々をまとめる時には、指導して発展させていくと云う立場の人である。
- ② リーダーとして備えなければならない条件があるが 100%満たされる人はいない。
- ③ リーダーにも様々な人がいて、得意な分野、不得意な分野がある。お

互いが得意な分野を生かしてリーダーになればよい。

- ④ お互に補いあうのが理想ではないか。
- ⑤ もしグループの中にリーダーがいなければ、グループをまとめる役割がなくなり、まとまりがつかなくなる。

逆の立場でリーダーになれない人を考えてみた結果、上記のリーダーとしての条件をあげる事が出来た。

### 3. ロータリーとのかかわり方

グループの中で特別に話し合う時間はなかったが、ロータリアンのお話を通して、ロータリーは寄付団体ではないが、青少年の育成等に必要であれば夫々地元のロータリークラブが協力を下さる事、又人生の先輩として、ロータリアンがお話を下さる事が分かり、機会があれば、いろいろ伺って勉強したいと思います。

#### B 班

##### 1. リーダーと指導者って違うんじゃない?

違うとすればどこが違うんだろうか?

リーダーとはleaderかreaderか?

##### 2. ではリーダーとはどのような人なのだろうか?(順不同)

- |                |             |            |
|----------------|-------------|------------|
| ・尊敬される人        | ・指導力のある人    | ・気風のよい人    |
| ・判断力のある人       | ・好奇心のある人    | ・育てられる人    |
| ・信念のある人        | ・経験豊富な人     | ・率先して行動する人 |
| ・信頼を集めれる人      | ・精通するものがある人 | ・魅力のある人    |
| ・やる気と情熱のある人    | ・人好きな人      | ・奉仕の精神のある人 |
| ・人の事が分かる人      | ・面倒見のよい人    | ・余裕のある人    |
| ・笑顔を忘れない人      | ・敏感である人     | ・良い意味の多用性  |
| ・自信と謙虚さを兼ね備えた人 | ・多才、多趣味     | ・責任感のある人   |
| ・後輩に夢と希望を託す人   | ・観察力のある人    | ・与えられる人    |
| ・秀でるものがある人     | ・声がいい人      | ・愛のある人     |

### 3. 身近なリーダーを見て (カウンセラー 三木 明さん)

- ・若い！(若づくり)
- ・縦に横に人脈のある人
- ・笑顔をたやさない
- ・夜が強い
- ・聞き上手(センスがよい) 話上手

その他上記の資質が多くあてはまるのでは――

### 4. その他の意見

- ① リーダーと指導者と簡単に云うが、違うのではないか。  
結論は出ないが、リーダーはグループの中から持ち上げられる人(皆から見て)指導者は任命された人。
- ② リーダーとはとても広い次元にまたがっており、一言では言えない。
- ③ ちょっとしたきっかけからリーダーシップが生まれる事もある。
- ④ 人を生かす事もあれば、人を駄目にするリーダーもある。
- ⑤ 次の世代を考えた時、リーダーの持つ意味は大変大きい。
- ⑥ 我々がリーダーという事を意識して考える事により、よりよいリーダーが生まれて来るのではないか。

## C 班

### 1. リーダーとしての基礎条件

- 人を引き付ける言葉、行動のある人
- まとめる力のある人
- 責任感のある人
- 適当な判断が出来る人
- 相手の意見を聞くこと
- 常識のある人
- 人間性(優しさ、思いやり、嘘をつかない、自分にも正直)
- 人をひきつける強烈な能力、魅力
- えこひいきをしない

### 2. 個々の集団の共通のリーダーの条件

- 安心感のある、信頼がある
- 皆に好かれる人

- 人をうまく使える人
- 忍耐力のある人(耐える、我慢する)
- 社交性、積極性、人間関係のうまく出来る人
- 喜怒哀楽のある人
- 体力がある人、健康な人(自己管理能力のある人)

### 3. 集団なりの条件

- 自主的なグループ
  - ・積極的なグループ……豊富な知識や経験を持った人がリーダーシップをもてる。
  - ・与えられたグループ(ex 学校の学級グループ)……積極的に行動出来るみんなをリードしていける人がリーダーシップをもてる。
- 営利的なグループ・非営利的なグループ
- 大集団グループ……合理的に事務的に処理出来る人、大きく把握して個々に伸ばす。
- 小集団グループ……人間的な人、愛情のある人、信頼される人

### 4. 例外的な条件

- 日常生活に多少だらしないところがあっても、何か強烈なものを持っている人、独創性や他に追随を許さない人 (ex 芸術の世界では秀れた才能)

## D 班

### 熱意・熱きハート・熱き心

#### 1. 対人との関係

自信、厳しさ(自分に対して)、積極的、目立ち(人の上に立てる)、判断力、決断力、統率力、ユーモア、好奇心、探求心、向上心、技術、理解

#### 2. 内面的

信頼性、思いやり、非三日坊主(継続していく事の大切さ)、他人の潜在力を引き続き出せる人(自ら見出す事が出来るように)、感情のコントロール、自分の考えを持っている人、魅力、親しみやすい社交性、人の話をよく聞き、反映してくれる人

リーダーとは、グループ、組織の中のパイプ役、指令塔であるから、全体を見まわしてこれが出来る人が大切な水先案内人、ムードメーカーでもある。

不言実行：言葉ではないリード（背中で教える教師）  
有言実行：ムードを高めながらリードする

} 両面あって結論は出せない

## 発表の後に

司会者 長時間に亘るバズセッションを各班とも見事な分析をなさいまして学ぶところが多いと思います。

まず各班で疑問が出ているところについて考えていきたいと思います。

### 1. leaderかreaderか

この事については両方ございます。日本では一般にleader導くと云うのを指しておりますが、readerもございます。似たような事ですが、英米法では膨大な判例の集積によって法体系が出来上がっています。色々な判例を読んで解説する（人に教える）人の事をreaderと申します。

### 2. リーダーの条件

各班いろいろな意見が出ましたが、集約的にある程度リーダーの条件が出ていると思います。ただこれを100%充たすことは、神様ではないから、不可能であります。すると、最低限これだけは備えていなければならぬと云うことを集約するとすれば、どれを採るべきでしょうか。

A 班 信頼性——グループは人のかかりわりであり、信頼がなければグループは成り立たない

B 班 愛のある人——奉仕の心

C 班 人間性——思いやり、人を大切にする

D 班 热意——総てを含めて

ロータリアン 方向性——方向を示す

素晴らしい背中を持つ人、使命感を持つ人

カウンセラー そのグループに必要性を持っている人、えこひいきのない人、人の能力を引き出せる人、自分に対してきびしい人

司会者 高い理想をかかげてそれに燃えて行動する人（ビジョンをはっきり持っている人）

## ○具体的に考えをすすめて

司会者： 現状は非常に複雑な世の中です。リーダーも人間であるかぎり、時に失敗する事もあります。失敗をしてグループの信頼を失った時、又アクシデントに遭遇した時、リーダーの真価が問われる時でもあります。その時リーダーとしてどのように対応するか、教えてほしいと云う御質問がありました。これについて御意見は？

ロータリアン： ある会社が倒産した時、そこの会社は社員を一人残らず就職の世話をした。こんな話を聞いたことがあります。

司会者： 恐らくそれは退職金の支払いや就職までの世話で自分の財産を投げ出さないと出来ないことでしょう。それは正に責任感、使命感のあるリーダーの姿だと思います。

ロータリアン： アクシデントの時も自分が希望を失わないのみでなく、まわりの皆さんにも希望を失わせない事も大切。又、最後まで祈りを忘れない事、例えば船が難破した時も船長自身が先にあきらめるのではなく、人を救う事、船を救う事に全力をあげる事が出来るような緻密な精神と優れた技能が必要。

ロータリアン： 私も若い頃から海に出ています。ヨットにおいては常に沈着、冷静、適確な判断力が大切です。

司会者： では一つの例を出します。大海原で船が難破した時、1本の丸太と2人の男が海に投げ出されました。その丸太は2人がつかむと沈みます。その時、丸太を彼に与えて自分が沈むべきか、或いは彼を押しのけて自分が助かるべきか、という設問であります。〔カルニアデス（ギリシャの哲学者）の板〕、カルニアデスは、確かに丸太を彼に与えて自分が海に沈む事は正しい事かもしれない、しかし愚かな事だと言っています。しかし、これはカルニアデスの価値感であり、洞爺丸が難破した時、ライフジャケットを新婚の若者に与え自分は船と共に沈んだ神父さんの例もあります。

実は、ロータリーは、世の為、人の為（奉仕）に動いていると云うのはありますが、ロータリーの中でも昔から大きな二つの思想の流れがあります。ロータリーの創立は1905年ですが、1911年にフランクコリンズと云う大変立派な会長がおられました。彼は奉仕とは自分を犠牲にする事。Service Not self(自己否定、自己滅却)=世の為、人の為、ロー

タリーの奉仕、と考えました。自己を滅却して宇宙を支配する神の秩序体系のもとに帰依せよ——これは優れて宗教的なロータリー感であります。洞爺丸と共に沈んだ神父さんは、この思想の系譜に属する人といえましょう。

一方、これより10年ほどして、この自己犠牲の考え方は行き過ぎであると云う意見がどんどん出てきました。ロータリーは職業人の集まりです。倫理的なきれいな商売をして業界を浄化していくという運動であります。自分が売った品物については徹底的に責任を持つ即ち自分の納めた商品にもし欠陥があったら責任を持って回収し修理をしてお客様にお返しする。ところが、もしそのようにすれば、会社が倒産する事が計算上明らかになったとしても、コリンズの思想ではあえてそれをせよと云うのです。それをする事によって銀行の融資や同業者の助けがあるだろうし、その後には絶大な信用が返ってくるだろう、といいます。これがService, Not selfの思想であります。

しかし、口では言っても計算上倒産することが分かっていながら、あえてそれを実行するのは大変なことです。もし、それに失敗したら多くの社員を路頭に迷わし、又、株主に対する責任がはたせません。会社があってこそその奉仕であり、そこまで厳しい事は出来ないと云う反論が強く起きました。

そこで、1921年には、Service above selfとなります。Self自分は厳然と存在します。自分は(self)を否定するのではなく、自分の上に奉仕を考える。これが今のロータリーの標語になっております。しかしservice not Selfの考え方は今でも生きています。ロータリーのservice思想にこの二つの潮流がある事をお話をいたしましたが、地域に帰られてからゆっくり考えてみてください。結論は出ないかもしませんがそれでよいと思います。

受講生： 私のスキーの体験からお話をしたいと思います。

私は高校の修学旅行にはじめてスキーに行ってスキーが嫌いになったのです。みんな同じウェアーでろくに教えてもらえず、あまりいい印象じゃなかったからです。ところがその後、ある一人の先生に会ってスキーの素晴らしさを教えられたのです。その先生は「日本人のスキーは外面にとらわれすぎている。自然に対決した時、信じる物は自分の板一つ、いかに自分

の身を守るか、その場の状況、雪質にあった滑り方を自分で判断する」と言われ、そういう滑り方を教えてもらいました。だから私のスキーはかっこよいものではないけれども、どんな斜面に対しても、又どんな雪質でもすべり降りて来られるものです。生徒の求めるままにリフトに乗せて高い所まで連れていってもすべれない、それでは指導者として失格だと思います。

リーダーは今楽しませるのではなく、長い目で見て経験を積ませ、将来会社に出た時、どんな状況におかれても的確な判断が出来るようにそだてる事が大事だと思うし、物事が好きになるのも嫌いになるのも指導者したいだと思います。将来のあることの芽をつみとってしまう事もあると思います。

司会者： 御意見のようにリーダーとして的確な判断力、あの事をよく考えて行動することはまず大切だと思うし、青少年のリーダーをされる場合、リーダーは金銭でははかる事の出来ないほど価値のあるもの(invaluable)を育てていくのであって、どんな事があっても事故が起らぬよう最善の注意をしなければならないのは勿論です。

カウンセラー： リーダーの条件が沢山あげられました。しかし反面、もし事故が起こったらと言う事からも考える事があつてもよかったです。ないでしょうか。

受講生： もし事故が起こった場合でも、リーダーが全身全霊をもって事に当たっていれば父母や周りからたとえ責められても子供達は真実をよく見ていると思うのです。

司会者： 世の中、夫々の価値感によって正しいと思う事は様々であり、又特に今はそう言った世の中です。その辺のところを間違った価値感にどこに歯止めをかけていくのか、これも又リーダーの義務もあります。

受講生： 引率していての事故についても、色々なケースがあると思いますが最悪のことばかり考えては何も出来ないし、又リーダーにならせる事も出来ない。そこまで考える必要はないが、例えば学校で毎年同じ所に行くにしても先生は下見をするように、下準備や非常の場合の所持品等もととのえ、充分な準備の上にたって積極的にする事が大事。言葉は抽象的かも分からぬが様々なケースによる指導者の資質はおのずから今、我々がリー

ダーとは何かと考えた事から始まると思うのです。

受講生： 私も2ヶ月程前、サッカーの授業の時、生徒に怪我をさせてしまいました。彼は高3で受験を控えて東大の合格ラインまでいっていたのに右手を折ってしまった。誰が悪いのでもない不可抗力の事故でも、私自身が悩んで得た結論は指導者として誠意を見せることしかないのではないかと言う事でした。自分が悪いとはたいへん言いにくい事です。でも誠意を見せる事は一番大切です。

受講生： ガールスカウトのリーダーの場合は、リーダー講習会というのがあってそれを受けければ免許は下ります。

でも小さい時からガールスカウトに入って色々な体験を積んでリーダーになった人と、本で勉強したり、話を聞いただけでリーダーになった人とは、とっさの時の判断が出来るとか、数々の経験から信頼をされるとかやはり違うものがあります。子供に対しても目を離さずに手を出さないと言う対し方でも経験を積まないと出来ないことです。

司会者： アクシデントに対しては、普段からの体験に基づいた万全の用意、そのへんのところを皆さんにおっしゃって頂いたと思いますが、リーダーと云うものは不慮の事故に備えて万全をきし、かけがえのないものを失わないように努めてゆく義務があるのだと思います。しかし、人間ですからあやまちもあります。もしあやまちを起こした時は誠心誠意あやまる事、又他方では過ちを許す心も大事です。今の世の中にある責めればよいというような社会意識を少しでも変えていく意識改革は、皆さん方一人一人が皆さん方のまわりからやっていくより手はないのではないかと思います。法律や行政に頼る問題ではなく、個人個人の問題として、価値感を変えていく、それがやがて世界全体に広がって行くと云うのが理想的な考え方じゃないかと思います。

このことについて、曹溪一滴水という話をしておきます。滴水というのは、南天棒の法脈といわれた京都・天竜寺の管長、由利滴水和尚の滴水であります。一と雲の滴りであります。

曹溪というのは中国の地名であります。始祖達磨から始まり、第五祖弘忍(グニン)の時代になりますと、帝王の師、即ち国師として、巨大な本山に何千と云う僧侶が修業するようになっていました。その僧の中に曹溪と

いう田舎から出てきた慧能という若い僧がおり、彼は、寺の階層で最も低い米搗の仕事に甘んじ、日夜、只管米を搗いておりました。

ある日、弘忍和尚が「自分も年をとったので自分の地位をゆずって印可を弟子に授けたい。については仏法の世界は総て平等であるから、誰でもよい、悟りとはいかなるものであるかを詞偈に書いて壁にかかげておくよう全山に申し渡しました。弘忍の跡継ぎだと自他共に許している神秀と云う僧は、「身是菩薩樹 心如明鏡台 時々勤拂拭 莫使惹塵埃(身体は悟りの木であり、心は明鏡台のようなものであるから、いつも修業につとめて拭き清め、塵がつもるようなことではいけない)、これを見て米搗きの慧能は、菩提本無樹、明鏡亦非台 本来無一物 何処惹塵埃(悟りといっても、そこに菩提の木があるわけではない。明るい鏡といっても心に台があるわけではない。人間の最も純度の高い本来の世界には何もありはしない。何もない所に塵がつもる筈はない)と書きました。弘忍和尚はこれを見て「これはなかなかいいものを得た。」といって、その若い僧・慧能を呼び「お前の本来無一物と云う考え方は始祖達磨の思想に直結する。お前こそ自分の跡をつぐに価する人物であるから印可を授けたい。しかし、米搗きという最も低い段階の僧が印可を受けたとなると、寺の階層秩序が根底から覆える。だからお前に印可と宝物を授けるから夜陰に乗じて逃げろ」と言って彼を逃がしました。翌朝そのことが分かり、神秀は弟子をつれて刀を持って追い掛けます。とうとう、南の方の山の上で慧能に追い付き、殺そうとしました。慧能は、「自分は死んでもよいが、そうすると始祖達磨から伝わった法脈が絶える事になる。この山の上で禅問答をし、勝敗を決めよう」と云う事になり、有名な禅問答をして結局慧能が弘忍和尚の認定通り神秀に勝ちました。その時慧能は「自分が第五祖弘忍の後継者であることは、これであなたも認めるでしょう。しかし自分は信者の少ない南の方に行って法を説きます。だから、あなたは隆々栄えている弘忍和尚の寺にもどりなさい」といって神秀と別れました。ここで南宋禪、北宋禪に別れるわけです。北宋禪はその後法脈がとだえ消滅します。南宋に法を説いた六祖慧能の思想は日本に渡り、日本から全世界に広がって行き、人々の心の糧となっています。この良質な思想も、もとはと言えば曹溪に生まれた米搗きの若者、曹溪にぼたりと落ちた一と雫の滴りにすぎなかつたので

あります。

総てこの世の中は人の集まりであります。人は心です。人の心をよい方向に変えてゆくと云うのは一人一人の心が次から次へと伝わって広がっていくものです。

ロータリーには「ロータリーモザイク」という本があります。モザイクとはガラスの破片です。ロータリーにはいろんな考え方、いろんな価値感の人があり、その一人一人がガラスの破片と同じ様になって、それが組合わされて、モザイクのようになってロータリーの世界を作りだしているという事を書いた本です。曹溪一滴水も、モザイクの一つの破片と同じであります。一人のロータリアンが自分の地域社会へ良質な思想を植え付けてゆく、それと同様に R Y L A で皆さんのが学んだものを通して、地域社会の価値感が間違っていると思ったら、皆さんの身のまわりから変えていく努力をして頂きたい。我々も努力を致します。それは全世界にいつかは広がってゆくだろうと信じます。正しいと信ずる事を説き、又行動して世の中を少しでも明るい方へと持ってゆきたいものです。この R Y L A もそう云う事を願って開催していると云うことを覚えておいて下さい。又、 R Y L A で学ばれた事が少しでも皆さんの心の糧となれば幸いです。私達もいろいろ学ばせて頂きました。

長時間にわたってのバズセッションに続くフォーラム、お疲れ様でございました。ありがとうございました。

# 参加者感想文

## A グループ



## 越 智 真由美

年齢層の異なった人達が、お互いの経験を語り合い共に過ごしたこの4日間はとても意義深いものになりました。共通の話題などはほとんどなく、認識もなかった私達が、このセミナーを通して交流を深めることができたということは、すばらしいことだと思います。

またここは、離れ小島でありながら施設が整っており、快適に過ごすことができました。

R Y L A という言葉はここに来るまで、ほとんど見識がなく、事前にわたされていましたパンフレットを読んだ限りでは、もっと堅苦しいものを予想していたのですが、ここに来てみてその予想がはずれ、うれしく思います。

このセミナーに来ている人達は皆、様々な活動をしており、その様な人達と語り合うことができたこと、更にカウンセラーの方やロータリーランの方々を知り得たことは、自分にとって大きなプラスになったと思います。

これからも機会あるごとに、このようなセミナーに参加していきたいと思います。

## 有 光 美奈子

私はこのR Y L A セミナーに参加するにあたって、父からこのセミナーの事について知り、そして、そういう集団生活の中から“何か見出せる事が出来ればいいなあ” “たくさんのいろんな人と出会いたい” というような割と安易な考えを抱いて、R Y L A セミナーに参加することを決めました。

私は今までにボランティア活動の経験をしたことはなかったし、又、青少年の指導を志しているわけでもありませんでした。そういった意味では、参加したもの “もしかしたら自分は場違いなのではないだろうか” という思いでいっぱいでした。

第1日目は、話し合いの場を設けられましたが、まだみんな緊張していて、なんだかよそよそしく、うまく自分の考えを進んで述べている数人の方を除いては、打ちとけた話し合い、そして交流を持てなかつた事に対して、これから共に行動し、生活していくグループに大きな不安をかかえていました。しかし、

2日目のラジオ体操、そしてレクリエーションをグループ全体で行った事は、そんな私にとって、また全員にとっても一番最初のコミュニケーションをとる場であったと確信しています。その時、自然は人間のまとっているペールをはぎとり、年齢や考え方をも人間に感じさせないんだということを強く感じました。

また、私は、人それぞれが、これほどまでにも熱意を持って、一つのテーマをとことんあらゆる方面から追求していくという姿に感動を覚えました。そしてその中で、私はどんな小さい事でも、そのたびごとに“自分はどうなのか”と自分の心に投げかけることを自然と身につけることが出来ました。なぜなら今までの自分は、他人が言っていることをただ単に聞いているだけであり、自分には投げかけていなかった時もありがちだったからです。この事は、ごくあたり前の事なのですが、それがグループ全員の人それぞれが、真剣に人の意見に対して取り組む姿勢に結び付き、そして、集団生活は成り立つと云うことにして至るということを考えてみました。この、3泊4日の生活において素晴らしい出会いが出来、いろんな人の考え方に対することが出来、また自らをかえてみることが出来たということだけでも、このセミナーに参加して良かったと思います。本当にお世話になった菊沢さん、尾木さん、そしてこのセミナーを設けて下さったロータリーの皆様方、本当にありがとうございました。

### 鍵 田 朋 子

今回のテーマ“リーダーとしての条件”について、各グループの意見等と共に、更に私なりの意見を加えると、以下の様になりました。

#### 〈リーダーとはこう言った人物である〉

尊敬される、判断力がある、信念をもつ、信頼される、魅力がある、奉仕精神がある、(何にでも)余裕がある、敏感である、多才・多趣味である、指導力がある、好奇心がある、豊かな経験がある、精通したものがある、やる気がある、情熱をもつ、他人を理解できる、笑顔を絶やさない、気風がいい、多様性がある、人を育てられる、率先して行動にうつせる、人好きである、面倒見が良い、自身と謙虚さを兼ね備えている、夢と希望を与えることができる、巧みな話術を操る、大きな声でしゃべれる、人間臭さがある、強い責任感

がある、何等かの秀であるものがある、観察力がある、聞き上手である、常識がある、確かな人間性がある、公平さがある、共にいて安心感を感じられる、適材適所に人をつかえる忍耐力がある、社交性がある、積極性がある、良い人間関係つくりができる、喜怒哀楽がある、人に共感ができる、体力がある、健康である、洗練されたセンス(才能)がある、人気者である、強烈な個性がある、知識がある、技術がある、自己管理ができる、リーダーとしての自覚がある、話題が豊富である、無邪氣である、思慮深い、物事の処理能力がある、やさしさがある、思いやりがある、自分への厳しさがある、教える者への厳しさがある、暖かさが伝わる、一本筋が通っている、独創性がある、継続性がある、セルフコントロールができる、熱意がある、目立つ、決断力がある、ユーモアがある、探求心がある、努力できる、向上心がある、人の潜在能力を引き出せる、人に影響を与えられる、人の話や行動を取り込んでものにできる、時としてパ力になれる、明るい、面白い、人を支配しない、権力行使をしない、誠実さがある、人を見る目がある、マインドコントールができる（感情的にならない、沈着冷静でいられる）、親しみやすい、勇気がある、時に冒険ができる、方向性がある、高き理想に燃えて行動ができる、はっきりしたビジョンを持っている、人の犠牲になれる、好感がもてる、使命感がある、そのグループにとって必要性を備えている、人の心をとらえられる、あらゆるもの(事)を分かち合える、正直である、背中で語れる、一生懸命になれる、一体何が大切であるかを知っている、先を見通せる、誠意を見せられる、正義感がある、その場の雰囲気を盛あげられる(ムードメーカー)、相手の目を見て話せる、差別しない、見本となるべき人物である、弱者へのいたわりができる、情報網がある、人脈がある、楽天家、柔軟な思考力がある、プレッシャーに動じない、最終的に発展へと導ける、あるいはそれを念頭において行動できる、統率力がある、愛がある、etc.etc.

あげればきりがないし、似通ったものも多いけれど、内容的に反対のものもあるように思います。大きく分ければ、自分の信条的なものと、身を持って体験することにより、培っていかねばならないものとなるような気もします。

しかし、一つ言えるのは、この全てを兼ね備えた神のような人物は、まず存在しないということです。それぞれに得意な何かがあり、フォローしあうことでの、よりすばらしいリーダーシップを發揮できるのではないでしょうか？

一人だけではリーダーになれないのですから……。

最後に私はこの素晴らしいセミナーに招いて下さったロータリークラブの方々、私のスポンサーについて、このような私を余島へ送って下さった東灘ロータリークラブの方々、また、ここへくるまでのお世話を下さった県の役員の方々、ガール・スカウト兵庫支部の方々、そして、この地で私に貴重な体験とお話をしてくれた皆さんに精一杯の「ありがとうございます」を言わせて頂きます。

それでは、これからも皆さんと友情が続くことを祈りつつ…。

## 中 村 真由美

私達の学校では、この研修に参加させて頂くことは今回が初めてなもので、最初は、知らない人たちばかりで、本当にここで何が起こるのだろう？ といふ一種の不安の様なものと同時に、何を得て帰れるだろうか？ という期待があったことも確かです。実際にこの余島で仲間と共に3泊4日を過ごしてきて、1日目は、まだ初日だからと思い、疲れてはいけないという理由と、明日もあるという考えで12：00頃には友達と部屋にもどったり、2日目も、1日目よりは長く起きていたものの最後までは仲間と一緒に過ごさず……自分のねむいという理由だけで部屋に帰っていました。けれど、2日目の班ごとのバズセッションを行う時間で、課題の話し合いの他に、Aグループというものの在り方について考えて見て、まだみんな殻をかぶっている姿だという意見が出たときに、自分自身の中にも何かモヤモヤする気持ちがあることに気付いたんです。正直に言ってしまえば外側から与えられた刺激によってじゃなくて心の中じゃわかっていたことなんです。でもそのわかっていたことに、自分が自分から行動をすることを拒んでいたことに、すごくはじらいを覚えました。何のためにここに来たんだろう？ って真剣に考えました。でも、その大切なことを口に出して呼びかけてくれた仲間たちに、心から有難うと思いました。

そして、バズセッションの時間は、自分の思っていることを何でも云うということで、しばらく口論をしました。余りの時間で、題からは完全にはなれた一つの話題で、自分にとっては口に出したくない嫌なことも全部話したとき、何故かそれまで気持ちのどこかにひっかかっていたモヤモヤが少しスッキリしたのを今でも覚えています。人と人と本気でぶつかり合うことが、こんなにス

テキなことなんだということを改めて、新鮮な気持ちで知ったように思います。3日目は最後なので、とにかく少しでも頑張って1日ぐらい寝なくっても、今しか出来ないことを大切にしょう……と思ったんです……。寝むたいのを我慢、起きていることは確かにしんどくて……、でも、それ以上に仲間と共に一つ屋根の下で、お互いの意見を出し合うことのすばらしさをここで教えられたような気がします。もちろんそれだけではありません。例えば異年齢の者がそれぞれに集まって生活を共にすることの例としては家族のようなものしかなかったように思います。でもこの研修に参加することによって、いろいろな人がいて、一人一人がそれぞれの異なった意見をちゃんともっていて……、私とはまた違った考え方の人にも出会えたし……、それがいいとか悪いとかじゃないけれど……、すごく「あーそーゆー考え方もあるんだね」と考えさせられたり……、勉強になったと思います。しかし、今あえて上げるとするならば、1日目、2日目も仲間と共に過ごしていたとしたら(朝までずっと)、又、違った気持ちで今日の日をむかえられたかもしれない……と思うと……残念で仕方ありません。

最後になりましたが、今となっては、このまま帰るのが何故か淋しい気もするんですが、来てよかったです……、来させていただいてよかったですと思ってます。そして、このようなすばらしい機会を与えて頂いた方々に心から感謝します。この3泊4日で得たものを持って帰って、これから私どもが活動してまいります。インターラクトクラブの中で、生かせていけたらなあ……と思っています。有難うございました。

### 矢野真理

私はこのRYLAセミナーの中で、年齢、職業のちがう多くの人に出会えたことが私の一番の収穫であったと思います。

3泊4日一緒に生活するキャビンの仲間とも、A班のみんなともお互いの恋愛話を言えるまでの仲になれたこと、とてもうれしく思います。また、バズ、アーラムで話合った「リーダーの条件」は、私が姫路YMCAに戻ってからの仕事の上でもいろいろと参考になりましたし、また自分自身の反省にもなりました。私達A班では「リーダーの条件」として信頼性があるということが一

番大切であるということになりました。

プールに来たり、体操に来たりする子供にとって私はどうか……と、深く考えさせられました。

信頼性があるという中には、人間性の面からも能力面から見てもすぐれているということが含まれます。

私はまだまだリーダーと呼ばれるのは恥ずかしい状態であります。今度A班のみんなに会うときは「リーダー」と呼ばれるのにふさわしくなっているよう努力したいと思います。

## 西 殿 初 代

4日間ありがとうございました。

篠山ではRYLAセミナーは名が通っていて、おおよそどんなものかということはOBからきいていました。そして、それがすごくいいものだということもうかがっていました。が、1日目、2日目と時間はすぎてゆくのにいいと思えることが少なすぎると感じていたのが正直なところです。OBがよかったですと言って帰ってきたのだから、私もそう言って帰りたい、自分なりにやった！と思えるものがほしい気持ちは人一倍強いはずなのに、実行にうつせないもどかしさで一杯でした。3日目の夜、このキャビンタイムにかけよう、もどかしいと思っている人が他に少数いたので、その人とも話し合い、何とか良いものにと祈るような思いでした。今日は私がやろう、そう思って頑張って自分を出していくのですが、みんなに伝わらない、カウンセラーの方もはらはらしておられたのではないか？でも今までどかしいと思っていた者が少しづつ思いを言っていくことによってみんなも自分を出してくるようになりました。皆が一つのこと(恋愛)について話はじめた時、そして最中に、私はこれだ！と思いました。

A.M. 6:00 眠いながらもみんな寝ようとしない、キャビンに帰ろうとしない何か一つのものができあがった、おおげさかもしれません、しかもそれは参加している一人一人が作りあげたすごいものがあると実感しました。そしてその中に私がいる。最高に幸せでした。

今はやっぱり来てよかったという思いでいっぱいです。OBにやっぱりよか

ったよと言って帰れるのが今はとても楽しみです。

本当に有難うございました。ここで得たもの、学んだことを、地元で生かしていけるよう努力したいと思います。それぞれの地域で頑張って下さい。そしてもう一度どこかで会いたいですね。A班の皆さん！ そして菊さん！

森 佳代子

青少年指導者育成のR Y L Aセミナーが行われると父から聞き、自分の考えと違った人達と交わり、よい経験ができる事を期待し、参加しました。将来、養護教諭を目指しているので、きっと自分自身のためになると思い参加しました。しかし、青少年指導者をこころざす人達の情熱を感じるほど、私の生き方、考え方のすべてが甘いと痛感しました。私は漠然と生活していただけなのです。みなさんは、しっかりした自分の意見を持っていましたが、私には基礎となるものが弱く、何一つ意見が言えませんでした。とても情けなく、自分の存在価値に疑問を感じ、落ち込んでしまいました。これを機会に自己変革に努めようと決意しました。

このセミナーは、現在の青年の築いてゆく日本に不安を感じ、青年変革のためには、まず、そのような青年に育てている地域社会の意識変革を求めるものである。よって将来青少年を育成していく私達の変革を求めて行われているものであると感じました。

ロータリークラブが、奉仕精神と、歌の中で「手に手つないで、輪に輪…」とあるように、心の触れ合いを大切にしていることが、ロータリーアンの方々のお話を聞いてわかりました。

一年後は、私も社会人の一員として社会に貢献してゆかなければなりません。自己の幸せだけを求めるのではなく、接する人々の喜び、幸せを自己のものとして受け入れることのできる人間になりたいです。私達が死んでから、この世にのこるのは、私達に与えられたものでなく、私達が子孫に与えたものです。その責任を私に与えられた役割の中で充分發揮できるよう、これからも頑張ってゆきたいです。R Y L Aセミナーに参加できたことを感謝します。

## 元 谷 真佐代

このR Y L Aセミナーに参加して、第一によかったと思うことは、全く知らなかった、また、年齢層の異なった人達と4日間という短い間でしたが、有意義な時間を共に過ごすことができたということです。

たっぷりあった自由な時間をうまく使用する点では、多少のとまどいもありましたが、日がたつにつれて班内での交流も深まり、個人のいろいろ違った意見や考え方を聞くことができたことは、私にとってよい経験になったと思います。

また、このライラで最も印象に残ったことは、バズセッションの後に行われたフォーラムの時間に、私たちA班の司会役を立派に果たしたた谷口さん的一生懸命さでした。彼自身によると、司会役は初めてだそうでものすごいプレッシャーを受けていたようですが、見事役割を果たした姿を見て、私自身、彼によって自分からやろうという行動力を教えられたような気がします。

最後になりましたが、ライラを通しての経験をもとに、これからも、多種多様な人々と交流を深めてゆきたいと思います。

## 藤 原 孝 行

「とにかく若い内は、何にでも参加したい」という気持ちがまず先行して、今回のセミナーへの参加依頼があった時、二つ返事で承諾した。しかし、よく考えてみると、年度末の一番忙しい時期によくもまあ……。という思いも出てきて、行こうか行くまいか、いろいろ考えたが、やっぱり自分はこういうもののが好きだから、いろいろな人の非難(?)にもめげず来てしまつた。

A班がはじめて会した時、「みんな堅い人だなあ」と思った。中学校の入学式みたいな不安な気持ちが一杯だった。そして、みんな口をつぐんでいたんで、口火を切ってしゃべりだした。A班の人には“でしゃばりすぎ”なんて事を思ったかもしれないが……。(2日目の朝のラジオ体操では、みなさんに早起きをさせてスイマセンでした。)

しかし、こんなでしゃばり人間を支えてくれた人、聞いてくれた人に、今、一番感謝しています。3日目のフォーラムにおいて、A班からD班までの報告、

発表があったが、A班ほど、十分討論し、要領よくまとめあげた班はなかったんじゃないだろうか。A班の年輩者から、若年者との絶妙の組み合わせは、とにかく“最高”だったと思います。また機会を持って集まりたいと思います。

4日間という長いようで短かった時間でしたが、いろいろな人に出会い、いろいろな事ができ、今回のセミナーに参加してよかつたと思います。そして、帰ってからもジワ～と実感が出てくると思います。

最後に今日のセミナーにおける事務局の皆さん、カウンセラーの先生方、A班の仲間の皆さん、有難うございました。「さようなら！」は言わないようにしましょう。「また、会う日まで……。」と言って別れたいと思います。

また、参加者の勤務先の方にも、今回のセミナーに参加できる機会(休み)を与えてくださって有難うございました。“では、また会う日までお元気で!!”

## 西 村 基 之

眠い、ゆっくりフロに入り、眠りたい！

兵庫の但馬より来てこの4日間、最初は何が始まるのか？ まずはAグループの面々はおとなしく、お互いの腹のさぐりあいから始まり、なかなか自分の素顔を出してくれなくて、う～む こまつたものだと思いつつ、時間がたつのと同時に相手の性格を読みながら少しづつではあるが、お互いに言いたい事も言い、打ち解けてくると思わぬ反応が出てくると、何とも楽しい仲間となった。それぞれさまざまな理由で、このセミナーに参加し、目的意識を持ったもの、何がなんだかわからずに参加した者と、キッカケは異なるが3泊4日間同じ時間を過ごした、この仲間に出会えた事は僕にとってはいい刺激となった事はたしかで、参加が出来た事は、大変良かったと思う。このセミナーを主催し、参加させてくださったロータリークラブの皆様に感謝します。このセミナーに参加し何かを得て帰る者、またここでの経験が今後何かの人生の糧となるよう個々の活動に期待したい。またぜひ今回のメンバーで何かの機会に会いたいと思う。

大学卒業以来2時間もイスに座って講演を聞く機会がなかったが、この3回の講演それぞれたいへん興味深い問題が取り上げられており、講師の先生も素晴らしい、これだけでももうけたナと思った。

食事も大変おいしくいただきました。こう毎日朝昼夕と三度三度の食事をきっちり時間どおりに取れたのは何年ぶりだろうか、きっと体重が増えているのではと思いつつ。各ロータリークラブの皆さんとカウンセラー、また神戸のY M C Aの方々にご苦労様でした、ありがとうございました。

## 宮川宣仁

「小豆島に行ってこないか」と上司に言われて、このセミナーに参加しました。セミナーが始まり、ロータリークラブという名前さえ知らなかつた私が、先生方の話から、このクラブの目的意識を聞かされて、ロータリークラブの一部ですが、知つたように思います。

日程表をあらためて見たとき、講義が三本あり大変なセミナーになっていると感じました。それに、有名な先生方が年度末という貴重な時間をさいて、余島に来られ私達のために情熱あふれる貴重な講話を拝聴するうちに、話の内容が自分が新しい一步をふみだすうえで、大変参考になるものだと思いました。

また、このセミナーで「仲間の大切さ」をあらためて知りました。各地域から余島にこられたリーダーの皆様と親交を深め本音の討議をおこない、新しい考え方ふれることもできました。これも、菊澤カウンセラー、尾木カウンセラーを始めロータリークラブの皆様の親身になって、お世話いただいたおかげだと思います。

また、私を推薦していただいた宇和島ロータリークラブの皆様、そしてこのセミナーにかかわったすべての方々に感謝いたします。

そして、学んだことを少しでも地域に役立てることが出来るよう努力していきたいと思います。

## 大濱亮

上司の命とはいえ、年度末のあわただしい3月29日(金)渡し船を降りたときから兵庫・四国4県の仲間たちと3泊4日のライラセミナーが始まった。

講演やキャンプファイヤーにおけるロータリーの先生方の感動的な話もさる事ながら、仲間達と夜を徹したキャビンの話し合いを通して様々な色を持った人々が集まり語り合うことでお互いに影響を受けあったことがこのセミナーの最も素晴らしい成果であったように思った。

互いに仮面をぬいで、心を開きあい我を忘れて熱中することの大切さについて本当に考えさせられました。特に青少年行政にかかわっている現在、グローバルな発想(高い理想)を常に持ちそれに基づいたローカルな活動で一人一人を大切にすること」が重要と痛感しました。

この素晴らしい仲間との出会いを大切にし、今後の私の生き方を少しでも上向きのものと出来たらと考えます。

## 奥 田 拓 也

初日は同じ班の人とも打ち解けることができなかつたのだけれど、2日、3日とたつにつれて、他の参加者とも話し合えるようになつてきつた。しかしもう、別れの時が来てしまつた。“もう1日”と思うのだけれど。

長いようで短かつた4日間を終え私達はそれぞれの生活へもどります。

最後に、この素晴らしいプログラムを与えてくれたロータリアンに感謝します。ありがとう。

## 河 端 洋 一

現代の若者は、勿論自分も含めて、無気力とか無感動とか無責任等とかいわれている。私も公民間の職員としてわずか1年ほどだが、社会教育に携わつてみて、青年活動もまた、かなり低迷しているのではと感じていた。このセミナーに参加することになった時も、私は青少年の指導等に全くといつてい程経験がないということもあり、積極的に参加して何かを学びとろうという思いはあまりなく、どちらかといえば、仕事だという思いが強かった。しかし、青少年の活動や指導に熱意を持ち取り組んでいる人達に接するにつれ、自分もこのままではいけないと痛感した。バズセッションやフォーラム、またキャビンタイム等では、ただ漠然としか考えていなかつた様々なことについても、多くの人達の様々な意見に触れて、改めて自分の考えをまとめることができた。多くの人達の様々な意見に触れて、このライラセミナーは私にとって、非常に有意義なものであった。

## 近 藤 嘉 寿

3月29日、家の仕事を放り出して早くも4日目の朝となり、この4日間のライラセミナーがアッという間に過ぎていき、多くの人々と出会い、そして別れて行く。一人一人の顔が、初めて出会つた、あの狭い部屋の光景が、ソフトボールを追いかけたあの瞬間が、キャンプファイヤーの炎が、酒を飲みさわいあの場面がまるで昔の白黒映画のように、セピア色をして、まぶたのスクリーンに、あざやかに映しだされている。

僕の人生にとって、記憶に残る4日間が過ぎ去ろうとしている。こんなに素晴らしい体験をえていただいた、ロータリークラブの皆様には、本当に感謝しています。これからも、このセミナーがますます多くの若者に素晴らしい感動を与え続ける事を祈っています。

デカンショ節の保母・西殿さん、軽いノリの谷口君、駄ジャレ医者の大山君、八鹿マツダの西村君…………。他のAグループの皆様、お世話になりました。

### 大木康次

このライラセミナーに参加でき、大変貴重な体験と有意義な時間を過ごせて良かったです。講演も大変素晴らしい話を聞いていただきました。すぐには、表現はできないと思うけど、少しづつ理解していきたいと思います。そして、素晴らしい感動を与えてくれたことに感謝します。

3泊4日の短い間に、多くの友情が芽生え、自分自身にとって、プラスになったと思います。また、この体験をいかして、よりいっそう努力していきたいと思うし、社会に役立つようにしていきたいと思います。

最後になりましたが、ライラセミナーを開いてくれた、ロータリークラブの方、そしてこの場を幹事してくれた神戸Y.M.C.Aの方々の人達に感謝します。どうも有難うございました。

### 北村信義

R.Y.L.Aに参加して、本当に良かったと思います。

1日目は、だいぶ遅れてしまった、何か言われるかと思ったけど、そんな事はありませんでした。

僕はパーティーから参加になったけれど、皆さんと話をしていると、だんだん打ち解けてきて、同じ部屋になった谷口さんや石川さん達とワイワイ騒いでいました。

本当に困ったのは、1日目の夜でした。

みんな12時過ぎると寝てしまったりして、不完全燃焼のかたまりになってしました。

そこで、藤原さんと我らが若い4人組で何とかしようと相談したり、他の班をすこし見学したりしました。そして2日目まず朝から体操をしました。昼からアーチェリーやソフトボールで皆で楽しみました。その日は何とか4時くらいまではみんなで楽しみました。3日目の夜は皆で朝まで騒ぎまくりました。今日、4月1日がエイブルフルだからこういうふうに書いわけではなくけど、来てよかったです。RYLAに来てたくさん勉強しました。

カウンセラー、ガバナー、ロータリーアンのみなさん、本当にお世話になりました。それからA班の皆さんにもお世話になり、そしてまた楽しい思い出も与えてくれて感謝しています。これからまだまだ人生長いんですけど、ずっと付き合いをしていきたいし、年に2回くらい会って、又一緒にいろんなことを語り合いましょう。本当に完全燃焼できてすがすがしい思いです。有難うございました。

### 谷 口 隆 弘

自分は初め、ライラの事について何も知らなかったが、自分なりに何かを得て、地域に帰って生かせることが出来るようにしたかったから参加した。今、自分の町は青少年活動を必要としているので、自分なりに考えていたことを最大にするためでした。

29日から4月1日までのあいだのライラを体験して、自分なりに色々なことを習得できたと思う。第1に班全体のことについて、考えることが出来るようになった、同じ部屋の中の仲間たちとこれからどうするか、班について話あったり、積極的に動くようにしました。

又、講演も素晴らしく、関西学院大学教授の田中国夫氏、神戸大学教授の美崎教正氏、神戸大学学長・新野幸次郎氏など、素晴らしい講義をしていただいて、大変勉強になり、実に有意義だった。

このライラで習得した色々な経験を、帰ってからどんどん役に立てていきます。

## 石川博久

ライラに参加した目的は、ロータリークラブのことが知りたかったのと、地域に帰ってライラで経験したことを生かしたいと思ったからである。

しかし、ロータリークラブにかかるのは初めてだったので、不安もあったし、戸惑いもあった。

一番驚いたことは、プログラムがほぼ自由であったと云うことである。その自由な時間を班で、また個人でどう使うかということが思ったより難しかった。

スポーツ活動やキャビンタイムなどをして、自由な時間を過ごし、そして親睦を深め、その中で他の人の意見を聞き考えをひろげていく、初めの間はお互いに会話することが少なかったが、次第に増えていき、話が弾んでいった。

自分自身、参加者の中でも年齢が若かったので、同年代といつても、少し上の人達の話が聞けてとてもためになった。

これからは、ロータリークラブともかかわりあいをもち、地域社会のよき指導者となるように頑張ろうと考えている。

最後に、このセミナーでお世話になった、ガバナー、カウンセラーの先生、班の人達、関係者の方々に感謝します。

## 大山英郎

精神的にも、肉体的にも完全燃焼いたしました。とても、すがすがしい気持ちです。総ての事を素直にそのまま受け止めることはできませんが、それがかえって大変深く考えさせられる日々でした。

一番の収穫は、広い地域の様々な思考を備えた人間と出会えた事です。私達のローターアクトクラブは、ある程度似かよった目的や思考をもった集団ですが、同じロータリーの精神の基に集められた人間がこれほど多種多様でユニークであり、真面目に生きようとしている事は驚きであり、この様な方々に多数、出会えた事をうれしく思います。この喜びを今後とも分かち合うために交流を続けたいと思います。

最後にRYLAに参加する機会を与えてまださったホストクラブに改めて感謝し、今後とも我が後輩達ができるだけ多数参加する機会を与えてくださる事を希望する次第です。

## B グループ



## 細木茂

R Y L Aについての感想を書けとの事なので、私にもひとつ書かせていただこうと思う。R Y L Aはよかったです、ためになった、などとお世辞を書いても読むほうが疲れるのでやめる。香川医科大ロータリーアクトクラブの使い走りである私は、最近結婚したばかりなのにもうすぐ子供が生まれてしまうという、計算のあわない先輩の「お前行け！」の一言のもとにこの余島に送り込まれた。オープニングパーティーでの私の不安は、どう若くみても60歳はいっておられるだろう、こわそうなおじさんがうろうろしているのを見て一層大きくなった。この人々は我々の若さを吸い取るためにこのセミナーを開くのかと気付いた時はもうおそかった。その夜にはすでに私は3人のロータリアンにかこまれてしまい、ありがたいありがたい法話を聞かされながら延々飲まされつづけた。ちなみにこの時キャビン内にいた受講生は私ひとりであり、他の連中は女の子とツーショットをかましていたりだったのである。

### 第2章、NOと言えない受講生

すでに神の域まで達していいようかという今井一水戸黄門一鎮雄大先生をはじめとし、講演会の先生、カウンセラーの人々、ロータリアンの人々を前にしてNoと言える受講生はいないだろう。別に年齢が上だからではない。先生方の話される事についての問題意識を持っていなかったり、持っていてもそれがあやふやであったりした、「何々だろう？」と言われても反論できるようなものを持っていないように思うからだ。私は学生であるので教授からいろいろな話を聞くことはあるが、実社会で働いている人々の言う事はまた視点ちがい、物事を考える際の切り込み方に新たな切り方を加えることができた。

### 第3章 R Y L Aの傾向と対策

- ① 男性の受講生はもちろん、女性の20歳になっているとは思えない人もたいへんよく飲む。当然酒が不足するという傾向があるので、地酒の1本位は持ってきてしかるべきであろう。当B班のカウンセラーはM氏であり、当然のことながら荻野さんの持てこられた日本酒2本は一晩でなくなった。
- ② R Y L Aはおいしいと先輩から言われて心うきうきしながら来た男性も多かるうと思う。おいしいのは食事だけであり、4日間ぐらいではどうにもならない事を心しておくべきであろう。あとになって「全然おいしい事なんかないじゃないですか」と先輩に言ったところで「いや、あそこの食事はおい

しかっただろう」と言われるのがオチである。どうでも良いことではあるが、現在私は恋人募集中である。

#### 第4章 R Y L A って体中に包帯まいてピラミッドとかに安置されとる んやろ？ あほ、それはミイラや！

ロータリークラブとは何かまだよくわかっていないが、お金に余裕がある人々が社会奉仕のために、金だけでなく自ら奉仕する団体らしいと思っている。危機におちいっている地球をすくうためには、次世代を担う若者がしっかりしないといけないが、この人間関係希薄の世の中で若者どうし本当に心から話し合う機会は普通はない。それをこのR Y L A が提供してくれたことに対して心からありがたいと思う。しかしR Y L A に参加できる人数は少ない。そこで講演会だけでいいからホール等で開いたらと思う。ロータリークラブでは自らPRが下手だ。地道な活動をひっそりやるところに意義があるのだろうが、外から見ていると「何やっとるかわからん、あの団体は」という事になってしまいかちだと思う。もう少し社会にPRするようなことをしてもいいのではと個人的には思っている。

#### 終章 余島の海の風とともに去りぬ

ロータリアンのみなさま、お世話になりました。5日間も会社を放っておいた社長さん、従業員のみなさんに5日間も社長をお借りして申し訳なかったとお伝え下さい。あと、肝臓を大切になさって下さい。私もしばらく酒抜きをしたいと思います。

受講生のみなさま、一緒に議論したり、酒飲んだり、海に夜光虫を見に行ったりして下さり、ありがとうございました。実社会に出ておられる方々は、年齢が同じ位であるにもかかわらず、学生なんかよりずっと考え方がしっかりしているなと痛感しました。今日かぎりのつきあいではなく、これからもおつきあいしてくださればと思います。高松に来られたら本当に寄って下さい。夏ならウインドサーフィンをコーチしたいと思います、(特に女性の方)。また実家は千葉です。ディズニーランドツアーもしましょう、(特に女性の方)。これからも、よろしく。ご静聴ありがとうございました。

## 福 田 幸 司

初日、都合により参加できなかったけど、2日目に来て、皆にすぐとけ込むかどうか心細かったけれど、割とすんなり参加できました。

私のような年長者はういてしまうかなと思ったら、同年代の方も何人かいらして安心しました。

3日間、午前の講演は、どれも興味深く、また現役の大学教授の講義なので久々に学生の気分にひたったように思います。特に私には、田中先生の講演はおもしろいと思いました。

ほとんど予備知識もなく、まったくの初対面の人々と語り合えるのは不思議なくらい簡単だったけど、それに対して、異なる環境や生活と接しあえるのは何とも楽しい、あまり多くの方とは語れなかつたけど、一つの課題に対する考え方のちがいや、生き方をさまざまと見ることが出来た。

ロータリーの基本の考え方“奉仕の精神”は実社会においてのこれから考え方として実行して見ようと思います。

また、もし機会があるならば、もう一度参加してみたいと思います。ありがとうございました。

### ○ リーダーの条件として

基本的な条件として、サルの集団におけるボスザルの地位を考えてみたいと思います。

ボス(リーダー)は、季節、時間、場所、行動において、自分達が生きてゆくため、知識、経験、体力、行動力、決断力、信頼関係、思いやり、体格等、様々なリーダーとしての資質が要求されると思います。例えば群の食事のときは、エサ場に先頭をきって入り、エサの量、外敵の有無を確認し、群を呼び、食事中は一段と高いところで周囲を見まわし、群を見守りながら食事します。また、子ザルや若いオスザルのケンカの仲裁や、外敵等の有事の最には、真っ先に矢面に立ちはだかり、群を逃がします。これだけではほんの一例にすぎませんが、群を統率してゆくためには、もっと多くのことが要求されると思います。

なぜサルを選んだかというと、生きてゆくために、いつも真剣に取り組まなければならぬからです。

## 海川好史

まず、素晴らしい出会いの場を与えてくれたロータリークラブの皆様に感謝致します。

多数の先生方の講義を開かせていただいて、大変感動しております。

また何よりもこのセミナーに参加するには、体力がいることを思い知られました。

最後にB班の方々大変お世話になりました。

## 吉村成実

自分は今まで、人のため、社会のために、一体何をしてきたのだろうか!?  
という強烈なインパクトを受けてしまった。

また、子供の教育、両親、その他すべてについて、考え方、話し合いが多分に不足している自分が情けないと思った。

- ・自分は、全く書物を読まない(テレビ、ビデオをよく見る)ので、これから本を読んでみようと思った。
- ・講演を聞いた時、その時はものすごく感動した。この感動をいつまで持続できるかが問題だ。(定期的に受講できれば……)
- ・でも一番よかったと思うことは、キャビン生活の中で得た友人と対話をし、親睦を深められたことです。
- ・この余島からスタートして、地域社会に帰って何ができるかが勝負です。

最初は不安、今最高!!

三木さん、松崎さん、皆々様どうもありがとうございます。

## 吉谷義奉

職場を離れ、この余島RYLAの各種プログラムにより自分自身を今一度みつめなおす機会ができましたこと感謝いたします。

余島を開拓された精神、RYLAの精神をもとに新たな気持ちで、今後の仕事や各活動に「奉仕の精神」と「愛」をもって頑張らなくてはならないことを学びました。

大変お世話になりました。

## 久利佳秀

リーダーとは何かということについて、答えは出なかったけれど、常日頃あまり考えたことが無かったのに、余島へ来て初めて考え、話し合ったことにより、この問題は私の中についてまわることだと思います。

ロータリアン、特にカウンセラーの方々が、ほとんど眠らずに私達に付き合っていただいたことには、頭が下がる思いです。

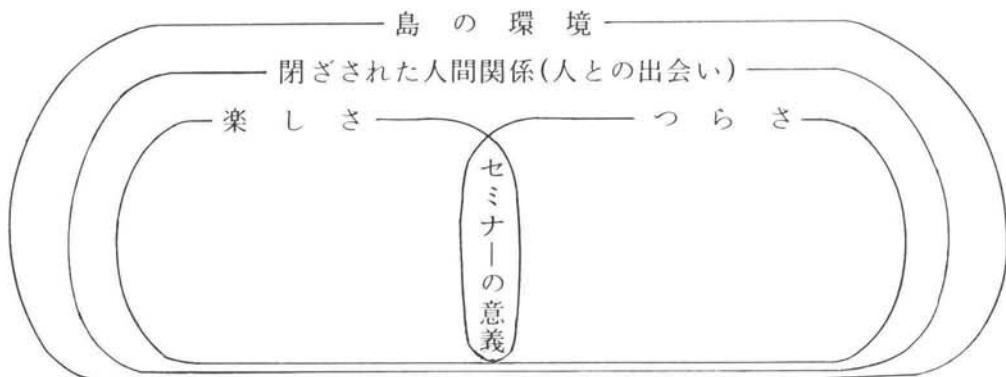
ロータリーは社会奉仕の団体みたいですが、庶民には全然見えない存在です。自分達だけの自己満足だけに終わっていないでしょうか。

## 吉田典生

この島について、まず言わなければならないことは、交通の便が悪いということです。道はあるているし、夜になれば真っ暗で歩くのも恐いほどです。自然是美しいものだと言う人もいますが、それがベストだというのは違うと思います。南の浜は砂浜で泳ぐのによいと思いますが、貝殻や海草が多く打ち上げられて汚ならしい。自然もそのままで美しいものと、少し人間が手をくわえて良くなるものがあると思います。

次に人間関係について述べますと、多様な人達の集まりの中で、自分も生活をしているという事実をかみしめる時に喜びを感じるに至ったのであります。私もよくこういった集まりに参加はしていますが、これほど広い範囲からいろんな年齢の人達が集まった場に来たことは始めてです。自分の世界以外のところで同じ時間を違う場所で生きている人達に会えて本当に良かったです。

つらかったことは、テレビがない、ラジオがない、自由に買い物に行けない。早くから寝られない、お風呂がせまい、お茶がうすい。



## 下野博康

R Y L Aセミナーに参加して心より嬉しく思っています。多くの人々と出会い、そして話すことにより、より多くの情報を得ると共に自己を高める機会を得たことに満足しています。普段の生活の中では話すことのできないであろう。お医者様や会社の社長様、大学の教授等から講義を通してだけでなく、一般的な会話をすることによって得たことは数多く、また、R Y L Aに参加した多くの仲間たち、特に20歳前後の新鮮な感覚を持った人々と会話することにより、失いかけていたものを取り戻した思いがします。社会人である私にとって、3泊4日の自主研修は一つの冒険であり、その反面期待するものも多くあったけれど、その希望を裏切ることのない研修であったと思います。

ただ、3日目のバズセッション並びにフォーラムのテーマであった“リーダーの条件”について、私のとらえていたリーダーの意味と、提案者の認識にずれがあり、適切な意見交換が最初のうちできなかったのが残念でした。と言うのも、私はリーダーを狭い意味で“仲間の中の”あるいは“同レベル間での”という範囲が解していたため、リーダー＝指導者とは、とらえていなかったのです。つまり、同じ目的を持った仲間の方向性をさし示す者としてリーダーをとらえていたのです。もちろん、そこでのリーダーにも一種の指導力が必要なことは云うまでもないことですが、それ以上に仲間の和を保ちながら会員を引っ張って行けるリーダーを想定していたのです。つまり、一国の大統領、首相、大企業の社長を意味したのではない(もちろん、彼等がリーダーであることを否定するものではないけれど)のです。それゆえ、子供を指導するリーダーの教えと多少の違いを感じてしまったのだと思われます。

テーマに対する同一の認識をお互いが持つことは、バズセッションやフォーラムを行う場合、とても大事なことだと思います。次回からは、同一認識がしやすいテーマを設定していただきたい。

4日日の新野教授のお話しさは、残念ながらほとんど聞くことができなかった。昨夜は15分しか眠らなかった、一昨夜は2時間、ついに体力が底をついたようです。新野先生には全く申し訳なく思います。

今朝A.M.5:30の北の浜の散歩は素晴らしい光を見れただけでも、ライラに来た、余島に来た価値があった。

## 小 杯 民 佳

初めは「こんな離れ島なんか嫌いだなあ」と思っていたのが、今は「余島つていいな、まだ、帰りたくない」と思うようになった。

いろんな職業の人達と出会うことができ、よい思い出ができた、講演やバズセッション、フォーラムではいろんな人の話しや意見を聞くことができ、考えさせられる事ばかりだった。

夜は眠るのがもったいないくらいで、日に日に睡眠時間が短くなつて來たようでした。自然にめぐまれていて、料理もおいしい、この余島で3泊4日の「RYLAセミナー」に参加させてもらったこと感謝しています。

これからは、RACクラブも幹事、副会長と協力し、セミナーで学んだことをいかしてすばらしい活動をしていきたい。

## 荻 野 昌 也

若き日々というものは、なんと貴重なものでしょうか、19歳には19歳の華があり、25歳には25歳の華があり、30歳にはその年齢に合つた華がある。

19歳の華は、19歳の時しか咲かないものであり、その時が一番美しい時であります。物事というのは何もかも急いであわてる事が、決して美しいものではないと思います。その年齢の華をその時に咲かせて、より一層美しく咲かせる。自分のペースでゆっくりと足元をみつめながら、自分の人生と踏みしめていく。そういう意味でこのライラセミナーに参加させて頂き、異年齢の沢山の男女と出会う事は、その時々の沢山の華を見、聞き、感じられて大変貴重な経験になりました。華の意味は広い範囲で考えると、華とはその人それぞれの生きがい、ポリシーのようなものと思ってもいいと思います。若い人は若い人なりの年齢の人はその年齢に合つた、考え方、生き方、表現、顔つきなど、色々と見せて頂きました。そんな中でやはり学びたいものは、年齢に関係することなく、学びたく思います。そうするためには、決して、先輩、後輩の間柄では、やはり、ぎこちなさが残ります。男と女になりすぎてしまっても、やや、ギクシャクするかもしれない、やはり一人一人が一個人、一人の人間として認め合つた上で、話をする事が大事なのではないでしょうか。例えば、私24歳です、19歳ぐら

いの女の子を見るとやはりまだまだ「可愛いな」と思う方が先走ってしまって、割と「考え」という面ではありません、触れにくいかもしれません、でも「この子はこの子なりに何とか考え、何かに苦しんでいるだろうな」と思うと、たとえ4つ5つ年下の子の意見でも軽視出来ない面は多々あると思います。やはり人間ひとりひとり何かを考え、何かを苦しんでいるんだと思います。そういうのは、外面が「悩みがない」という表現をすればするほど「皆、大変なんだな」と思ってしまいます。でも、ひとりで悩むというのは、大事な事ではあります、精神、肉体、健康上と共に好ましいものではありません。やはり「悩み」を打ち明けられる友人を作ることが最も大事なことではないでしょうか。何も「悩み」の安売りをしろと言っているわけではありません。自分で悩み、考え、考え抜いた時どうしても分からぬ時、初めて友人に相談する方向に持っていく、そうすれば友達も本当に親身になって答えてくれるんじゃないでしょうか。友達とは共に考え、悩むことの出来る事が大切なのではないでしょうか。しかし、無限大に大勢はいると思います。3～4人でいいと思います。でなければ、悩み抜いた事を相談する時、あまり沢山の人に相談すると自分を見失ってしまうことがよくあるものです。10人に相談すれば10人十色の答えが返ってくるでしょう。その場合いかに自分の考えに参考になる事を取捨選択するかが大事だと思います。それと、友人一人あたりに対する価値が下がってくると思います。別にこの人に相談しなくとも、あの人でもいいという事になれば、その相談相手に対して失礼になるような気がするからです、相手の立場、気持ちを重んじる大事なことだと思います。色々と長々と書きましたが、このライラでよく出た「リーダーとは」の条件の中に私は「気配りの出来る人」というのを大事にしたいと思います。10人でも100人でも、やはり個人ひとりひとりと、人間としての付き合いが大事だと思います。団体としてではない、ひとりとひとりの結び付きを大事にしたいと思います。「give & take」ひとつを与えることにより、一つを得る、いわゆる意見を投げ合う、自分を主張するとともに相手との存在も認める。そんな人と人との結び付きを、この場で学んだような気がします。ごくごく「当たり前」のことを改めて学んだというか、もう一度確信しなおしたという気持ちです。

近畿、四国から集まった沢山の友と先生方に感謝しつつ、終わりたいと思います。

## 近 藤 淳

大学の先生に“参加してみないか”と紹介していただいて、ロータリークラブというものがどんなクラブなのか、RYLAとはなんなのか全くわからないまま、この研修に参加させていただきました。“どんな人が集まるだろう、いったいどんなセミナーになるだろう”と期待と不安がいりまじったような気持ちで、汽車や船を利用して小豆島の余島に向かいました。

開講式やオリエンテーションでRYLAについての説明があり、このセミナーの主旨もなんとか理解でき、大人の集まりとして本当に自由な研修会だということがわかりました。しかし、この余島での生活が始まって、いろいろなスケジュールを行っていくうちに、“ほんとうの自由”というものがなんて難しいものなんだろうという考えが、私の心の中に生まれてきました。いざ“自由にして下さい”と言われてそのまま放っておかれると、自分できっかけを見付けてロータリアンやカウンセラーの方々に話しかけていかないと、向こうからは何も言ってきてはくれません。そうなるとコミュニケーションが取れなくなってしまった。私はとにかく何でもいいから自分をアピールして、自分の考えを聞いてもらい、又、先輩方の意見を聞かせて頂いて、自分が何を考えなければいけないか、これからどんな活動をしていたら良いのかということを見付けなければ、この研修が全く無意味なものになってしまふという事を勉強させて頂きました。

又、大変高度な講演を聞く中で、今の地域社会が私達に何を求めているのかということを考えていかなければいけないんだなと思いました。

その他、キャビンタイムやレクリエーションを通じていろんな人と沢山の交流が出来た事に感謝したいと思います。

夜遅くまでそれぞれの自分の考えを出し合い、時には冗談なども出て笑い声が飛びだしたり、又、自分の考えと相手の考えが合わず、お互いが納得するまで話し合ったりと、本当に自由な中での真剣な触れ合いが生まれたのではないかと思います。キャンプファイヤーでは炎をじっと見詰め、今この場に自分がいることを感謝して、このすばらしき新しい友達の幸福を祈りました。そしてリーダーの条件という一つの課題を仲間と共に考えたバズセッションでは、いろんな意見が飛びだし、たっぷりと時間をかけて考えることができました。

楽しかった事をあげればきりがありませんが、この研修会の中で一番感じた

ことは、話し合うことの大切さ、自分の考えを相手に伝えることの大切さを知ることができたということです。この貴重な体験を生かし、又、後輩たちにも伝え、この機会に出会うことのできた素晴らしい友達と、また再び会える日を楽しみにして、自分の目指しているものに向かって、がんばっていきたいと思います。

### 城 越 孝 輔

一言でいえば、大変有意義な体験をしたという気がします。3月29日開講式の時は不安で不安でたまりませんでした。しかし、友達が1人でき、2人でき不安は段々とり除かれました。又カウンセラーの三木氏、松崎さんも大変頭のいい方で、緊張している私達を、あたかも昔から友達のように接していただき、本当に有難うございました。キャビンタイムでは、互いに心を開いて語り合い、親しくなる事によって、互いを理解し、学び合う事が出来ました。

3月30日の講演についても、地域社会と青少年という事で、いいお話しを聞かしていただきました。現代の若者像という事で自分にもあてはまる部分が多く、その背景、又その地域社会にても同じ事が言えます。その中で先生は子供であっても大人(老人)であっても、コミュニケーションを取りなさい。一種の喧嘩(互いを刺激する)でもかまわない。言わば他人の幸せ作りである。この様に自分自身は感じました。これこそロータリーの意とする所だと思います。

キャンプファイヤー親睦の夕べについても少年期にもどった感じで、お互に喜び、笑い、楽しみました。

3月31日のリーダーについて、いろんな意見が出て、お互いに話し合いました。高校の時にリーダーではないけど、討論会風の感じで話し合った事があります。あれだけ盛り上がった事はないです。それとリーダーについて一言いえば、一番大事なのは、信頼性だと思います。なぜなら、つながりという部分では、信頼性がなければ心を開いて話す事も出来ないし、又、ロータリーの言う互いを刺激しあう事ができない。田中先生の言った事につながる訳であります。

最後になりましたけど、ライラセミナーに参加させて頂き本当にありがとうございました。沢山の友と一緒に過ごし、一緒に物事を考え、語り合い、学び合い貴重な体験ができました。ライラ開催に格別のご尽力を賜りました先生方、本当にありがとうございました。三木氏、松崎さん、本当にありがとうございました。

## 詫間千春

今回、このRYLAセミナーに参加させて頂き、ありがとうございました。日数としては、3泊4日という短い期間ではありましたが、貴重な体験ができたと思います。現在お金でほとんどの者が買えます。しかし、各方面での諸先輩方のお話し、又、講演から得るものは、お金で買えるものではありません。そのようなお金で買えない、心に残るものを得られる場を与えたされたということは、とても光栄なことです。日頃は考えもしなかったことを、自分なりに考え、又、他人の意見を聞き、いろいろな視野からの意見が分かり、とても、勉強になりました。このセミナーにおいては、講演、パズセッション、フォーラムといったような、決められた与えられた時間だけが勉強ではなく、朝から晩まで毎日が勉強になりました。こういったセミナーには参加したことがなかったので、とてもいい経験になりました。

## 乾みゆき

「3泊4日という短い期間で、何を学んで帰れというんだろう」これがRYLAセミナーに対し、正直に思ったことでした。実際参加してみると、毎日が考えさせられること、驚かされることばかりでした。日常では気付くことの出来ないようなことを人生の諸先輩方にお聞きすることができ、どんなに自分が社会に甘えてきたかを思いしらされました。それと同時に前が見えなかつた狭い視野を、少しだけでも広げることが出来たように思います。

それに、同性、異性問わらず、多くの人と知り合えた事、キャビンでの楽しい中での勉強になる話し合い、貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。余島での事を忘れず、日常の生活に戻り、セミナー参加して、一回り人間が大きくなつたなと思われるよう努力していきます。

## 星川麻紀子

私はRYLAという意味もしらず、このセミナーに参加しました。午前中、大学の先生方の話しをお聞きし、午後からパズセッション、レクリエーションなど、そして夜は各班ごとのキャビンタイム……というハードスケジュールの中、いろいろなことを学びました。講義では普段、大学の授業では聞かない生

の声、本音を聞き、現役の大学生である私にとっては、本当に貴重な経験でした。普通の学生生活を送っていると、出会うことのない社会人の方々と話し合い、また、余島という自然の中で、初めてヨットにのせていただいたり、RYLAを通じて得るものは多かったです。

最後に、ロータリアンの方々、余島の方々、本当にありがとうございました。

### 谷 川 真奈美

まさにI enjoyed "Yoshima Life!" I enjoyed RYRA very much!!

参加者みんなが、この同じ気持ちを共有していることを、確信しています。

3泊4日をふりかえって、出会いにはじまり、親睦・交流、そして幾度ものあの熱気あふれる話し合い…と、いかに多くの感情と成果が、この短い期間に濃縮されていたかを思うと、縁あってこのセミナーに参加できたという幸運に感謝せずにいられません。

特に学生である私にとって、最も得難く尊いものは、今回知り合った出身地を越え、世代を越え、社会的立場を越えた、様々な人生の先輩方と共に過ごした時間です。単なる「世代間交流」とでは言い明かせない。寝食という最も人間的な生活基盤を同じくする上に生まれるコミュニケーションがそこにはありました。時には、同じ講演で受けた感銘を表わし合い、ときには諸々の社会問題・心理問題について各人なりの経験から自分の強さや弱さを解放し、また時には同じ志しに対して、お互いに高め合い、かと思うと同じことにお腹をかかえて笑ったり……本来なら話すことでも、ましてや出会うことさえもなかつであろう方々の信念なり、情熱なりをありのままにして、私にはすべてのことが興味深く、感激、また感激のくりかえでした。

またもう一点、このRYLAの特徴として、デスカッションと個人レベルの思索の組み合わせ……この静と動の絶妙のコンビネーションに私は感服しました。他へ発するものと、自内に問いかけるものは、常に一緒にあらねばならないと私は思います。そうすることによって、はじめてみんなの中の自分、世界の中の自分の役割が見えてくるのだろうし、内面の成長が約束されるのでしょうか。

いかなる時も、ひとつの事柄を考える時には、人の意見から学んだことと、

自身から生まれる新しい発見とを大切に、一つよりは二つ、二つよりは三つと、いろんな角度から物事を見、そこから何が最善であり、何が憎むべきものなのかと、しっかりと判断し、自分の行動の責任とできるようにしていくことが、これから私の目標なんだと実感します。

私達をその豊かで美しい自然で迎えてくれた余島と、私達の生活をこんなにまで快適に実りあるものにして下さったスタッフのみなさんに、心からひとりひとりお礼を言いたい気持ちで一杯です。

ここで、気付かせていただいた私達のはかりしれない可能性を、地元に帰ってからの行動で、いくらづつでも發揮して、おかえししたいと思ってやみません。本当にありがとうございました。

#### ◎ 感じた点

- ・参加者名簿について、前もっての情報が先行するよりも、自分達で話していくことにより、お互いのことが内面とともに、よく理解できるようになるという点で、メンバー間では特に必要ないものであるし、必要であればおのずと手作りの名簿ができてしかりなので、自主的な自由として、はじめから手渡されていないのは、大変良いことだなとは思った。
- ・しかし、やはり比較的他班間での交流は少なくなるため、それをおぎなうために、キャンプファイヤーなど、今のスタッフの中に、メンバー間で自己を交せる内容のものがあることもいいなと思った。

### 片山恭子

この余島での4日間が、どれほど多くの感動を私達に与えてくれたか、今、それを振り帰ってみて、本当に意義のある時間を過ごさせて頂いたと感謝しています。

様々な世代、様々な考え方を持った人と出会い、交わり、色々な事を学びました。年下の人に教えられる事もありました。又、なまいまきにも年上の方に意見することもありました。そうした世代を越えた関わりの中で、せまかった私の視野も少しは広がったのではないでしょうか。

自分とまるで違う考え方を持った人の意見を尊重するということ、わかっているつもりで実際は出来ていなかったのだと気付き、その大切さをあらためて

認識しました。

この俗世間を離れた豊かな自然の中では、何もかもを素直に受け止め、その事について柔軟な心で考えることが出来る様です。

人のしあわせを祈るということ、どういうわけか普段の生活の中ではあえて避けてしまう話題です。何かこう…気恥ずかしいような気がするのです。

ですが、このセミナーではロータリーの方が、講師の方が、“人を愛しましよう” “人のしあわせを祈りましょう”と少しのためらいも気恥ずかしさもなくおっしゃいました。

私はいったい何を恥ずかしがっていたのでしょうか？

今、私はこのＲＹＬＡセミナーでの出会いを心から大切に思います。意見の違った人、共感できる人、その両方の人のしあわせを願うことが出来ます。

この余島へ来る前の私と、今この島を去ろうとしている私は、ほんの少しかもしれないけれど確実に何かが違っています。もちろん良い方向へ。

文章力の無さゆえに、私の受けた感動をうまく伝えられない事をはがゆく思いますが、このセミナーでのすべての事をわすれず、これから的生活に生かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、カウンセラーの三木さん、松崎さん、本当にありがとうございます。

### 山 下 京 子

今回、このような素晴らしいセミナーに参加させて下さいまして、本当にありがとうございました。ロータリーの皆様、スタッフの皆様に心からお礼を申し上げます。そして、ステキな三木先生、ミセス松崎、お世話になりました。

さて、この感想文を書くにあたり、一体いつこの感想文を書くのか、という事が話題になりました。要領のよい人は昨晚のフォーラムの時間に書き上げておられました。私も夜書こうかと思いましたが、夜は最後の夜であり、一人残って書くという事は心がひけます。そこで根性のある人は朝早く起きて書くのでしょうかが、そのような根性を持ちあわせていない私は朝食後から新野先生の講義にかけて書こうかと思っておりました。しかし、同室の女の子が「昼食前に提出させようということは、つまり新野先生の講義を聞かずして書き上げないと間にあわない、しかし、これは大変、新野先生に対してめちゃくちゃ失礼

や」と言わされました。その時は、それをもっともだと思いつつ、今となっては新野先生の時間しかないのでからしかたないと心の中では思っておりました。しかし、新野先生の御誠実で高潔なお人柄に接した時、この方に対して不誠実な行いは出来ない。お忙しい中、わざわざこの余島におこしになった先生に対して、せめてもの私達の心のつくし方と思い、潔く講義を開くことにしました。先生のお話しさは、少しも高ぶることなく、私どものような者にも分かりやすく、物事の本質をつたえようとする姿勢につらぬかれ、内容については把握したとは言えませんが、心に入りました。

特に最後「少々つらい事があるても、相手のことを思って行動することが、今後の国際社会に対して重要なことである」というお言葉は、昨夜の深川副ディーンのお話にあった、ロータリアンとしての清い企業倫理の話とIDA天のお話と相あまり深く深く心に残りました。（できたら、レポートを書く為の時間があれば、多くの皆さんがもっと落ち着いて、新野先生のお話を聞けたように思います。）

「思いやり」という事で、このセミナーにきて、もう一つ心にきざんだ事があります。それは同じく新野先生の時、隣に座った青年が脇目もふらずにレポートを書いておられます。その席が通路をはさんで一番はしっこの席で、前から3番目という席でしたので、新野先生に対して申し訳ないような思いでみていました。

しかし、まわりの方が大なり小なり内職をしておられましたので、これも時間の関係上いたし方なかったのだろうと思っておりましたら、突然すべての道具をしまって、腕をあぐらに組んで額をのせて眠りはじめました。あんまり堂々と眠られますので、後頭部に空手チョップをくらわせようかと思いましたが、深川先生の「人の考えもまた大切にする」を思いおこし、彼はどうしてもやむを得ず眠っているのだろうと見過ごしました。

しかし、様子をみていると、時々彼は起きて、時計をわざわざポケットから出し、時間を確認して、また眠っているのです。5回位、彼はこの動作を繰り替えしたでしょうか、途中「あなたのその態度は新野先生に対して大変失礼だと思います」と言おうかなと思いましたが、セミナーの最後にそんな事を言つても、彼の場合、意図的にしている行為だし、はじめから新野先生のお話を聞く気がなかったようだし、セミナーの終わりにいやな思いをさせることない

か！と思いつつ、ついに終わりまぎわに新野先生が「これからは国際社会に対して、私達は人間として、国家としても、相手のことを思いやり、少々不利益をこうむってもやりとげなければならない。思いやりという事が一番重要であると言われた時、私はその瞬間、自分がいかにこの隣人である彼に対して思いやりがなかったか、リーダーにとって愛が一番大切だと言いながら、私はこの人に対して本当に不誠実な態度を取ってしまった、自分の情けなさに対して、思わず涙がこぼれてしまいました。「思いやり」を示すことは時として自分の身を切る心がなければ出来ない事なのだという事を、だからこそ難しく、重要なのだという事を、弱い自分を教えられました。

本当にありがとうございました。

### 谷 本 直 樹

本当に短かすぎた4日間。

その短い間に知り合った仲間(何年も前から知っていたような……)。

子供の頃、確かに自分のそばにあった大事な物。年をとり、なくしてしまったと思いこんでいたその大事な物が、いまだに自分のそばにあったことに気づいた驚きと喜び。

仲間からもらい、人生の先輩からもらった素敵なおみやげをかかえて、今日島を離れる。

本当にありがとう。

仲間、それは何物にもかえられないものがあり、感動する心のきずなこそ、最も大切なものですと思います。

## C グループ



## 高 橋 知 宏

ライラセミナーに来て感じたことは、それぞれ違った職業の人がいろんな事について真剣に考えている事。

今まで、自分自身、仕事においてもプライベートでも討論をしたり、真面目に考えたりする事がなく、全く違う世界へ来たなという感じでした。日頃からあまり発言・意見を言うことのない生活でしたので、少しとまどってしまったと言うのが正直な気持ちです。

今回もキャビンタイム、バズセッションの発言も少なく、ただ聞くだけでしたが、いろんな人の考えを聞いた事は、今後役に立つのではと考えます。

今はまだ、このことがこういう事に役立つとかいうのはわからないし、頭の中で全く整理もできていませんが、地元に帰り、もう一度ゆっくり考えてみたいと思います。

今回の経験をして良かったと思えるよう努力したいと思います。

みなさん、ありがとうございました。

## 池 田 徹

「よくもまあ、今までつぶれないで、続いているなー」。私は地元のロータリークラブの昼食会に、ライラセミナーからのゲストという形で行かせてもらったが、失礼ながらそういう感想を持った。わけがわからない。

まずコース料理を食べ、何人かの自己紹介の後、歌を歌ってカーンと鐘を鳴らして皆さん部屋から出していく。さあこれから何をするのかなと思っているとそのまま全員帰ってしまった。

普段、自分が所属している団体では、なかなか本音では話せない。距離が近すぎて、後々の人間関係のフォローをするのがめんどくさい、または嫌われたくないから。私はこの3泊4日で、まあ、てきと一に好きなことを(いいかげんという意味ではなく、本音でということ)しゃべらせてもらった。また、相手も好きな事をしゃべっていたように思う。ここで気付いたのは、後者の方が早く打ちとけることができるし、話しも早く進みやすいということ。

こういう点にロータリークラブの魅力があるのだろうと私は感じた。

## 篠 原 克 昌

就職をして、日々職場の人間関係中心の生活をしていると、自分の考え方や視野が狭くなり、そして柔軟な思考ができなくなっていくのをもどかしく感じます。

自然のたくさん残っている瀬戸内の島、この余島で、4日間も非日常体験を送れた事は、それだけで幸せで、人生の洗濯が出来ました。講師の方の貴重な講演は、広い視野と深い洞察力をもって、大きな示唆(インスピアイア)を与えてくれました。また、広い地域から集まった若者からは、様々な職業上の立場から、いろんな考え方を学びました。

ロータリークラブの方々には大変にお世話になりました。ひとまわり大きくなつて、また、お会したいものです。ありがとうございました。

余島をボートで一周したのは、一生の思い出になると思います。僕には現実を傍観する姿勢、島を海から眺めることが必要だったのかも知れない。

## 池 田 宇 次

ライラに参加しての感想を一言でいえば、「感激」という言葉に集約される。本当に様々な感激があったが、中でも次の二つの感激が大きかった。

まずは一つは、本当にたくさんの人と知り合えたことである。先日(3月10.11日)参加した。ローター・アクトの全国研修会でも、たくさんの人と知り合えたが、このライラセミナーでは、それらの人達と3泊4日にわたって、様々な話しができた。現在私は大学生だが、単科大学であるため、偏った人との付き合いになりがちなので、非常に良い経験となった。様々な立場の人達と本音で話しができる機会など、そうはないものである。

もう一つは、3回の先生方による講義である。新しい角度からの考え方をえてもらえ、本当に良かったと思う。無論、ただただ良かったわけではなく、多少の反発を感じる部分もあったが、それも、自分以外の価値観の発見となつて、大きな収穫だった。

はじまる前は、3泊4日というのが長い時間に思えたが、今思えばあっというまだった。できればもっとゆっくり話し合いたかった。

聞くところでは、ライラの班の同窓会をするグループが多いそうだが、私もぜひ集まって、もう一度この感激を味わいたい。そして、いつまでも良い仲間でいたいと思う。

最後に、私にこのような機会を与えて下さったロータリーの方々をはじめ、Y M C A の方々にも心から感謝致します。

### 正木一郎

わけもわからず参加したR Y L A セミナーも、もう少しで終わろうとしています。この研修会を通して私が最も強く感じたことは“ねむい”ということですが、なぜ、こんなにしんどい思いをしてまで、毎晩遅くまで起きていなければならぬのでしょうか？

実は、ここにR Y L A セミナーと他の研修会との違いがあるのではないかと思います。こんなこと書けば失礼になるのかもわかりませんが、午前中の講演や、他のプログラムは、より充実したキャビンタイムを過ごすための単なる前座であるという感じを今受けています。

考えてみれば、普通の研修では単なる余興の場であるキャビンタイムのために、講師の先生や施設を用意してもらっているのですから、こんなぜいたくな研修会はないのかもしれません。しかし、これはぜいたくかもしれません、無駄ではないと思います。少なくとも、私にとって今回のセミナーは有意義なものでした。

今後もR Y L A セミナーが、会を重ね一人でも多くの人が参加できるように希望しています。まあ、とりあえず今夜はゆっくり寝ます。

### 疋田 稔

今は最終日の朝です。三日間の疲れが出て非常に眠たいというのが正直な感想です。

R Y L A は、全く生活環境の違う人があつまります。私は、単科大学に学んでおりますので、環境上ともすれば視野が狭くなりがちです。

様々な人と出会うことにより、多種多様の意見をうかがえて貴重な経験になりました。

今回のR Y L A のテーマは、リーダーの条件というのがバズセッション、フォーラムの話題でした。R Y L A の参加者には実際、地域の社会で子供たちの野外活動のリーダーとして活躍されている人がいらっしゃいました。僕等の現場の声を伺うと自分の考えが机上の空論になりがちだということを痛感しました。この出会いを大事にできればと願っております。

ところが時間が短いということも事実です。まだまだ話したいことが沢山あるのに、今日で終わるのは残念です。それに最終日の講演は、時間的余裕がなく、徹夜明けでもありますので、印象が薄かったように感じます。もう少し、ゆとりのあるスケジュールだと良かったのにと思います。

### 山 崎 孝 弘

自由・自主・自律でやってきたライラセミナーもやっと最後を迎えた。自分で自分を規律して進めていくこのセミナーに共感をおぼえる。時間は万人の共有物というディーンの言葉が心に残る。不思議と皆時間を気にしながら有意義にすごせたと思われる。

この種のセミナーの良さは、異年齢・異世代・異業種・異文化等の交流にある。利益を離れ、語りあえる、そして、他人の新しい知識・考え方などを得て自分のものにする。また一つの幅が広がったかな?と思わせる。

心のつながりができる、友になる。名簿ができる連絡が始まる。人の出会いは、すばらしい副産物を私に与えてくれた。余島でのこのすばらしい時間と空間をありがとう。ライラを通して私に新たなすばらしき友を与えてくれた。本当にありがとう。このセミナーの益々の発展を心から祈りたい。

### 渋 谷 典 仁

R Y L A セミナーとは? ロータリークラブとは? 何も知らず眠い目をこすりつつ、3月29日小豆島に到着。バスと小船で余島へ。3年振りの余島だ。

不謹慎ながら内心バカンスの気持ちで来た私は、ひょっとするとカヌーに乗れるかも知れないとかすかな希望を抱いていた。（2日目の午後、初めてカナディアンカヌーに乗るチャンスがあった。LUCKY!）

103というキャビンには私が1番に入室、しばらくすると松山から、出石町から……と兵庫、四国地方の様々な仲間がやって來た。聞くと、皆私と同じでRYLAもROTARY CLUBもよく解からないらしい。その内の1人から夜は眠れないことを知らされた……ゲゲッ！

最初の夜、世間話しから始まって、夜もかなり更けた頃、教育問題に話が及び、いろいろな立場からいろいろな意見を聞くことができた。私も考えを述べさせて頂いた。私も仕事の関係上、その方面の話を聞いたり、本を読んだりしていたが、今まで話す機会の無かった立場の仲間から、鋭い意見を聞かされ、大いに刺激を受けた。気が付くと3:30A.M.であった。

セミナー中、午前中は青少年に関する講義を専門の先生から聞くことができた。私にとっては自問自答の拝聴であった。大学を卒業して6年目になるが、田中先生のお話は、身に責まるものがあった。また、美崎先生、新野先生のお話も大変勉強になった。

しかしやはり、夜の討論が印象に残る。今井先生は「何かひとつ心に残る物を得て欲しい」と言られた。良き仲間との出会いがあり、心おきない話し合いがあり、仕事をはなれゆっくりと羽根を伸ばせたし、本当に有意義な4日間であった。しかし眠い……。

### 岡 崎 賢 志

RYLAの意味もわからないままに、余島に来て、不慣れなテレビもステレオもない重苦しい感じで始まった4日間のセミナーでしたが、同じ班の仲間達や、カウンセラーの方と話をしていくにつれて、緊張もほぐれ、楽しく、あっという間に過ぎていった感じがします。

結局、ぼく自身の頭の中では、RYLAの精神というものが、はっきりと理解、整理されないままに、終わったような気がします。

しかし、今回出会った、全く知らない人達と討論したり、遊んだりしたことばくにとって大きな意味があったと思います。

この貴重な体験を大切にして、これから的人生をより充実なものにできればと思っています。そして、その結果、何か他人の役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、このセミナーを運営された委員会の方々、特にカウンセラーの篠原先生、林先生に深く感謝します。

### 粟 井 強

ロータリーのライラ？何か知らんけどどうとう来てしまった。ここ小豆島の余島、ボートに乗る顔ぶれはみんな若者ばかり、一瞬場違いの所に来てしまった、そんな感じで受付を済ませた。

でも、同室の気さくな若者に逢い心がなごみました。オープニングパーティーでは、赤穂の松本さんと逢い、より一層心休まる思いでした。

オープニングパーティーのあとキャビンタイム、今の若者の考え方を知り、“その様な考え方もあるのか”と改めて知らされた視野の違いを感じました。

翌日の講義、そしてレクリエーションでは初めて乗ったヨット、カヌー、そしてボートで余島一周の大冒険、久し振りにのんびりした一時であり“もったいない”と思った一時でもあった。

キャンプファイヤー、十数年前に戻ったような気分になり、最高でした。

講演の中での若者像、一般的に言われている若者像であったが、私たち中年にもあてはまる内容が多くあり、驚いた次第です。

本当にこのC班のみなさん、この中年と一緒に輪の中に入れて頂き、一緒に行動できたことを嬉しく思い、感謝致しております。

そして、来年この地に赤穂の若者をぜひ迎えさせてあげたい。私の気持ちが15年若返り、明日からの子供会活動が待ちどおしくなりました。

みなさん、本当にありがとうございます。

## 吉 本 国 生

3泊4日間、ライラに参加出来て大変意義深いものを得ました。

午前中の3回の講演では、色々な知識を得ることが出来、3年間分の大学での知識を得た思いです。

キャビンでのお話、親睦、全員の意見を聞き、各自がその問題点を考えていいく。それぞれの立場、知識、経験を通して、よりよい解決方法をさぐりました。

バズセッション、フォーラムでの意見交換、討論とあらためて自分自身の考えを確かめ、相手に自分の意見を理解してもらう等、思索方法も学べました。

キャンプファイアーでは、少年の頃にかえり、友情、愛、おもいやり等、暖め考えなおすことができました。

次回のライラには、後輩に参加させてやりたいと思います。“ありがとうございます!!”

## 徳 島 瞳 生

電報

受付 タカマツ 90/03/31 23:25

6495-9057

オイワイ \*オシバナ

カガワケン ショウズグン トノショウチヨウ トノショウ  
ヨシマ

こうべ YMCA ヨシマヤガイカツドウセンター ナイ  
ライラーセミナーC グループ様

ライラセミナーしゅうりょうおめでとうございます。せっかくなかよくなれたのにはなればなれになるのはさみしいですね。たかまつのかたはさておいて、たのちいきのかたはからだにきをつけて、がんばってください。それとみどりちゃんおはなありがとうございます。それではおげんきで。

とくしま むつお

(一足先に帰えられた、徳島瞳夫さんからC班にとどいた電報です。)

### 三 馬 増 己

第12回ライラセミナーに参加できたことを、本当にうれしく思います。

私にとって心から語り、うちとける場所を作つて下さった皆様方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

よく学び、よく遊び、一日一日を大切にし、過ごして行くということがどれ程よいものか。又、自分自身も納得がいく充実した日々を過ごすということに感動をし、余島で過ごした4日間は、一生涯忘ることはないでしょう。

初めて会った仲間と共に、互いに協力しあい、共に話し語らいあった仲間の輪のキャビンタイム、幼児の様に思いきり体を動かした海でのヨット、カヌー等、キャンプファイヤー、楽しかったことばかりです。キャビンタイムでの語り合いは時間がたりないくらいで、もっと時間があればと思う程でした。

ここで学んだことを生かし、愛の日をともし、奉仕の心を忘れず生活して行きたいと思います。

諸先生、カウンセラーの方々どうもありがとうございました。

### 林 真 紀 (カウンセラー)

ゆったりしているようでも、アッという間の4日間でした。

キャビンタイムで楽しそうにしゃべっていた顔、ヨットやボートにのったうれしそうな顔が一人一人思い出されてきます。みんなにこにこと、いい顔をしていました。

しづかに友情が深められていったC班でした。それぞれがライラの意義をしっかりとらえて下さったこと、うれしく思いました。どうぞロータリーによつて若い人たちにまかれた種が皆さんの中で芽を出し、花を咲かせて下さること願ってやみません。

これから皆さん的人生に幸多いこと祈ります。

## 藤 本 千 波

このライラに参加出来たことに、たいへん喜びを感じています。

今まで小さい範囲の中で意見を言ったりして、そこだけで満足していました。だから考え方とか片寄ってたと思います。このライラに来て、みんなで集まって、いろいろテーマを出しあって議論していく。こんなに素晴らしいことって今まで一度も経験したことありませんでした。議論していく、自分の無知に気付いたときは、空しくて恥かしかったです。

ここで過ごした時間はとても貴重だったと思います。気合いを入れて過ごせました。

有意義にすごせたこのライラに、感謝します。もっと他の若い人たちに、ライラに参加することをすすめたいです。

前にも述べたように、小人数の議論から多人数の議論へと徐々に広げていくことが大切だと思ったので、これから実現していきたい。

## 宮 谷 吉 恵

このライラに参加したのは初めてですが、この4日間、様々な体験をしました。全く違う価値感の人々が一つのテーマについて討論し合うという体験は一度もしたことがありませんでした。今までによく似た価値感の人達としか討論し合う場がなかったので、今回のこのライラセミナーは、本当によい機会になりました。まず、様々な年齢の人々から様々な意見を聞くことができたことが良かったです。意見の中には、自分が考えもしなかったようなものもあり、自分がどれだけ視野が狭いかが解かりました。また、キャビンタイムでは、活発な討論をし、その討論の中で、様々な意見を聞くことができ、又、その意見を聞いた上で様々な考え方や問題点を新たに発見する事が出来たのです。こういう討論の場を通して、多くの人々と友達になりました。

このライラセミナーで教えたことを基盤に、今年の夏おこなうキャンプファイヤーを考えていこうと思います。

## 条 田 弥 生

第11回 R Y L A に参加した私の友達がすごく感動して帰ってきました。第11回のテーマは『愛』だったそうで、就職とか、いろんなことで悩んでいたのに立ち直って帰ってきました。

そんな強烈な印象をうけたのはどんなセミナーなのかなあと、期待してやってきました。キャビンタイムでの討論がとても印象的でした。班全員が真剣に数時間、日々の生活の中で考えていることや議題について、自分が持っている知識や情報を総て出し合って話し合いました。私にとって最も身近であった議題は「子ども会活動はどんな役割を果たし、また子ども達にとって必要なものか?」というものでした。私が子ども会活動で見る子ども達は6年生が下級生をまとめ、学校での横のつながりだけでなく、縦のつながりの中で遊ぶことができ、子供達にとってとても楽しみであり、楽しいようです。他には危険をどのように知らせるかなど、たくさん話し合いました。私は R Y L A に「物事について真剣に考え、討論し、知識を広める場」という名前をつけたいと思います。

こういう場を私に与えて下さった皆様方に感謝します。

## 加 藤 みどり

このライラに参加させて頂き、充実した3泊4日の中で、本当に様々なことを考えることが出来ました。

3人の先生方の貴重な講演、レクリエーション、バズセッション、フォーラム、キャンプファイヤー、etc.他のセミナーやキャンプには決して見ることの出来ないすばらしいプログラムの中で、自分自身を見つめ直し、他の楽しい仲間たちとの触れ合いの中で、本当の幸せ、本当の豊かさがどのような物であるかを、改めて深く知ることが出来ました。

又、朝方まで続いたキャビンの討論では、青少年の問題に始まって、さぬきうどんの美味しさ?まで、本音をぶつけ合いながら、とてもすばらしい友達

をつくり、眞のリーダーシップ、国際化、人間性の重要さを考えました。

美しい余島で、すっぽりと自然に包まれて過ごした4日間は、きっといつまでもキラキラ輝いて残っていてくれるでしょう。

暖かく見守って下さった諸先生方、カウンセラーの方々、係の方々、そして素敵な仲間たちに心から感謝しています。ありがとうございました。

愛の火をともしながら……

### 長 友 令 子

4日間にわたり、余島のすばらしい自然の中で、このセミナーに参加し、自分を見つめ直すことができ、講演をして下さいました先生方や、私をこのセミナーに参加させて下さいましたロータリアンのみなさまに心からお礼申し上げたいと思います。

日頃、多方面で活躍されている方々のいろいろな生の声を、これから私の人生の“道しるべ”としていきたいと思います。

また、仲間たちととことん語り明かしたバイタリティーを、会社にぶっつけていける勇気と、正しい物を正しく見ることのできる目をもって自分の進んでいくべき方向をみつけたいと思います。

カウンセラーの先生方はみんなそれぞれ個性があり、お手本としていきたい方々ばかりで鏡にしていきたいと思います。

このセミナーを通し、自分が地域社会にどのようにかかわっていけるか、もう一度考え直して見たいと思います。

### 落 合 麻 理

今回の様なセミナーに参加するのは初めてであり、又、久しく野外活動からも遠ざかっていたので、多少不安を持ち、この余島を訪れました。到着すると、すでに多くの若者(！？)が集合しており、“いよいよ3泊4日のセミナーが

始まるのね”と密かに思っていました。しかし、この様な不安はその当日の夜のキャビンタイムや、次の日の田中先生の講演により、ぶっ飛ばされました。

昨夜のキャビンタイムはゲームや討論会などで過ごし、充実していました。普段、あんなに真面目に議論することではなく、このキャビンタイムによって、様々な立場における意見を聞くことが出来て、大変勉強になりました。話題は次々に変化しますが、どれも時代にあったものばかりで興味深い内容でした。普段は比較的、小さな世界に住んでいる私はこのキャビンタイムを通して、様々な立場の人達の意見を聞くという重要さを学びました。ここで得た仲間とは、これからも交換会もしたいし、又、私の住む香川でも、学生や社会人など様々な人が集まり、意見交換会をひらきたいと願っています。

私は、今まで親友と意見する事はありましたが、あえて立場の全く違う人と話し合うという事を忘れていたような気がします。それに気付かせてくれたのは、他でもない、このRYLAセミナーです。本当に参加して良かった。自己満足かもしれないけど、少し大きくなれたような気がします。

この自分自身の少しの変化を、一つの確立したものに出来るよう、これから頑張りたいと思います。ロータリアンの方、そしてカウンセラーの方、どうもありがとうございました。

### 石井宏子

私は神戸YMC Aの西宮ブランチでボランティアのリーダーをしており、今回のライラセミナーでは、いろいろな方面で青少年育成活動にたずさわっていらっしゃる方々と、お話をできたのは大変良い経験となりました。

私はロータリーや、このライラセミナーのことを何一つ理解しておらず、何も知らずに来ることになりましたが、何か一つでも課題を持って行かなければと思い、とにかく“いろんな人と話しをしよう” “いろんな人の考えを聴こう” そして “自分の意見を考えよう” という三点を持ってやってきました。まずこのセミナーに来て私の思ったことは “みなさん、なんて素敵なお方なんだろう” ということでした。それぞれ素晴らしいパーソナリティを持ってらっしゃ

り、また、自分の考えもしっかり持ってらっしゃる方々でした。夜のキャビンタイムでは“現代を生きる子供の問題” “青少年活動の中での親との問題” “P.T.A. 子供会の問題” “安全への問題” “夫婦の問題” ……etc. 数々のことについて話し合い、考え方聞くことが出来ました。そして、その中から共感できるもの、そうでないものを考えていき、自分の意見を明確にすることが出来ました。

このライラセミナーを通じ、新しい学び、新しい出会いをすることが出来たことを、ライラセミナーに参加を進めて下さった方、暖かく迎えて下さったロータリアンの方々、カウンセラーの方、余島キャンプ場の方々、聴講生の皆さん、そして……大切なC班の仲間に深く感謝し、お礼を言いたいと思います。どうもありがとうございました。

## D グループ



## 坂 東 奈緒子

3泊4日のR Y L Aセミナーに参加して、何を得たか……。私は、下岡先生との対談で、すごく考えさせられました。セミナースケジュールの中で3日目(3/31)のお昼から「思索の時間」という時間では、何も考えないで、友達と雑談をしていました。

先生のお話を聞きして、いろんな事を一度に言われ、内心グサッとした事も言されました。そして、頭の中がパニックで整理をするのに、時間がかかりました。その話を聞いたのは、もう合宿に来てから、あともう残りわずかな時でした。

落ち着いて考えてみると、自分自身をいかに軽視したこと、今までの男女交際のいいかげんさ、その他もろもろ……。反省する面がたくさんありすぎて、ほんとに自己嫌悪になりました。かなりきつい口調の言葉でしたが、すごく印象に残りました。

けれども、セミナーの意味がわかるまで時間がかかり、気がつけばセミナーが終わりに近づいて、なんかむなしい気持ちです。できるなら、来年もう一度このセミナーに参加をして、最初からやりなおしたいなあ……と思います。

## 尾 田 晴 子

私がライラのことを知ったのは丁度1年前。私の友達が第11回のライラセミナーに参加して、その子から“ライラはすごく楽しいよ。たくさんの友達ができるし、それに何と言っても、何とは言えないけど言葉には出来ないけど、すごくいいものをつかんで來ることが出来るよ”等々、たくさんの話を聞き、この第12回ライラセミナーの話があった時、すぐに“私を行かせて下さい”と言いました。でも期待にみちあふれる反面、全く知らない人達とすぐに仲良くなれるだろうか、すぐに帰りたくなったりしないだろうかと不安ももちろん、ライラへ参加することになりました。でもそんな不安も、余島の景色を見、同じ部屋の人人に会い、同じ班の人人に出会い、たくさんのカウンセラーのみなさん

にお会して、すぐに吹き飛んで行きました。そして楽しく勉強になる講義や、班での話を聞かせてもらい、すごくいい勉強をさせてもらいました。

特に3日目の“リーダーの条件”については、すごく考えさせられるところが多々ありました。私はいま、“青年団”に入ってて、今年は“副団長”を受けることになりました。でも、このライラにくるまで、すごくそのことで悩んでました。25人の団員をひっぱっていく力があるのだろうか、リーダー、副団長としてみんなにどれだけのことをあげられるだろうか、どういった副団長になればいいのだろうか等、悩みだしたらきりがない程でした。

でも、フォーラムで、“リーダーの条件”というものを勉強させてもらい、リーダーとしてのあり方、リーダーになるにはどういうことが必要か、ということがかわり、私の副団長としてのあり方、リーダーになるにはどういうことが必要か、ということがわかり、私の副団長としての、これからいろいろなリーダーをする上での道しるべが出来たような気がします。

そして、この4日間、同じ班の人とのいろんな話は、大変これからの生活に役立つと思います。とても勉強になったし、楽しかったです。

このような体験をさせてもらって、私は本当に幸せです。今日、町へ帰って、ぜひこのライラのことをみんなに話して聞かせて上げたいと思います。

4日間、みなさんありがとうございました。

できれば、来年もう一度このライラセミナーを受けることができれば光栄に思います。

D班のみなさん、小池先生、嘉納先生、本当にありがとうございました。このライラセミナーが、これから末長く続きますように。

みなさんがいつまでも幸せの中で生きていけますように…。

## 片 岡 麻 里

今日で、もうライラも最終日。あまりの早さにびっくりします。

今(A.M.8:50)切実に感じているのは“ねむい”ということです。ライラとはねむいものなんですね。

この4日間、講演を聞き、キャビンで皆と語り合い、自分にとってかけがえのない時をすごしたような気がします。

初日のオープニングパーティーでは、新しい友達と“かっこいい人いないかな”とチェックを入れ、レクリエーションでは、いろんなスポーツを楽しみ、夜は班でコミュニケーションをはかりました。息つくひまもないほどハードスケジュールだったけれど、とても充実した4日間でした。皆で“リーダーの条件とは”など今まで考えたことのないようなことを語り合い、とても新鮮な印象を受けました。

今はあまりの眠さのため、一刻も早く家に帰ってねむりたい反面、友達になれた皆との別れをとても悲しく思います。でも、また皆に会えることを楽しみにしてこれから日々を、このライラをいかして頑張っていきたいです。

### 倉 垣 ひろ子

今日で3泊4日が終わってしまいます。とてもさみしい気がしました。この中で学んだことは、心から通じ合える仲を作っていくということです。

私は人前で1秒たりとも話をしたこと�이ありませんでしたが、1分っていうくらいの長さ、みんなの前で話す事ができました。でも私には1時間くらい話をしていた気がしています。

本当の愛というものを学んだように思います。ここに来てやった行動や學習などのことを学校に帰って話をし、みんなにつたえたいと思います。一生懸命に取り組んでいく積極性ができたと思います。

心と心のつながりは、目を通して見ると、心を通し合って見ると違うなあーと思いました。

これからは、もっとたくさん部活(インタークト)などで今日学んできたことについてしっかりと指導していきたく思います。そして、又いつかロータークトとして頑張っていきたいと思います。本当の誠実な気持ちであせらず、今すべきことをしていきたいと思います。

これからこのセミナーでの人々の意見と共に、自己の向上を大きく育ててい

きたいと思います。

素直で素朴な心が日本には似合うのではないかと思います。うまく自分を生かしていきたいです。

### 佐　事　ユ　ミ

“R Y L A”とは、いったい何をするんだろう？

はっきりと理解しないままに余島に着き、しばらく緊張していました。

幅広い年齢層、いろんな職種の人達と3泊4日寝食を共にして、一つの事について考え、話し合い、またレクリエーションを楽しんだりして、本当に毎日が楽しく新鮮でした。

キャビンタイムで夜遅くまで飲んだり、食べたりしながら……一番「恋愛」について、異様な盛り上がりをみせましたが、いろんな考え方、ものの見方などがとびかって“あーこういう風に考える人もいるんだな”と新たに学ぶことができました。

今回このR Y L Aセミナーに参加し、いろんな人と触れ合い、たくさん得るものがありました。

この研修会に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

### 新　倉　美　香

何も云うことはありません。最高に良かった……。ただ、それだけです。昨年も参加しましたが、いつも心に残るのはお酒とおつまみを囲んで語りあったキャビンタイムでの一時です。

眠い目をこすりながら、共に語りあった皆さんに一言ずつメッセージを贈りたいと思います。

石木さん　かわいいかわいい政臣くんと奥さんを大切に。あの時は言えなかつたけど、石木さんは时任三郎タイプです!!

笠井さん 最後の夜のするどい突っ込み……アッパレでした。あと2、3日あれば、笠井さんのこと、もっとよく分かったのになあ……。もーつと知りたい存在でした。

金野くん クリーム入り炭酸せんべい、ヨロシク!! いつか有馬温泉でデートしましょうね。

関東くん 最後の夜のお話は、アッと驚く為五郎……でした。似顔絵描きの才能、認めます。(河野さんの絵なんてサイコー!!)

河野さん 彼女とお幸せに。聞いた時は、きつねにつままれたようで……。ん一残念!! かわいくてやさしそうなおめめが大好きでした。

小林さん 第二のリョウちゃんになって下さい。私達と巡り会ったんだから必ずなれる!!

高橋さん ビールをついで下さってどうもありがとうございました。柳葉敏郎カットの、風間トオルカットの高橋さんと同窓会でお会い出来る日を楽しみにしています。

長谷川さん 何にでも没頭しちゃうぶきっちょな真面目な性格、ほほえました。『大富豪』の“プレゼント事件”は忘れません。

林さん 教育についてもっとお話したかったです。いろいろな心配りありがとうございました。

松田さん 男は押しの一手ですよね。もっとお話したかったです。

尾田さん カメラ、その他いろいろお世話になりました。同じ班と分かったとき、何か運命みたいなを感じました。近くなのでまた会えることと思います。またその時まで……。

片岡さん かわいい容姿でしっかりした中身、いいなあ。うらやましいばかりです。

倉垣さん 陸上もいいけどソフトボールも、共に愛していきましょう。倉垣さんの色っぽい声が大好きでした。いつか一緒にビールをパーッと飲みましょう。

佐事ちゃん いろいろと気を遣わせてしまってごめんね。佐事ちゃんならきっといい彼氏ができるよ!! 今度会ったときは大食いくらべをしたい

なあ。

松田さん 松田さんの視野の広さには感心させられました。いつか青い瞳のダーリンと巡り会う日が来るのでは……？

三原ちゃん 三原ちゃんが私の後輩だったら、毎日いじめちゃう!! “ドドさん”は永遠に不滅ですね!! ねっ!!

坂東さん やさしい心、かわいいしゃべり方、人なつっこさ、私の理想です。ほんといい人すぐ出来るって!! ん～長谷川くんなんてどう? 長男だけど……。

栗田寛一あらため小池さん

うん、これからのお坊さんは小池さんみたいでなくっちゃ……。照れ屋で無器用な人柄がにじみ出てましたよね。今度、須磨寺ヘデートで行きますので、お茶、用意しておいて下さいね。いろいろとありがとうございました。

嘉納さん また、嘉納さんと話したのが嬉しかったです。最後の夜の討論は、教師を目指す私にとってもいい勉強になりました。昨年とは、また一風変わった最高のいいおみやげです。また同窓会でお会いしましょう。お世話になりました。

最後に石本さんの言葉をお借りして……。

私、みなさんのこと“アイ ラブ ユー”です!!

### 三 原 千恵美

嫌だなあ、行きたくないなあ、どうしょうという不安ばかりを胸に余島へ向かう道中が長いこと、長いこと、いざ余島へ着いた。一気に不安が押しよせ、キャビンに向かう道が本当に長く感じられた。不安と緊張のかたまりで始まったセミナーでした。その中で「わあ、不思議やなあ」と思ったのは、皆それぞれの県から、それぞれの職場や、それぞれの大学から来た様々な年齢の、ほとんど初対面の人達ばかりであるのに、自分から自然にとけこんでいける和やかな雰囲気があったことです。普通、初対面同志の人達ばかり集まるとよそよそ

しさが先に出るものですが、そういうことを感じる前に、私の中には和やかさが入ってきました。とても新鮮に感じました。

この4日間セミナーが始まって、私の場合RYLAについて何も知らない、わからない状態から始まったわけですが、様々なことを自分で考え、他の人の意見を聞き、問題提起、皆で考える。一つのことに対してこんな見方もあったのか、こんな考え方もあったのかと毎日充実した時間を送ることが出来たと感じるし、自分から何かに対してこんなにも夢中になり、かつ、それを充実させることが出来たということは、初めてであったように思われます。正直に言うと今この感想文を書いているけれど、この4日間の経験は進行中であり、このRYLAセミナーが終わってしまうことが、実感がないという状態です。

この4日間の中で人との出会いというものが、どれほど大切なのかということを身をもって経験しました。この人達とずっとつきあっていきたいです。それほど大きな意味のある出会いでした。

### 松田みさ

セミナーを通して、短期間にあまりにも多くのことを感じたせいか、正直言って混沌としている。ただ、この「混沌は、マイナスの意味での混沌でなく、「さあ、これから頑張るぞ！」という気持ちの高まり故に、「今までの自分のこんなところは良くなかった。」とか、「これからこういう場合は、もっとこういう風にすればいいのだな……。」等々と、次々と心の中にあふれ出て来るものに、自分自身で追いつけないうれしい混沌である。

私は、今まで、人と人との出会い、相互の理解、そして共に高め合って生きて行くことの大切さは、心の中から感じており、その気持ちから、人類学を現在専攻し、これからも続けていきたいと強く思ってきた。ただ、実生活の中では、「思ってはいても……。」という気持ちから、一步が踏み出せないでいた。

今回、講義をなさって下さった先生方、ロータリアンの方々や、そして、何より、共に語り合い生活した仲間から、有言無言のうちにハッとした。それぞれが「熱意」をもって、キラキラと頑張っているのを見て、「ようし、私も一

一つ一つ身近かなところから頑張るぞ！」と強く心に思った。

「頑張ばろうよ！ 私も頑張るしね！」と言って握り合った仲間の手(そしてその握力にこもったそのエネルギー)の感触が忘れられない。

4月の新学期から私は女子高の講師をすることになっている。この「混沌」を一つづつゆっくり解きほぐしながら、一步一步、どんどん勇気をもって、高校生とともに「熱く」頑張りたい。

## 林 浩 司

喜び。

多人数の前でスピーチをし、意見を述べる機会を得たこと。

フォーラムの中で我が班の意見発表する係になり、しどろもどろになり、大恥じをかいた。しかし、人生において多数の前で話しをすることが再々あるはずであり、修養の場として、経験としていいものを得た。

怒り。

自分自身の殻を破れなかったこと。

少し堅い、弱い自分、組織の中での自分の役割知らず。

哀しみ。

班活動の多くを、当班カウンセラー・小池氏、嘉納女史にたよってしまったこと。本来、自分達で考え、決め、自分達で行動すべきこと(=自由)が我々自身力不足で充分なし得なく、しかも両方の助けがなければ、時間的制約のもとでは成り立たないと思ってしまうこと。

楽しみ

この4日間のセミナー、余島での生活。

仕事を離れ、子供達の宝島のようである余島で、まるで夢の生活。

きっと現実の世界へもどると時差ボケを感じてしまう。こんな素敵なセミナー、いつまでも続けて下さい。決して忘れない。

今回受けた恩恵、地域に、仲間に、時代に伝え、生かさなくては……。  
どうもありがとうございました。

## 金 野 健

見知らぬ人と、四方を海に囲まれた孤島に集い、普段の生活と異なった生活(テレビ、ラジオ、新聞なし)を共にし、これから世代を担う者として、様々な知識、強調性等を大自然の中で学んでいくという機会にはじめて参加して、自由という時間を与えられ、この自由というものの退屈なことや、何をしてよいのかというつらさなど、自らの身体で体験できたことがよかったです。

この余島で身近かな期間だけれども、普段の生活との時間の流れ方の違いを発見し、普段の生活により無駄な時間の多いことをこの生活で知りました。

これからまた、普通の生活にもどり、有意義に計画をたてて過ごしていくたいなと思いつつ。

また、大自然の素晴らしさ、普段、見ることの出来ない自然の神秘性に心がうたれました。

## 松 田 政 則

この度は、RYLAセミナーに参加させていただき、ありがとうございました。私の様な者には場違いの研修の様で、最初はすごく不安でした、中川さんに引率していただいて余島に入り、見知らぬ仲間達とすぐうちにその不安も消え、楽しく有意義な日々を過ごす事ができました。

この研修で得た事を、これから色々な活動に生かしていきたいと思っています。この様なチャンスを与えて下さったロータリーの皆様に感謝します。

D班のみなさん、それに小池先生、嘉納先生、色々とありがとうございました。

## 関 東 誉 司

3泊4日の研修を終えて、新しい気持ちでいる気がします。

開講式からこちらへ短い時ではありましたが、何か自分の中に、今までなかった考え方、価値感を学びました。

同じD班で寝食を共にした仲間たちから3日間、意見交換などで聞いたり話したりしたこと、言葉の重みとして今は大切にしたいと思います。

自分の感想としては、講演でみにつけたことよりも、夜、語り明した仲間との話しが忘れられません。

不死鳥は灰の中からも復活するといいます。生焼けではダメなのです。そして自分もそのように灰の中からとはいいませんが、それに近い強さを身につけてたいといつも思っているのです。

そしてRYLAは、自分にそれを学ばせてくれました。

このセミナーで身につけた、多くの価値感を聞ける人間に少しは近付けたことだろうと思っています。

最後に、ガバナーとカウンセラー、そして我々の力になってくれた皆様、ごくろうさまでした。そしてありがとうございます。

### 長谷川 敏之

この余島で過ごして、とても楽しく、また講義を聞いたりしていい勉強になりました。とくに、同じ班の人達とすごしたレクリエーションタイムやキャビンタイムは、沢山の人と友達になれ、情報交換ができたことがよかったです。また、バズセッション、フォーラムでは、「リーダーの条件」というテーマについて話し合い、大変参考になりました。これから帰った後も、ここで学んだことを生かしていきたいと思っています。そしてここで出会った人達といつかまた会いたいと思いました。

### 石木 実

RYLAって何ですか？

この気持ちをかかえたまま参加して、大自然の中で人と語り合い、大いに楽しめて頂きました。

私には夢があります。このＲＹＬＡセミナーに参加させて頂いたことで、この夢を実現する近道になったように感じます。ＲＹＬＡセミナーで学んだことを生かし行動していこうと思う。指導して頂いた運営委員の方々、プレーな話しを聞いてくれたD班の皆さん有難うございました。

### 河野達弘

まず今回のライラセミナーで、人と人との出会い、触れ合いの場を提供し、3泊4日にわたって運営され、細心の心くばりをしていただいた関係者の皆さんには、とても感謝しております。ありがとうございました。

人と人との触れ合いの中で他人を知ることが、自分を知ることであり、自分を向上させていくことができるのだと思います。そういう意味で他人は自分の先生であり、特に今回とても多数の立派な先生と知り合えたことは、自分の人生においての宝ものとなりうるものです。しかし、それらを金庫の中に大事にしまいこんで保管しているようでは何にもならない。この余島を離れ地域に戻った時に惜しみ無く使用していくことが大事なのです。

そして、それらを使いきった時に、また余島に貯えにいってみようかと思えるような出会いがありました。それではまたいつか。

### 笠井伸彦

今日、最終日から初日を振り返ってみると、ロータリーの人達の話しが非常にマクロであったことに驚かされたことを思いだし、自分が小さい事に憂うのがバカラしくなったほどでした。

あれから4日間、ロータリアンの皆さん、講演会での大学教授、キャビンの友人など人生の先輩方に時々刻々とbrain-washされて、物事の見方、相互作用での理解認識等、意識下の面でも、数え切れないほど学ばされることがあったし、さらに洗練されている人の話しというのは、やはり面白いものだなあと感

じました。

最後に、お世話を下さった皆さん、どうもありがとうございました。

### 高 橋 洋 豪

私は愛媛県新居浜市の中萩公民館で公民館主事の仕事をしています。公民館活動の中でも「青年教室」などがあり、青少年の学習に関する計画の立案、遂行も重要な職務の一つです。

ところで今、公民館における青年活動は大きな転機を迎えていとと言えます。大学もなく、青少年がやりがいをもって働く就職口も完全に整備されているとは言えない、新居浜市では、青年の市外への流出が大きな問題となっています。いきおい青年活動も活発さを失い、中萩地区においても岸の下という部落にある青年団一つが注目するに値する活動を行っている、という状態です。青年を対象とする企画を立案しようとしても、ほとんど人間が集まらず、今年は「青年教室」自体が行われません。青年活動をもう一度活性化させるために公民館主事として行うべきことは何なのか？ そう考えてこの「R Y L A セミナー」に参加しました。

充実した講義、楽しいレクリエーション、そして夜を明かしての話し合い。いつまでもひっぱっていきたい素敵な思い出と、青年活動に対する取り組み方のヒントを得たような気がします。今日のことを忘れずに仕事に頑張っていきたいと思います。

### 小 林 隆 一

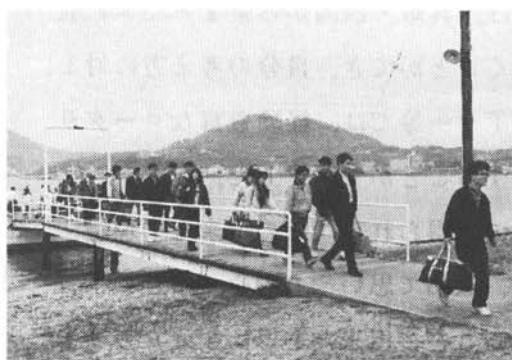
3月29日から始まったR Y L A セミナーも、今日4月1日で終わりになりました。不安を抱きながらやって来た私ですが、セミナーが進むにつれて、そのような不安もどこかにふっ飛び、大変楽しく4日間を過ごすことが出来ました。朝は、大学から先生方をむかえての講演により、新たな知識を得ることがで

き、レクリエーションでは、カヌーがひっくりかえり、全身ずぶぬれになると  
いうハプニングがあったものの、いろいろなスポーツを楽しみました。キャビ  
ンタイム、バズセッション、フォーラムでは、兵庫・四国から集まってきた立  
場の違う方々と触れ合い、様々な考えを聞くことができ、自分の考え方に対し、  
大変参考になりました。またキャンプファイアー等では、経験豊富なロータリ  
ーの方々から沢山素晴らしいお話を聞きすることができました。

このR Y L Aセミナーで私は普段の生活では得られることの出来ない環境・  
生活・数多くの友人を得ることができ、又、改めて思いやりの心、奉仕の精神  
について考える機会を得られたことは忘れる事の出来ない思い出となりま  
した。このような有り難い機会を与えて下さった方々に深く感謝しております。



# 生活の断片



不安と期待を胸に  
余島に到着



オープニングパーティ  
「オイシイものを食べてもらいたい」と  
余島の調理スタッフが腕によりをかけて



キャビンタイム  
受講生もロータリアンもひとつとなって



キャビンタイムの間「青少年問題について」  
ロータリアンも話し合いの会を持ちました。



3泊4日の棲家  
思い出のキャビン.....



みんなの影法師のナガーグ  
なった夕辺の浜を散歩



今夜の献立は?



キャンプファイヤー  
トーチに導かれて入場

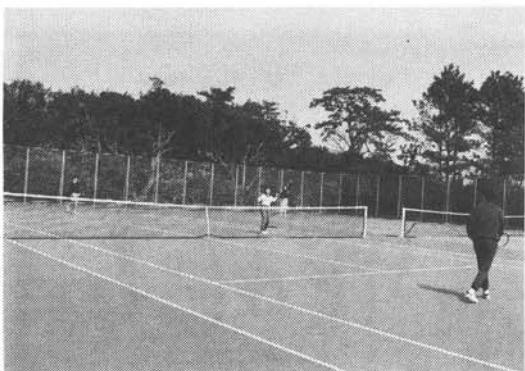


ゲームとキャンプリング  
近江岸さんの絶妙なリードで .....



フォーラム  
発表する人も聞く人もしんけんです

## レクリエーション



## あとがき

ライラ委員長 古 谷 武 雄

第12回を迎えたライラセミナーを満開の桜のもとで開催することができました。

ライラ経験ゼロの私が委員長に指名されてから、準備、そして本番と不安の毎日を過ごしてきました。しかし、「案ずるより生むが安し」といいますとおり、さすがは長い歴史を持つライラ。両地区ガバナー、顧問をはじめ青少年委員、ライラ委員の皆さんとの協力と励まし、本番ではディーン、副ディーン、そしてカウンセラーの皆さんの活躍でセミナーを成功裡に終えることができ、心よりお礼申し上げたいと思います。

準備段階での参加者募集も大きな課題でありましたが、事務局の京極さんをはじめ、皆さんの努力、そして各ロータリークラブの協力によって77名というたくさんの受講生を迎えることができました。セミナーの成功は、まさに皆さんの「奉仕と連帶」の実践の成果だと思います。セミナーのメインであります講義には、新野幸次郎神戸大学学長、田中国夫関西学院大学教授、美崎教正神戸大学教授が講師を快く引き受けて下さり、リーダーシップの大切さを各専門の分野からお話し下さいました。最高の指導者をお迎えすることができたことは、なにより幸せなことです。

3泊4日のセミナー。兵庫・四国の両地区で、それぞれ違った場で活躍する青年、そして異年齢の集団での合宿、研修は参加者一人一人、またロータリアン一人一人にとっても得難い体験であったと思います。多くの課題を抱えている私達の社会、そして世界へ、参加者一人一人がこれから豊かなリーダーシップを持って、大いに貢献してほしいと思います。最後にライラの大切さを理解して下さって参加して頂いた両地区の多くのロータリアンに心からの感謝を申し上げます。

## 第12回RYLAセミナー運営委員会

顧問 今井 鎮雄(第268地区パストガバナー 神戸西)  
梶浦 瞳一(第267地区パストガバナー 松山)

### R.I. 第267地区

伊藤 逸夫(東予)	元 廣 武 志(徳島北)
谷口 修平(松山西)	吉本 功(高知東)
平地 保治(小豆島)	吉原 哲男(高松)

### R.I. 第268地区

篠原 慶弘(姫路)	黒田 信次(相生)
古谷 武雄(神戸西)	三木 明(姫路)
山下 康一(姫路東)	三木 且視(龍野)
森 茂一(尼崎北)	小池 弘三(須磨北)
村田 伸一(明石南)	下岡 節三(川西猪名川)
井奥 寛泰(姫路南)	安平和彦(姫路)

ディーン 安平和彦(姫路RC)

副ディーン 深川純一(伊丹RC)

### カウンセラー

三木 明(姫路RC)	篠原 成行(北条RC)
小池 弘三(須磨北RC)	菊澤 建明(伊予RC)
嘉納 洋	尾木 郁美
林 真紀	松崎 範子



平成 2 年 3 月 29 日～4 月 1 日

主 催 R.I. 第 267 地区  
R.I. 第 268 地区

RYLA 運営委員会

開催地 西日本青少年野外活動センター  
(神戸 YMCA 余島センター)